

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第216集

龍岡城跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

長野県佐久市田口 西洋式城郭の石垣修理等に伴う発掘調査

2014.3

長野県佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第216集

龍岡城跡I・II・III・IV

長野県佐久市田口 西洋式城郭の石垣修理等に伴う発掘調査

2014.3

長野県佐久市教育委員会

|

報告書の概要



黒門西側石垣：東端から全景。道路を下げて根石まで出す。



六門排水口B面：修理前で石垣が孕んでいる。



旧プール撤去



市道改良舗装工事：上が現道路面、下が旧道路面である。

本書は、1866年（慶応二年十二月）に竣工した龍岡城跡（田野口陣屋）の六門排水口水門堰の石垣解体修理（TTTⅠ）・旧プール撤去作業（TTTⅡ）・黒門西側石垣の解体修理（TTTⅢ）・市道改修舗装（TTTⅣ）工事に伴う発掘調査の報告書である。

六門排水口：水門堰の石垣の修理に際して、築城時または、昭和8年の陸軍築城部本部の復旧工事そして、最終の修理年代の把握が課題であった。水門堰上面から2m下の石組暗渠の程まで太平洋戦争中の陶磁器、戦後の針金や空き缶、ガラス類、プラスチック製品がみられた。この暗渠の蓋石には石垣の天頂に使用した跳ね出し石の転用したものもあり、後世の手が入っている。石組暗渠の北下方に木桶状の材が粘土中にあり、築城時の工法を残していると考え、そのまま埋戻している。

約2m下あたりからは裏込めの内側に異なる粘土を挟んで防水する「はがね巻き工法」が残り、南岸の堤も同様な防水工法が施されている。

水門の南裾に発見された低い石垣は、水門の裾の崩壊を防ぐために築かれたとみられ、この南裾石垣は切開することなく埋めているので、時代は分からない。

2つの面の石垣の裏込めに築城時であろう一部残っている。南岸東側石垣の上から6段目の石列の裏込めで丁寧な造りである。また今回、解体しなかった堰下部の石垣は築城時のままの可能性もある。

資料からは昭和8年、昭和28年に石組暗渠までの修理、昭和48年には半年がかりの清掃作業が確認されている。

旧プールの撤去：攪乱の範囲内で撤去作業を納めるように行なったので、新たな成果は少ないが、プールの南端に排水用の石組暗渠が残っていた。佐久石をくり抜き凹型の樋を作り、接合は凹凸の溝を作り繋げている。扁平な石を載せて蓋としている。暗渠の周囲は粘土で巻いている。

黒門西側石垣：約100mにわたる石垣で、今回の解体では築城時の痕跡は確認されなかった。東端・西端の未解体部は残存の可能性がある。陶磁器は少ないが大量の瓦が出土しており、昭和35年の御台所の修理瓦、2トレンチからの昭和44年の百円の出土など昭和の後半の修理を物語っている。

市道改修舗装工事：現道路面下に旧道路面が確認される。西端の道路の側石には佐久石が転用して使用されていた。現道は旧道路面より高いところにある。



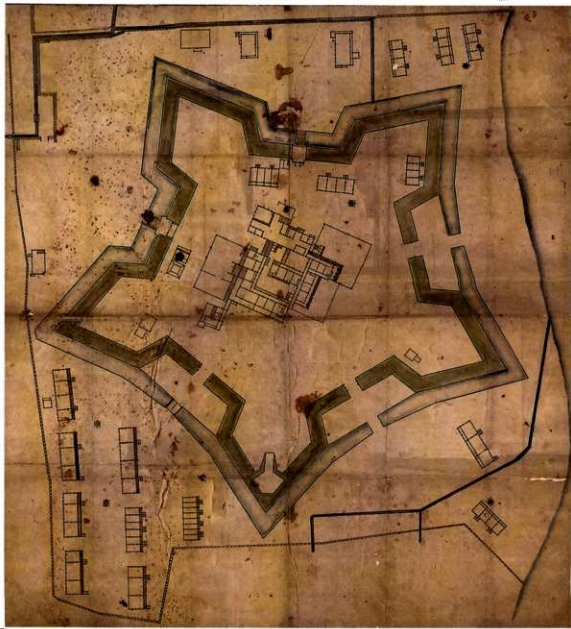
穴門排水口 解体修理後全景 (西より) 平成20年4月撮影



黒門西側石垣解体修理後 石垣東側全景（北西より） H22.12撮影



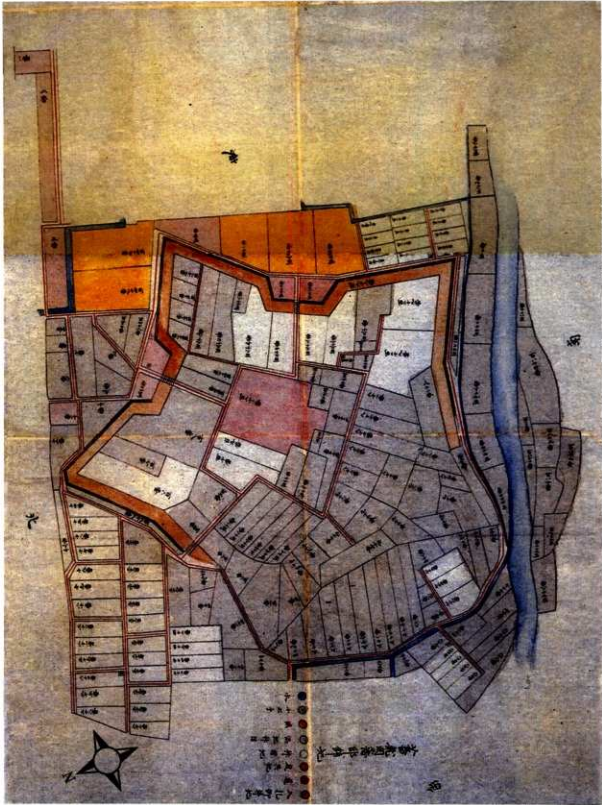
黒門西側石垣解体修理後 石垣西側全景（北西より） H22.12撮影



龍岡城設計図

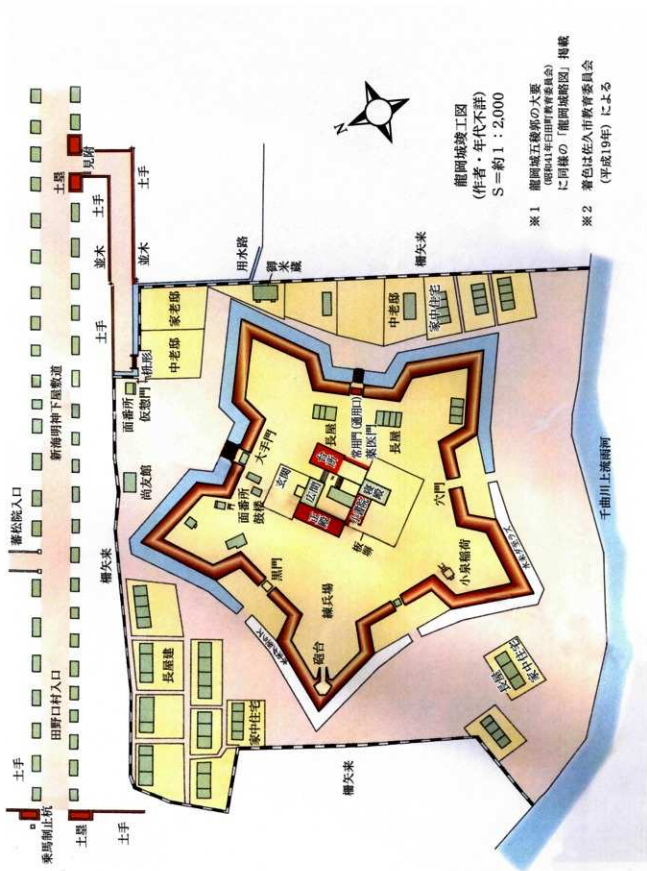
S = 約 1 : 2,000

龍岡城大工棟梁堀内家伝承図 (複製)
平成24年堀内幸重氏より寄贈
佐久市所有



「龍岡城一明治初年(54×103cm)一」

明治初年長野縣村繪地圖大鑑 I 東信編
昭和60年6月30日刊行 郷土出版社
(明治7年(1874)の頃、明治政府が各府県に提出させた資料)





戦時下の統制陶磁器、軒瓦



700は幕末から明治初頭頃の皿である。

例 言

1. 本書は史跡 龍岡城跡にかかわる以下の埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
穴門排水口（堰）石垣修理工事に伴う発掘調査 龍岡城跡Ⅰ（TTTⅠ）
旧プール撤去工事に伴う発掘調査 龍岡城跡Ⅱ（TTTⅡ）
黒門西側石垣修理工事に伴う発掘調査 龍岡城跡Ⅲ（TTTⅢ）
市道改良舗装工事に伴う発掘調査 龍岡城跡Ⅳ（TTTⅣ）
2. 調査原因者 佐久市教育委員会文化財課（龍岡城跡Ⅳは土木課）
3. 調査主体者 佐久市教育委員会文化財課
4. 遺跡名および所在地
史跡 龍岡城跡（たつおかじょうせき）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（略称TTT）
長野県佐久市田口3000地
5. 発掘調査期間及び調査面積と石垣修理工期間
(平成17年)
2005.11.20 穴門排水口（堰）石垣調査業務 着工
(公財)文化財建造物保存技術協会に委託
協力者 調査工事 小林石材工業（東京都港区麻布）
測量図化 バスコ長野支社 東日本事業部技術文化財課
・調査工事であらわした各石垣面の立面と平面を写真測量し、図面化する。
・排水口石垣周辺の平面（36m×30m）を測量し、図面化する。
2005.12.19 穴門排水口（堰）石垣調査業務 完了
(平成18年)
2006.7.4 (公財)文化財建造物保存技術協会（以下「文建協」と記す）石垣の修理範囲確認
業務等を行う。
2006.8.7～2007.12.19 穴門排水口発掘調査
2006.10.27 「排水口石垣レーザー測量図化業務」（株）みすず総合コンサルタント
(平成19年)
2007.9 「龍岡城跡Ⅱ 現況測量図」（プール測量図）イー・ティー・シー企画
2007.9.14～2008.3.4 旧プール撤去工事に伴う発掘調査
(平成20年度)
2008.10.6～10.19 黒門西側石垣修理に伴う発掘調査（Ⅰ工区）
2008.11 「黒門西側石垣調査（測量図化）業務」エイベクス測量設計
2008.12.1～3.24 市道改良舗装工事（TTTⅣ）
(平成21年度)
2009.10.19～12.15 黒門西側石垣解体・積工（Ⅰ工区）
2009.11 「黒門西側石垣測量図化業務」有限会社タイム社
(平成22年度)
2010.8.26～2010.9.7 黒門西側石垣修理に伴う発掘調査（Ⅱ工区）
2010.9.20～2010.12.2 石垣解体・積工（Ⅱ工区）
2010.10. 「黒門西側石垣測量図化業務」有限会社タイム社
2010.12.8.9 土塁の復旧
6. 本書に掲載した地図は佐久市発行の都市計画図（1：2,500）、国土地理院発行（1：25,000）、佐久市教育委員会作成の遺跡詳細分布地図である。また、掲載している城郭の平面図は各図にその出自を記載している。
7. 本書の作成は主として森泉かよ子が行い、図面修正・割り付けは細谷秀子、デジタルトレースは

上原美千代・柳沢亜矢子、拓本柳沢亜矢子、遺物実測は堺益子・柳澤孝子が担当して行った。

8. 六門排水口使用の図面は文化財建造物保存協会（測量図化 パスコ長野支社）・（株）みずび綜合コンサルタント・文化財課手取り図を合成している。基本は文化財建造物保存協会（以下「文建協」）を使用し、石垣断面図の文建協にないものをみずび綜合の図から使用している。石垣の裏込め・石組暗渠・南裾石垣・C面の西端3個の石・土質図は文化財課の手取り図面である。

9. 黒門西側石垣、旧プールの測量図は以下の通りである。

平成19.9 「龍岡城跡Ⅱ 現況測量図」（プール測量図）イー・ティー・シー企画

平成20.11 「黒門西側石垣調査（測量図化）業務」 エイベクス測量設計

平成21.11 「黒門西側石垣測量図化業務」 有限会社タイム社作成（Ⅰ工区区分）

平成22.10 「黒門西側石垣測量図化業務」 有限会社タイム社作成（Ⅱ工区区分）

掲載するにあたり、

・郭内は基本として当初の平成19年作成の現況測量図を使用している。

・石垣の立面図・断面図は2社あり、平成20年度の測量図は、道路下の部分は図化されていない。

平成21・22年のタイム社は平成20年のエイベクス社のデータに道路下の石積を合成して図を作成している。したがって石垣の図面はタイム社を使用している。

なお眺ね出し石の平面図は手取りである。

10. 第三章の第1節、第V章の第1節の文章は

財団法人 文化財建造物保存技術協会の

平成18年2月「平成17年度 史跡龍岡城跡排水口石垣調査業務成果品」

平成21年1月「平成20年度 史跡龍岡城跡黒門西側石垣修理工事実施設計業務成果品」

から抜粋している。

また第三章の第2節、第V章の第3節の文章は

財団法人 文化財建造物保存技術協会の

平成18年9月「平成18年度 史跡龍岡城跡排水口石垣修理工事実施設計業務成果品」

平成20年3月「平成19年度史跡龍岡城跡排水口石垣修理工事監理業務成果品」

平成21年1月「平成20年度 史跡龍岡城跡黒門西側石垣修理工事実施設計業務成果品」

平成22年2月「平成21年度 史跡龍岡城跡黒門西側石垣修理工事実施設計業務成果品」

施工業者丸山工務店 竣工書類

「平成21年度 史跡龍岡城跡黒門西側石垣工事 平成21年9月8日～22年2月26日」

「平成22年度 史跡龍岡城跡黒門西側石垣工事 平成22年度8月10日～23年3月25日」

から抜粋している。

11. 戦争中の統制陶器について多治見市美濃焼ミュージアムには多数の資料を提供していただきました。ここに記して御礼申し上げます。

12. 本遺跡の遺物等の資料は佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡 例

1. 挿図中の遺構の縮尺は1/100である。異なる場合は図中に明記してある。
2. 挿図中の遺物の縮尺は、陶磁器1/4、石器は1/4と1/6、鉄製品1/2である。
3. 図版中の遺物写真の縮尺は鉄製品ほぼ1/2、陶磁器1/4、石製品1/4・1/6である。異なる場合は明記してある。
4. 挿図中のスクリーントーンは各図の凡例にしたがっている。
5. 排水口では通水部のB・G面の上面の石の「葛石」を「葛」と略してある。黒門西側石垣では 略号K-眺出し石、T-天端石、N-根石を使用している。天端石と根石の間の石は「中石」としている。

目次

報告書の概要

巻頭図版

例言

凡例

目次

第I章 発掘調査の概要	1
第1節 発掘調査の経緯	1
第2節 調査体制	2
第3節 史跡龍岡城跡I・II・III工程表	3
第II章 遺跡の立地と環境	5
第1節 自然環境・基本層序	5
第2節 歴史的環境	5
第3節 龍岡藩の歴史	10
第4節 龍岡城跡の変遷	12
第5節 龍岡城跡周辺の調査記録	16
史料1 昭和十年刊行『南佐久郡の古城址調査』龍岡城跡	18
史料2 昭和八年十月「龍岡城復旧計画要領書」陸軍築城部本部	19
史料3 「龍岡城五稜郭の歴史」田口小学校の生徒が作った年表	20
史料4 「龍岡城址文化財指定区域図」（平成2年）	21
第III章 六門排水口石垣修理工事に伴う調査	22
第1節 六門排水口の概要	22
第2節 六門排水口石垣修理工事の経過と結果	26
第3節 六門排水口発掘調査結果	39
第IV章 旧プール撤去工事に伴う調査	54
第1節 旧プール撤去工事に伴う発掘調査の経過	54
第2節 旧プール撤去工事に伴う発掘調査トレンチ	54
第3節 砲台南石垣にある石組暗渠	54
第V章 黒門西側石垣修理工事に伴う調査	59
第1節 黒門西側石垣の概要	59
第2節 黒門西側石垣修理工事に伴う土塁発掘調査の経過と結果	63
第3節 黒門西側石垣修理工事の経過と結果	70
第4節 黒門西側石垣発掘調査の結果	87
第VI章 遺物	87
第VII章 市道改良舗装工事に伴う調査	89
引用参考文献	91

付表目次

第1表 龍岡城跡周辺遺跡一覧表	6
第2表 龍岡城跡復旧工事経費仕譯書	19
第3表 龍岡城跡I・III 石材一覧表	115
第4表 龍岡城跡出土遺物一覧表	121

挿図目次

第1図	史跡 龍岡城跡位置図	1
第2図	龍岡城跡基本層序模式図	5
第3図	周辺遺跡分布図	7
第4図	史跡 龍岡城跡位置図	11
第5図	昭和初期の龍岡城跡図	18
第6図	史跡 龍岡城跡文化財指定区域図 (平成2年)	21
第7図	六門排水口全体図	23
第8図	六門排水口石垣現況図	41
第9図	六門排水口トレンチ設定図	43
第10図	六門排水口(1)石垣上面と裏込め	44
第11図	六門排水口(2)石垣暗渠	45
第12図	六門排水口(3)南壁石垣・F・Gト レンチ	46
第13図	六門排水口(4)土質図	47
第14図	六門排水口 H面築城時裏込め図	48
第15図	六門排水口 石材番号一覧図	49
第16図	六門排水口 破損・修復石材区分 図	50
第17図	六門排水口 石積工(1)	51
第18図	六門排水口 石積工(2)	53
第19図	旧プールの撤去に伴う全体図・トレン チ配置図	55
第20図	石組暗渠(旧プール撤去時検出)	58
第21図	黒門西側石垣全体図	61
第22図	黒門西側 土塁トレンチ設定図	64
第23図	黒門西側 土塁1トレンチ	65
第24図	黒門西側 土塁2トレンチ	66
第25図	黒門西側 土塁3トレンチ	67
第26図	黒門西側 土塁4トレンチ	68
第27図	黒門西側 土塁5トレンチ	69
第28図	黒門西側石垣 横断面設定図	79
第29図	黒門西側石垣修理前A地点現況図(1)	80
第30図	黒門西側石垣修理前 B・C地点現況図(2)	81
第31図	黒門西側石垣修理前 D～G地点現況図(3)	82
第32図	砲台南側石垣H1地点現況図	83
第33図	黒門西側石垣 番号・破損・修復石材 区分図(1)	84
第34図	黒門西側石垣 番号・破損・修復石材 区分図(2)	85
第35図	黒門西側石垣 番号・破損・修復石材 区分図(3)	86
第36図	市道改良舗装工事 位置図	89
第37図	市道改良舗装工事 B地点	89
第38図	市道改良工事 A地点	90
第39図	出土遺物 茶碗(1)	92
第40図	出土遺物 茶碗(2)	93
第41図	出土遺物 茶碗(3)	94
第42図	出土遺物 湯呑	96
第43図	出土遺物 盃	99
第44図	出土遺物 徳利	100
第45図	出土遺物 皿(1)	101
第46図	出土遺物 皿(2)	102
第47図	出土遺物 井	103
第48図	出土遺物 壺・鉢	104
第49図	出土遺物 漆鉢	105
第50図	出土遺物 醤油甕	106
第51図	史跡 龍岡城跡御台所瓦設計図 (昭和35年)	107
第52図	出土遺物 瓦(1)	108
第53図	出土遺物 瓦(2)	109
第54図	出土遺物 金属製品	111
第55図	出土遺物 銭貨 拓影図	113
第56図	出土遺物 石製品	114

図版目次

報告書の概要	黒門西側石垣・六門排水口	89
旧プールの撤去・市道改良舗装工事		89
巻頭一	六門排水口(解体修理後)全景	90
巻頭二	黒門西側石垣(東側)・黒門西側石垣(西側)	92
巻頭三	龍岡城設計図	93
巻頭四	龍岡城明治初年頃の図	94
巻頭五	龍岡城竣工図	95
巻頭六	戦時下の純和風磁器、軒瓦	96
巻頭七	黒門西側石垣修理 地点別出土遺物	97
史跡 龍岡城跡修理写真(S46、S49、S51)		98
黒門石橋架替工事写真		99
田口村五輪塔の石室(西北隅(昭和五年頃))		100
六門排水口修理前		101
六門排水口(仮設・発掘調査)		102
六門排水口(発掘調査)		103
六門排水口(発掘調査・解体工事)		104
六門排水口(解体工事)		105
六門排水口(解体工事・石組暗渠の検出)		106
六門排水口(発掘調査)		107
六門排水口(発掘調査)		108
六門排水口(積工工事)		109
六門排水口(F・G面解体工事)		110
六門排水口(積工工事・竣工)		111
六門排水口 B面石垣 築城時の裏込め		112
六門排水口 B・D・E・G面石垣		113
六門排水口 Gトレンチ		114
六門排水口 Cトレンチ		115
六門排水口 H面石垣6列目に残る築城時の裏込め		116
六門排水口 A・B面、B・C面石垣		117
旧プールの撤去 トレンチ・撤去・整地		118
旧プールの撤去 トレンチ		119
旧プールの撤去 トレンチ		120

第 I 章 発掘調査の概要

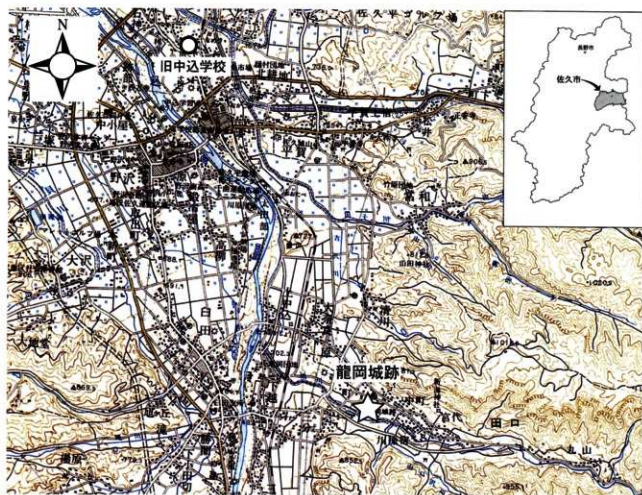
第 1 節 発掘調査の経緯

史跡龍岡城跡は、千曲川支流の雨川の流れる沖積地であって、函館五稜郭とともに日本に二つしかない様式の星形砲壘城郭である。昭和 9 年 5 月 1 日に国の指定史跡とされている。築城は元治元年三月（1864）より着工して慶応三年四月（1867）に竣工している。築城から 140 年近くを経過し、経年による石垣の孕みが大きくなり、小規模な維持修理では困難な状況となっている。そのため全体的な整備計画をたて、年次計画による総合的な補修工事を行う必要性が生じている。

また大手門や通用門の復元整備等を行い、周辺整備を含めて将来的には史跡公園として整備を図ってゆきたいところである。

ことに損傷が著しい龍岡城南側に位置する排水口石垣と黒門西側の石垣を平成 17 年度から平成 20 年度の四年計画で国の補助金を使って修理することとなった。

石垣を修理保存するに際し、昭和八年の陸軍築城部による五稜郭復旧工事の痕跡確認、その他にどのような修理がなされたか、また築城当時の様子が残存しているのか調べる必要性が生じたのである。



第 1 図 史跡 龍岡城跡位置図

第2節 調査体制

(平成17年度)		(平成18年度)		(平成19年度)	
教育長	三石 昌彦	教育長	三石 昌彦	教育長	三石 昌彦
教育次長	柳沢 健一	教育次長	柳沢 義春	教育次長	柳澤 義春
文化財課長	中山 悟	文化財課長	中山 悟	社会教育次長	山崎 明敏
文化財保護係長	高村 博文	文化財保護係長	高村 博文	文化財課長	中山 悟 <small>(6-7月調)</small>
文化財保護係	荻原 留美	文化財保護係	荻原 留美	文化財保護係長	高柳 正人
文化財調査係長	高柳 正人	文化財調査係長	高柳 正人	文化財保護係	荻原 留美
調査担当者	出澤 力	文化財調査係長	高柳 正人	文化財保護係	高橋 浩一
文化財調査係	赤羽 太郎 <small>(~9月)</small>	文化財調査係	羽毛田卓也	文化財調査係長	三石 宗一
林 幸彦・神津 格 <small>(10月~)</small>		文化財調査係		調査担当者	羽毛田卓也
須藤 隆司・羽毛田卓也		林 幸彦・神津 格		文化財調査係	
小林 真寿・上原 学		須藤 隆司・羽毛田卓也		林 幸彦・神津 格	
富沢 一明・出澤 力		小林 真寿・上原 学		須藤 隆司・羽毛田卓也	
		富沢 一明・出澤 力		小林 真寿・上原 学	
				富沢 一明・出澤 力	
(平成20年度)		(平成21年度)		(平成22年度)	
教育長	木内 清	教育長	木内 清 <small>(~5月)</small>	教育長	土屋 盛夫
社会教育部長	内藤 孝徳	社会教育部長	土屋 盛夫 <small>(6月~)</small>	社会教育部長	工藤 秀康
社会教育次長	柳沢 本樹	社会教育部長	内藤 孝徳 <small>(~6月)</small>	文化財課長	森角 吉晴
文化財課長	森角 吉晴	社会教育次長	工藤 秀康 <small>(7月~)</small>	文化財保護係長	森角 吉晴
文化財保護係長	酒井 順一	文化財課長	金澤 英人	文化財保護係	酒井 順一 <small>(~9月)</small>
文化財保護係		文化財課長	森角 吉晴	文化財保護係	岡部 政也 <small>(10月~)</small>
文化財調査係長	須久美子	文化財保護係長	酒井 順一	文化財保護係	佐々木ふく江
調査担当者	高橋 浩一	文化財調査係長	佐々木ふく江	文化財調査係長	須久美子
文化財調査係	三石 宗一	文化財調査係長	須久美子	調査担当者	三石 宗一
林 幸彦・羽毛田卓也		文化財調査係	三石 宗一	文化財調査係	羽毛田卓也
須藤 隆司・神津 格		文化財調査係	羽毛田卓也	文化財調査係	並木 節子
小林 真寿・上原 学		文化財調査係	並木 節子	林 幸彦・井出 泰章	
富沢 一明・出澤 力		林 幸彦・羽毛田卓也		須藤 隆司・羽毛田卓也	
		須藤 隆司・神津 格 <small>(~9月)</small>		小林 真寿・上原 学	
		小林 真寿・井出 泰章 <small>(9月~)</small>		富沢 一明・出澤 力	
		富沢 一明・上原 学			
		出澤 力			
(平成23年度)		(平成24年度)		(平成25年度)	
教育長	土屋 盛夫	教育長	土屋 盛夫	教育長	土屋 盛夫
社会教育部長	伊藤 明弘	社会教育部長	伊藤 明弘	社会教育部長	矢野 光宏
社会教育次長	藤牧 浩	文化財課長	吉澤 隆	文化財課長	三石 宗一
文化財課長	吉澤 隆	文化財保護係長	岡部 政也	文化財保護係長	羽毛田卓也
文化財保護係長	岡部 政也	文化財保護係	井出 幸恵 <small>(~9月)</small>	文化財保護係	大工原こずえ <small>(~5月)</small>
文化財保護係企画員	井出 幸恵	文化財保護係	比田井清美 <small>(10月~)</small>	文化財保護係	高橋 宏美 <small>(10月~)</small>
文化財保護係	佐々木ふく江	文化財保護係	佐々木ふく江	文化財調査係長	佐々木ふく江
文化財調査係長	三石 宗一	文化財調査係長	三石 宗一	調査担当者	比田井清美
調査担当者	羽毛田卓也	文化財調査係長	羽毛田卓也	文化財調査係	森泉かよ子
文化財調査係	並木 節子	文化財調査係	並木 節子	文化財調査係	
須藤 隆司・井出 泰章 <small>(~9月)</small>		文化財調査係	須藤 隆司・神津 一明	須藤 隆司・神津 一明	
小林 真寿・神津 一明 <small>(10月~)</small>		文化財調査係	小林 真寿・並木 節子 <small>(~3月調)</small>	小林 真寿・久保浩一郎	
富沢 一明・出澤 力 <small>(~5月調)</small>		文化財調査係	富沢 一明・久保浩一郎	富沢 一明	
上原 学・林 幸彦 <small>(~3月調)</small>		文化財調査係	上原 学	上原 学	

第3節 史跡龍岡城跡Ⅰ（穴門排水口）・Ⅱ（旧プール撤去）・Ⅲ（黒門西側石垣） 工程表

穴門排水口（堀）（TTTⅠ）

調査工事期間 平成17年11月20日～平成17年12月19日
 発掘調査・石垣修理期間 平成18年8月7日～平成20年3月18日

平成17年度事業
 （平成17年）

調査工事	2005/11/20	2005/12/19											
着工	●												
完了													

平成18年度事業
 （平成18年）

発掘調査		2006/8/7	2006/9/6	2006/10/23	2006/11/22				2007/2/2	2007/2/20
		●	開始	再開	終了	●			再開	終了
石垣工事			中断		2006/12/16	2007/1/9	2007/1/13		2007/1/22	2007/1/29
					●	●	●		●	●
					施工打合せ	仮設水替工	石垣解体工	石垣積工	積工完了	

（平成19年）

発掘調査	2007/4/17	2007/4/26								
再開	●	●								
終了										
石垣工事	2007/4/17	2007/5/8	2006/5/9	2007/5/28	2007/5/31					
	●	●	●	●	●					
石垣解体工	解体完了	石垣積工	石垣積・盛土完了	破工						

平成19年度事業
 （平成19・20年）

石垣工事	2007/10/4	2007/12/26～	2008/1/19	2008/1/20	2008/2/18	2008/2/19,20	2008/2/26	2008/2/29	2008/3/18
	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	現地打合せ	資材搬入・仮設工	石垣解体工	仮積	積工終了	堀底粘土工	植生土盛・土盛		竣工

旧ブール撤去に伴う発掘調査 (TTT II)

発掘調査期間

平成19年 9月14日～平成20年 3月 4日

平成19年度
(平成19・20年)

試掘調査	2007/9/14	2007/10/17	2008/1/1	2008/1/15	2008/2/1	2008/3/4	
	開始	終了	旧ブール撤去	旧ブール下調査・石垣暗渠調査	⑦トレ新排水口		

黒門西側石垣工事・発掘調査 (TTT III)

発掘調査・石垣修理期間

平成20年11月 4日～平成22年 3月14日

平成20年度事業
(平成20年)

土壁トレン子	2008/11/4	2008/12/24					
	開始	終了					
石垣工事	2008/7/8	2008/8/25～12/4					
	着手打合せ	仮設計画打合せ					

平成21年度事業
(平成21・22年)

I 工区

発掘調査	2009/10/6	2009/10/14					
	開始	終了					
石垣工事	2009/9/16	2009/9/25～	2009/10/19	2009/10/21	2009/11/3	2009/11/20	2009/12/15
	着手打合せ	工事着手	土壁・跳ね出し石解体工	土壁・跳ね出し石解体工	土垣積工	仮積み	積工終了
							撤去
							I 工区竣工

平成22年度事業
(平成22・23年)

II 工区

発掘調査	2010/8/26	2010/9/7					
	着手打合せ	調査					
石垣工事	2010/9/17～	2010/10/3	2010/12/2	2010/12/8	2010/12/9	2011/3/14	
	解体準備	土壁・跳ね出し石解体工	土垣積工	積工完了	土壁の復旧	出来形検査	竣工

第Ⅱ章 遺跡の立地と環境

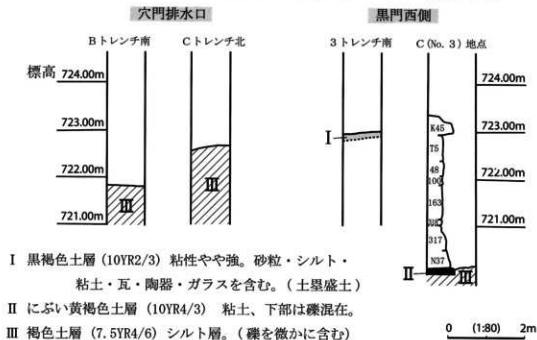
第1節 自然環境・基本層序

佐久市は長野県中位の東に位置し、市の東側は群馬県と接している。史跡龍岡城跡は、佐久市白田地区田口の千曲川の東にあって、その支流である雨川の北の平坦地、標高723m内外にある。

龍岡城跡周辺の表層地質は千曲川と雨川沿いの新生代四期の新しい堆積岩類の扇状低地であり、龍岡城跡付近は砂礫台地となっている。(2013.3『史跡 龍岡城跡 保存計画書』p11)

龍岡城跡の石垣に使用している石は、通称「佐久石」と呼ばれる溶結凝灰岩である。

溶結凝灰岩は佐久市内山峡に模式的に露出し、東部山地西半に広く分布し、南は大日向の抜井川の右岸まで広がっている。岩石は紫蘇輝石安山岩ないし石英安山岩であるが、多孔質で軟らかく、普通の溶岩より凝灰岩の部分が多い。柱状節理がよく発達しているため、絶壁を作り、山頂部はきり立って特異な山容をなしている。(佐久市志 自然編p62) 軟質で加工しやすい石材である。



第2図 龍岡城跡基本層序模式図

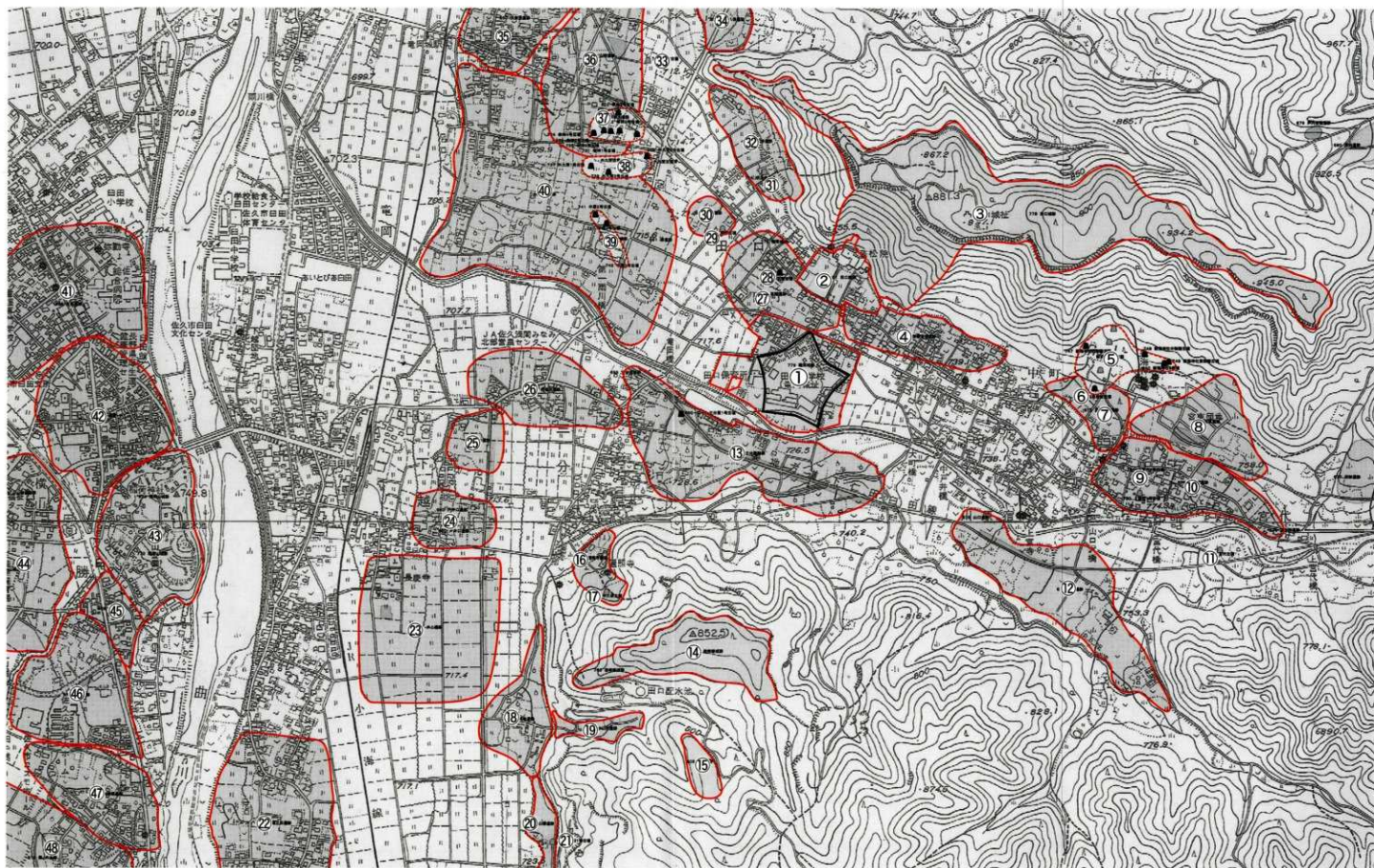
第2節 歴史的環境

龍岡城跡は旧白田町田口地区にあり、平成17年4月1日に旧佐久市・旧望月町・旧浅科町と合併し所在地は佐久市田口となっている。城跡は雨川右岸の河岸段丘上に立地している。その右岸の山際は㊿大工原遺跡、㊾宮東遺跡、㊿英田地畑遺跡、㊿神原道場遺跡、㊿田口館跡、㊿五庵遺跡、㊿割塚遺跡、㊿明法寺遺跡、(ここに石材を採集した石切場がある。)㊿恵下久保遺跡と遺跡が連続している。時代は縄文から平安時代の遺跡である。

これらの遺跡群には古墳が構築されており、㊿上宮代古墳、㊿英田地畑古墳、㊿新海神社古墳群、

第1表 龍岡城跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	種別	年代	所在地	出土遺物	備考	佐久市 遺跡番号
①	龍岡城跡	城館跡	近世	田口3000			779
②	田口館跡	城館跡	奈良・平安				801
③	田口城跡	城館跡	中世				778
④	神原遺場遺跡	縄文	～奈・平				672
⑤	新海神社古墳群	古墳	古	宮代・英田地 ・宮の沢		石田町埋蔵文化財調査報告書第11集 幸神古墳群	747～749・ 810
⑥	英田地畑古墳	古墳	古	宮代・英田地畑	土師器・須恵器・鉄 製品・銅製品・玉		746
⑦	英田地畑遺跡		古～中	宮代・英田地畑	土師器・須恵器・刀		673
⑧	宮東遺跡	散布地・集 落跡	縄・古～中	宮代・宮東	土師器・須恵器・石器		674
⑨	上宮代古墳	古墳	古	上宮代・宮代			750
⑩	大工原遺跡	散布地・そ の他	縄～古・奈・平	宮代・上ノ平	土師器・須恵器		675
⑪	宮代古墳	古墳	古	主計原			806
⑫	山口遺跡	散布地・集 落跡	縄・古・奈・平	河原宿・菅沢・ 山口	縄文土器・土師器・ 須恵器・石器		676
⑬	三分遺跡群	散布地・集 落跡・古墳	縄・古・奈・平・近	三分・塚塚・芝 宮・北手塚	縄文土器・土師器・ 須恵器・石器	F2006 長野県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書73 三分遺跡	695
⑭	岩崎磐城跡	城館跡	中世	三分		『千曲之真砂』『編年集成』	780
⑮	いづな	城館跡	中世	いづな			805
⑯	遍照寺遺跡		縄・古・中	三分・寺久保	弥生土器・土師器・ 石器		692
⑰	寺久保古墳	古墳	弥・中	寺久保			804
⑱	荒巻遺跡		弥～中	三分・荒巻・薬 田田	弥生土器・土師器・ 石器内瓦土器・陶器		693
⑲	小山沢遺跡		縄	三分・小山沢	石器		694
⑳	山蔭遺跡		弥～中	入沢・山蔭	弥生土器・土師器・須恵器・ 灰陶器・土製品・陶器		696
㉑	山蔭1号古墳	古墳	古	入沢・山蔭	勾玉		752
㉒	観正田遺跡		奈・平・中	三条・観正田	土師器・土師質土器		716
㉓	井上遺跡	散布地・集 落跡	縄～奈・平	三分・上の田			691
㉔	戸井口遺跡		縄・古・奈・平	三分・上川原・ 下川原	須恵器・石器		690
㉕	田中遺跡		縄～奈・平	三分・中川原	弥生土器・土師器・ 須恵器・石器		689
㉖	西塚田遺跡		古・奈・平	三分・西塚田	土師器・須恵器		688
㉗	五處遺跡		縄・古・奈・平	下町・五處	須恵器・石器		671
㉘	五處古墳	古墳	古	下町・五處	太刀・刀・瓦片・鉄線・耳 環・管玉・切子・玉・産蓮	石田町埋蔵文化財調査報告書第11集 幸神古墳群	745
㉙	割塚古墳	古墳	古	下町・割塚			743
㉚	割塚遺跡		弥～奈・平	下町・割塚	土師器・須恵器・石器		670
㉛	明法寺古墳	古墳	古	下町・明法寺			744
㉜	明法寺遺跡		縄～奈・平	下町・明法寺	弥生土器・土師器・ 須恵器・石器	採石場あり	669
㉝	山崎古墳	古墳	古	大奈良・山崎	勾玉		730
㉞	恵下久保遺跡	散布地	奈・平	恵下久保			800
㉟	大奈良遺跡		縄～奈・平	大奈良・金石他	縄文土器・弥生土器・ 土師器・須恵器・石器		660
㊱	山崎遺跡	散布地・集 落跡	弥～奈・平	大奈良・山崎	弥生土器・土師器・ 須恵器・金環		662
㊲	幸神古墳群	古墳	古	原・幸神	太刀・刀・刀子・刀具・鉄線・鉄 環・耳環・管玉・土師器・須恵器・土 製品	石田町埋蔵文化財調査報告書第11集 幸神古墳群	731～736
㊳	外九間古墳群	古墳	古	原・外九間	土師器・須恵器	石田町埋蔵文化財調査報告書第11集 幸神古墳群	737～739
㊴	中原古墳群	古墳	古	原・中原	太刀・刀・刀子・刀具・鉄線・ 耳環・土師器・須恵器	石田町埋蔵文化財調査報告書第11集 幸神古墳群	740～742



第3図 周辺遺跡分布図(1:10,000)

④①	ほらいりき 原遺跡	散布地・集 落跡	弥～奈・平	原・切合・幸神 ・中原他	縄文土器・土師器 ・須恵器	661
④②	あむらひのぼり 反田遺跡		縄	白田・反田	石器	606
④③	あむらひのぼり 城下遺跡		縄	白田・城下	縄文土器	607
④④	いかりのぼり 稲荷山城跡	城館跡	中	白田・勝間		『千曲の遺跡』・『南佐久郡古城址調査』 ・『福原集』・『丹田』
④⑤	あむらひのぼり 小山崎遺跡群	集落跡	縄～中	白田・小山崎	石器	609
④⑥	あむらひのぼり 城山遺跡		縄・古・奈・平	白田・城山	縄文土器・土師器	608
④⑦	あむらひのぼり 丸山遺跡		縄～奈・平	下小田切・勝間	縄文土器・弥生土器・土師 器・須恵器・辰御陶器・石器	610
④⑧	あむらひのぼり 勝間原遺跡	散布地・集 落跡	縄～奈・平	下小田切・勝間	弥生土器・土師器・石器	611
④⑨	あむらひのぼり 栗ノ木遺跡		縄～奈・平	下小田切・栗ノ木	弥生土器・土師器・ 土製品・石器	612

②五鹿古墳、②割塚古墳、③明法寺古墳がある。白田町は平成6・7年に雨川右岸の古墳の清掃発掘調査を実施し、この地域の古墳の様相が明らかになっている。⑤新海神社古墳群の4基は無袖の横穴式古墳で、土器の出土はないが装飾品の勾玉・ガラス小玉・管玉・水晶の切小玉・蛇紋岩の大玉、鉄鏃、直刀が出土している。鉄鏃の年代などから6世紀後半から7世紀前半の古墳とされている。昭和40年3月に調査された⑥英田地畑古墳は両袖型の古墳とみられる。遺物は蕨手刀・直刀・刀装具・鉄鏃・三輪玉・須恵器・土師器杯・人骨が出土し、奈良時代とされている。

平成7年に調査された②五鹿古墳は横穴式片袖型の石室の古墳とみられ、直刀・刀装具・鉄鏃、装飾品では金環・紺色ガラス小玉・水晶のガラス小玉（片面穿孔）・碧玉製の管玉がある。特殊なものとしては、鉄製の薙鎌が出土している。長頸篋被片切刃造調三角形の薙鎌が6世紀後半としている。

平成4年に調査された⑧宮東遺跡からは平安時代中頃から後半の8棟の竪穴住居址が検出されている。縄文中期後半～後期の住居も確認されている。

雨川が谷から出た平地あたり右岸の微高地には④原遺跡、⑤大奈良遺跡があり、旧白田町有数の縄文時代から奈良・平安時代に至る遺跡である。④原遺跡は昭和63年に農道拡幅に伴う調査がなされ、古墳時代後期と平安時代の竪穴住居があり、⑦幸神（さいのかみ）古墳群が北東に分布する。

平成15年の道路拡幅に伴う発掘調査により、⑤大奈良遺跡が調査されている。⑤大奈良遺跡は縄文中期後半～後期の集落を中心として、古墳時代後期から平安時代の集落が展開している。縄文中期では佐久系の深鉢土器が出土し、遺跡付近の石材で作られた打製石斧が破損品を含め3,500点近く出土している。この微高地には⑦幸神（さいのかみ）古墳群、⑧外九間古墳群、⑨中原古墳群がある。これらの古墳も平成6・7年に12基が調査されている。旧白田町内には50基ほどの古墳の内、雨川右岸に幸神古墳群をはじめ半数の古墳が分布している。（『白田町誌考古・古代・中世編』）

雨川の左岸にある②井上遺跡、⑤田中遺跡は発掘調査がなされている。⑤田中遺跡は平成22年道路拡幅部分の調査により、古墳・平安時代の竪穴住居址9棟、掘立柱建物址2棟、土坑4基が検出されている。②井上遺跡は縄文時代からの遺跡で、弥生時代後期の土器が見られ、また古墳後期の竪穴住居址が調査されている。

中世から近世では②田口館跡、③田口城跡は龍岡城跡の北にあって、③田口城跡は山頂に郭・堀が残っている。大塔物語に応永7年佐久郡田口氏と見え、諏訪上宮神長官文書に寶徳四年（1452）文明九年（1477）、田口式部少輔長綱、同十四年入澤長義、田口式部少輔長綱、入澤惣領の由を申すと見え、同十五年長享三年田口山城守長慶とあり。神宮寺三重の塔風鈴の銘に永正十二年（乙亥、1515）九月十日大旦那山城守長慶・勸之衆長秀・長綱・長高・長満・長俊・秀義と見えている。長綱は長慶の父である。その他は一族であろう。また上宮寺鐘樓の梵鐘には天文十二年（癸卯、1543）十一月、旦那田口左近将監長能とある。然るに天文の末に至り武田氏のために一族が滅亡した。その後依田能登昌朝之に居る。武田滅亡後北條氏に属し田口城に籠る。のち城を捨てて、小田原に逃げる。②田口館跡は蕃松院にあり、依田信審の子松平康國が父の追福として城下に蕃松院を創立して、その家臣に城を守らしめたという。（『南佐久郡の古城址調査』）

第3節 龍岡藩の歴史

下記の資料より作成。

明治45年6月『大給亀崖公伝』全

昭和41年 龍岡城五稜郭の概要（白田町教育委員会）

昭和46年11月、「田野口藩（前奥殿藩 後龍岡藩）略年表」 尾崎行也

奥殿藩初代藩主真次は大給松平本家五代真乗の二男に生まれ、大給（おぎゅう）城に居た。（愛知県東賀茂郡松平村（現豊田市）大字大給）兄の家乗に従って大給から家康の関東移封に伴う。

天正18年 真次上州那波城一萬石賜う

慶長5年 関ヶ原役には三河の吉田城を守る

慶長6年 美濃岩村城に入る、恵那・土岐二郡二萬石を領す、これで大給城は古城となる

元和1年 夏の陣の功績により徒歩頭となる、一千石賜う

寛永4年 大番頭となり、二千石加増（上州）

寛永9年 四千石加増（上総）

祖先の領地を領することを請う

二代乗次 江戸藩邸に生まれる

寛永12年 三河の大給に替え地を許される、奥殿周辺を知行

天和2年 丹波の二千石加増

貞享1年 乗次大坂定番となり、攝津 三河 丹波の一萬石加増

元禄16年 四月五日 四代乗真 攝津 三河 丹波 三国の一萬二千石を信濃国佐久郡に賜う

天保11年 乗利の三朗次郎（のち乗謨（のりかた）・大給恒（おぎゅう ゆずる）生まれる

（中略）

嘉永5年 乗謨襲封

安政2年 大砲稽古、不成功

文久2年 八月幕府は参勤交代制を改めて、三年一勤・在府百日、妻子を在所に帰ることを許した

文久3年 乗謨大番頭となる

六月に田野口に築城を決める、知行の大部が信州にあるので居を田野口の地に移すことにする

九月縄張を了り、築城十一月着手

文久5年 乗謨若年寄となる

元治1年 乗謨若年寄罷免、程なく再任

元治2年 乗謨若年寄辞任

慶応1年 三河領に在所替え反対運動おこる

乗謨陸軍奉行となる

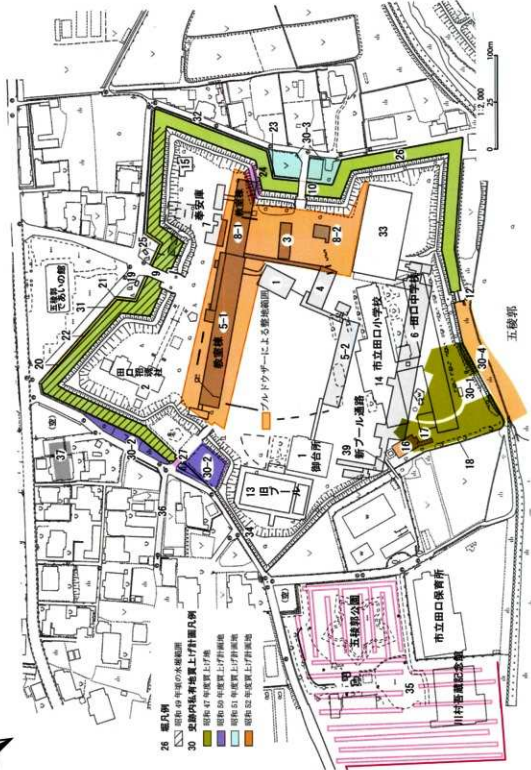
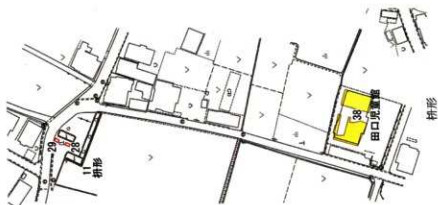
慶応2年 乗謨老中格となる

譜代足輕隊を先手銃隊組と改名

乗謨陸軍総裁となる

十二月城の普請竣工

慶応3年 田野口藩新殿落成



第4図 史跡 龍岡城跡変遷図

第4節 龍岡城跡の変遷 (○数字は第4図史跡龍岡城跡変遷図参照、資料は節末に掲載)

- 慶応2.12. (1866) 龍岡城竣工
- 慶応3.4.19 (1867) 新殿落成
- 明治1.4.29 (1868) 北越出兵命令
- 明治1.5.18 (1868) 龍岡藩と改称
- 明治2.4.22 (1869) 藩籍奉還・乗謨龍岡藩知事に任命される
- 明治4.4. (1871) 龍岡城廃毀 石塁・①御台所残る
- 明治4.6.2 (1871) 龍岡藩廃止
- 明治8.9 (1875) 尚友学校龍岡城内に移転 ①御台所を校舎として使用(6才から14才まで)(資27)
- 明治13.10.25 (1880) ②田口招魂社建願開届
- 明治27. (1894) ③東校舎(障子校舎)建築 昭和13年に取り壊し(資27)
- 明治31. (1898) ④小学校雨天体操場新設(五間に十二間六十坪)(S29.12.5公民館報47号)
- 明治35. (1902) ⑤-1北校舎・⑤-2南校舎建築(資27)
- 大正8. (1919) ⑧-1東校舎増築(資27)この頃と思われる校舎配置図に雨天体操場の東に⑧-2中島氏宅あり
- 大正15. (1926) ⑤北校舎二階増築(資27)
- 昭和3. (1928) ⑦湯沸場・小使室、便所増設(資27)
- 昭和4.8 (1929) ①御台所現在の地に移転(S36年の御台所半解体復元工事の棟札に「東方より移動」とあり。)
- 昭和5.5.1 (1930) 大手橋付近◎標識及び説明板の設置
- 昭和8.10. (1933) 龍岡城復旧計画要領書陸軍築城部本部
龍岡城保存会が組織され、陸軍築城部本部により龍岡城跡の旧状復旧がなされる
- 昭和9. (1934) ⑨大手橋・⑩通用門橋新設(史跡名勝天然記念物保存管理状況調査に記載)
- 昭和9.5.1 (1934) 龍岡城跡「史跡名勝天然記念物龍岡城跡」に指定される。(資1)
- 昭和10.3.4 (1935) ②田口招魂社、烏居・水鉢・石灯笼造立、社務所は建設年月不明
- 昭和10. (1935) 『南佐久郡の古城址調査』龍岡城の図城内に大手東に「奉安庫」あり
- 昭和13. (1938) ③東校舎(障子校舎)撤去(資27)
- 昭和14. (1939) ④雨天体操場3間5間の増築で七十五坪とする(資27)
- 昭和15. (1940) ⑤-2南校舎東5教室、二階増築(資27)
- 昭和23.12.21 (1948) ⑥南校舎新制中学新築工事 着手(6.3制に伴う中学校施設、資29)
- 昭和24.5.15 (1949) ⑥南校舎新制中学新築工事 完了(昭和24年8月25日『田口民報』第12号、資29)
- 昭和24.7 (1949) 校舎は立派に完成し、グラウンドは拡張されて固定バックネット、スコアボードまで完備(昭和24年8月25日『田口民報』第12号、資29)
- 昭和26.8.20 (1951) ①御台所が公民館全景として掲載される(田口村公民館報7月号刊、資29)
- 昭和26.12.10 (1951) 史跡名勝天然記念物保存管理状況調査(岩崎長恵)
⑨大手橋・⑩通用門を昭和9年に新設し、小破修理はなされるが架替が必要
①御台所の屋根が雨漏りが激しく、屋根替えが急務。①樹形の石垣修理が必要
- 昭和27.11.15 (1952) 「龍岡城石垣、①樹形石積修理始まる」(公民館報第22号、資29)
一(前略)年代経過により、四ヶ所の補修箇所と各城址には特異なものとしてされている樹形の石積みにも修理を要する箇所ができ、この度、予算三〇万を以て、修理が計画され、村内請負人により、それぞれ各工事の分担請負となり、着工している。工事は大体、十二月十五日頃完成の予定とのこと、修理費用は国庫補助15万円、県費補助5万円、村費負担10万円でまかなわれる。一
- 昭和28.7.5 (1953) 「五稜郭石垣 ①樹形石積修理工事なる」(公民館報30号、資29)
一(前略)総じて国宝修理とか、文化財史跡の補修とかはその修理方法がなかなかむづかしく、も

と通りに直すと云う事が修理の眼目であって只、破損箇所を新しく立派にと云うのではなく、石垣ならばその石一個一個の形状そっくり再現すると云うのにあるので、当事者は非常に苦心して、県、国の指導を受け乍慎重、確実に修理が行われたわけである。修理箇所は、濠の石積三ヶ所、②水門暗渠一ヶ所、⑩櫓形一ヶ所であった。（掲載写真に②六門排水口の写真「五稜廓南方の拂まち」とあり。）

昭和29.11.28	(1954)	③田口学校大体育館建設 着工 (田口村公民館報47号、資29)
昭和30.5.31	(1955)	③田口学校大体育館建設 終了 (田口村公民館報55号、資29)
昭和31.	(1956)	「五稜郭大要」白田町教育委員会
昭和34.12.15	(1959)	6月に着工した②招魂社拝殿できる (白田町公民館報28号、資28)
昭和35.7.	(1960)	①御台所災害復旧に伴う半解体復元工事 着工 (資23 図面あり)
昭和36.5.31	(1961)	①御台所災害復旧に伴う半解体復元工事 竣工 総額二八〇万円
昭和36.7.31	(1961)	「龍岡城お台所完成—解体修理で原型になる—」(白田町公民館報第41号、資28)
一さる34年の台風よって被害を受けたのを機会に解体修理がなされたものである。これまで田口小学校音楽室、公民館として利用されていたが、これに郷土の古文書、土器、民俗資料を集め博物館にする予定。修理され原型になったお台所—		
昭和36.1.18	(1961)	⑬プール建設現状変更許可申請 (資2)
昭和36.5.15	(1961)	⑬プール建設 着手 (資2)
昭和36.8.10	(1961)	⑬プール 竣工 プールと御台所の間に生垣、御台所とプールの間にブロック造りの建造物、井戸の竣せつ、排水口竣工の付帯項目あり。(資2)
昭和37.9.11	(1962)	100万円の工事の補助金50万円確定 (資2)
昭和38.3.	(1963)	新たに下越地区に白田中学校開校。田口中学校、青沼中学校、中部中学が統合
昭和39.	(1964)	雨天体操場取壊し (資31—P39)
昭和46.1.5~3.31	(1971)	⑥南校舎田口中学校校舎撤去 (資2)
昭和46.	(1971)	⑨大手橋修理 (資31—P39)
昭和46.10.16	(1971)	日本宝くじ協会より文化財愛護標識設置 龍岡城2本 (資3)
昭和47.6.17	(1972)	文化庁へ ⑭田口小学校改築による現状変更等の許可申請 (資2)
昭和47.8.7	(1972)	文化庁へ 史跡龍岡城の環境整備について許可申請 (資2)
1、田口小学校改築事業完了以後に⑤校長住宅、⑦公使室、⑧便所を撤去		
2、⑭の校舎2棟共に平行して校庭の北へ4m移設		
3、①御台所移転の際は、旧地に戻す		
(昭和49.4.1現在 文化庁に報告 ①は実施済、但し⑤校長住宅は史跡外に代替え住宅を建設中②は実施済とある。)		
昭和47.9.1	(1972)	史跡龍岡城跡現状変更 (⑥南校舎旧白田中学校校舎撤去) 許可 (資2)
⑭田口小学校校舎改築工事 許可 (資2)		
昭和47.10.2	(1972)	⑭田口小学校校舎改築工事 着工 (資2)
昭和48.11.6	(1973)	⑭田口小学校校舎改築工事 竣工 旧木造校舎取壊し・グラウンド造成 (資31—P39)
昭和49.2.12	(1974)	文化庁へ⑥倉庫・⑦自転車置き場、⑧防護柵設置の許可申請 (資2)
昭和49.4.1	(1974)	文化庁へ ⑭田口小学校改築工事 完了報告 (資2)
昭和49.	史跡龍岡城跡整備保存計画 (資4)	
昭和50年度 記念物保存修理 名称 史跡「龍岡城跡」保存事業		
①事業内容 ⑨大手橋、⑩東通用門橋保存整備復元		
事業費予定 8,000千円		
②事業内容 史跡内土壘復元		
事業費予定 4,000千円		
③事業内容 史跡堀石垣保存修理 (昭和50・51年以降)		
事業費予定 4,000千円		

史跡等保存管理計画策定 名称 史跡「龍岡城跡」保存整備事業（資4）

事業内容 史跡「龍岡城跡」保存整備計画実施

事業費予定 21,000千円

史跡等購入 名称 史跡「龍岡城跡」保存整備事業

事業内容 史跡内民有地買い上げ700㎡

事業費予定 5,600千円

昭和49.5.25 (1974) ㊸堀の清掃。（館報うすだ 163号、資28）

龍岡城・五稜郭を守ろう保存会が清掃・植樹一

「四月二十八日龍岡城保存会（中条忠雄会長 三千五百人）の手により、城郭の濠縁に桜の苗木50本が植えられました。同保存会は龍岡城の荒廃を憂い、貴重な文化財を守り、後世に継承しようという地元住民の熱意により一月三十日結成されました。以来、濠の清掃、（後略）」、写真掲載「堀の清掃に精出す保存会の会員」（㊸の空堀の底の萱を刈っている写真）

昭和49.7.17 (1974) 1、㊸北校舎旧小学校校舎撤去跡地の整備（ブルドウザーによる）

2、（通用門北の）㊸土壁破損箇所等の暫定措置として、整地による残土を暫定的に土盛する。（㊸の北校舎により㊸土壁は削平されていた。）

3、堀の浚渫（予定）※雑草浚渫を主とする。機械力によるが、石垣保全のため両側より1m以内を手掘りで実施（資2）

昭和49.8.30 (1974) 文化庁へ史跡名勝天然記念物のき損届出書（資2）

史跡「龍岡城跡」堀石垣 昭和49.8.26 台風通過に伴う

㊸・㊸崩壊箇所2ヶ所 20㎡ 400,000円

㊸・㊸・㊸崩壊状態箇所3ヶ所 162.5㎡ 4,063,000円

校地と護国神社の境界を決定する（資6）

昭和49.11.13 昭和50.1.16 (1975) 史跡名勝天然記念物の現状変更等の許可申請書（資2）

（㊸倉庫、㊸自転車置場、㊸防護柵設置）

別紙史跡龍岡城跡の整備復元計画の概要（資2）

白田町長期新興計画により、昭和50年度を初年度とする重要文化財史跡「龍岡城跡」の整備復元計画に着手し昭和54年度を最終目標とする計画案が長期新興計画審議会で、検討されこれが更に同企画会で決定されましたがその計画概要は下記のとおりです。

- 1、昭和50年度に於いて大手橋、東通用橋の修理を含む史跡内の私有地の公有化を実現し、長期計画の実施方法の調査に着手。
- 2、昭和51年度において史跡土塁の整備復元と併せ私有地の公有化を進める。
- 3、昭和52年～54年において土塁整備、堀、石垣、漏水防止対策を実施し又、旧田野口藩建造物の一部買戻し復元。
- 4、上記についてはいづれも文化庁と協議その指示により実施する予定である。

昭和50.2.7 (1975) 文化庁へ出張、史跡保存管理計画策定事業は実施困難と回答される。

昭和50.3.6 (1975) ㊸～㊸倉庫等新築の許可通知（資2）

昭和50.3.20～3.31 (1975) ㊸～㊸倉庫等新築着工、竣工（資4）

昭和50.5.17 (1975) 龍岡城五稜郭保存会 第1回総会（資4）

昭和50.5.28 (1975) ㊸～㊸倉庫等新築工事現状変更終了報告書（資4）

昭和50.10.27 (1975) ㊸龍岡城跡地域図板設置（大手橋左側）にかかわる史跡名勝天然記念物の現状変更等の許可申請書（資4）

昭和50.11.22 (1975) ㊸龍岡城跡地域図板設置許可通知（資4）

昭和50.11.30 (1975) 昭和50年度文化財保存事業費補助金申請（資5）

昭和50.12.5 (1975) 文化財保護事業龍岡城石積復旧工事（㊸～㊸大手橋付近の石垣工事）着工（資5）

昭和51.1.17 (1976) 昭和50年度文化財保存事業費補助金決定通知（資5）

- 昭和51.1.23 (1976) 昭和51年度文化財補助事業計画(国庫)について(回答)(資9)
 ◎堀石積復旧・㊦石橋架替・㊧土塁復元・樹形説明板設置(◎説明板・
 ◎地域図板)・㊨史跡内土地買い上げ
- 昭和51.2.28 (1976) 文化財保護事業龍岡城石積復旧工事(㊨～㊧大手橋付近の石垣)完成。(資5)
- 昭和51.2.12～3.26 (1976) ㊨龍岡城跡地域図板設置着工、完了(資4)
- 昭和51.5.1 (1976) 昭和51年度文化財関係国庫補助事業の予定について(通知)(資9)
- 昭和51.7.29 (1976) 昭和51年度文化財補助金交付申請(資9)
- 昭和51.9.27 (1976) 昭和51年度国補重要文化財等保存整備工事(資9)
 (㊩通用門石積・㊪通用門土塁土盛・㊫黒門石橋架替)工事着工
- 昭和51.12.20 (1976) 昭和51年度国補重要文化財等保存整備工事(資9)
 (㊩通用門石積・㊪通用門土塁土盛・㊫黒門石橋架替)終了
- 昭和52.2.25 (1977) 昭和51年度文化財保存事業実績報告書(㊬・㊭・㊮)提出(資9)
- 昭和54.8.31 (1979) 龍岡城跡㊯土塁設置整備の史跡名勝天然記念物の現状変更等の許可申請(資11)
- 昭和54.9.27 (1979) 龍岡城址㊯土塁復元工事 着工(L=105mW=120mH=50cm)2100,000円(資11)
- 昭和55.3.20 (1980) 龍岡城址㊯土塁復元工事 竣工(資11)
- 昭和57.2. (1982) 昭和56年度 橋梁架替工事 南佐久郡白田町龍岡城㊰大手橋設計計算書
 南佐久土木振興会(橋長11m)(資23)
- 昭和57. (1982) 地下式オイルタンク・オイル配管工事(資31-P39)
- 昭和59.3.1～3.30 (1984) 龍岡城跡案内板屋根葺き工事 着工・終了(資12)
- 昭和62. (1987) 黒門の左右に岡崎市・函館市の花木園設置(資31-P39)
- 平成1. (1989) 田口小学校非常階段設置(資31-P39)
- 平成2.1.8 (1990) 龍岡城址文化財指定区域図複写(資23)
 (平成二年一月白田町教育委員会作成 構図複写縮尺六〇〇分の一)
- 平成5.10.26 (1993) 平成6年度文化財関係事業計画について(回答)(資15)
 ◎龍岡城跡石垣修理 幅5m高さ3m範囲に今にも崩れそうな箇所が見見。
 農業集落排水事業取り付け管敷設工事現状変更許可(委保第4-160号、資31)
- 平成6.4.4 (1994) 長野県教育委員会教育長あて、平成7年度文化財補助事業計画について(回答)
- 平成6.7.7 (1994) ◎大手橋改修工事(木部不朽が見られる)、①御台所の避雷針設置工事、
 ①御台所屋根葺替工事(雨漏り)(資13)
- 平成7.1.27～3.15 (1995) ◎大手橋改修工事14,883,000円 橋幅6.2m橋長11.0m(資13)
- 平成7.6.5 (1995) 平成7年度文化財保護事業補助金の内示(通知) ◎龍岡城跡石垣修理(資15)
- 平成7.9.27 (1995) 国宝重要文化財等保存整備費補助金交付決定通知◎龍岡城跡石垣(資15)
- 平成7.10.16～8.3.25・平成8.6.10～10.31 (1995～1996) ①御台所屋根葺替修理(資13)
- 平成8.8.8～10.31 (1996) ①御台所 避雷針設置(資13)
- 平成8.3.15 (1996) 国宝重要文化財等保存整備史跡龍岡城跡石垣修理工事◎龍岡城跡石垣
 着工1,627,400円(資15・16)
- 平成8.3.25 (1996) 国宝重要文化財等保存整備史跡龍岡城跡石垣修理工事◎龍岡城跡石垣竣工(資15・16)
- 平成10. (1998) プール新築(郭外西の隣接地に移動、㊱プールへの通路の設置(資31-P39)
- 平成14.6.21 (2002) 平成14年度公立学校施設整備費国庫負担(補助)大規模改修工事・田口小
 学校トイレ改修工事における下水道敷設工事 現状変更許可(委庁財第4-309号)
- 平成18.8.7～20.3.16 (2006～2008) ㊲穴門排水口石垣修理工事
- 平成19.4.20 (2007) 旧㊳プール撤去工事申請
- 平成19.9.14～20.3.4 旧㊳プールに伴う発掘調査と㊳プール撤去
- 平成19.11.1～20.3.19 (2007～2008) ④田口小学校屋内運動場耐震診断着手・終了
- 平成20.11.4～22.3.14 (2008～2010) ㊴黒門西側石垣修理工事着手・終了

第5節 龍岡城跡周辺の調査

- 平成18.7.12～19.3.31 (2010) ㊸五庵遺跡 (田口児童館用地)
遺構一壘穴遺構1、単独ビット45、遺物一瀬戸灰軸破片、土鍋2小片、加工痕のある剥片2
- 平成20.3.24～3.28. ㊸龍岡城跡・五庵遺跡1 試掘調査 (遺構遺物なし) →圃場整備 (S53頃)
(2008) により基盤層が削平される
- 平成20.10.22 (2008) ㊸龍岡城跡・五庵遺跡2 (遺構遺物なし)
- 平成20.12.1～21.3.24 ㊸龍岡城跡IV 市道改良舗装工事に伴う立会い・本調査
(2008) 表土より 瓦4片、飯椀、呉須小皿 (蓋) 近代陶磁器6片出土、遺構なし
- 平成22.7 (2010) ㊸鷺見・岩田宅改築 (武家屋敷)
雷文小皿 (型紙作り)、他2片

資料一覧

- 1 明治九年五月一日 史跡名勝天然記念物関係書類 国宝指定関係書類 田口役場
- 2 史跡龍岡城跡現状変更に関する綴 白田町教育委員会
- 3 自昭和四十六年度至昭和四十八年度 文化財保護調査委員会他書類 白田町教育委員会
- 4 昭和50年度 史跡龍岡城跡保存整備事業綴
- 5 昭和50年度 史跡龍岡城石垣保存修理事業
- 6 昭和50年1月 文化財関係 (行政事務) 白田町教育委員会
- 7 史跡龍岡城跡保存資料 白田町教育委員会
- 8 昭和五十年七月調 龍岡城御台所所蔵 旧田野口役所文書 目録 白田町教育委員会
- 9 昭和51年度 文化財保護史跡「龍岡城跡」石垣修理等国庫補助事業綴 白田町教育委員会
- 10 昭和51年度 文化財関係綴 白田町教育委員会
- 11 昭和五十四年度 史跡龍岡城五稜郭土塁復元工事 白田町教育委員会
- 12 昭和42～62年度 白田町文化財調査委員会関係文書綴 白田町教育委員会
- 13 平成2～13年度 文化財調査委員会関係綴 (白田町文化センター)
- 14 平成3年度 文化財保護関係綴 白田町教育委員会
- 15 平成7年度 龍岡城跡石垣修理 白田町教育委員会
- 16 平成7年度 国宝重要文化財等保存整備事業 史跡龍岡城跡石垣修理工事 しゅんこう届
- 17 文化財関係1 (庶務書類関係) 白田町内
- 18 『幕末期小諸藩の郷村に対する法的規制』 尾崎行也
- S44頃 龍岡城畧図
- 昭和51年 『龍岡城五稜郭の概要』 白田町教育委員会
『龍岡城と大給恒について』 水野茂
- 19 昭和49年度 陣屋日誌他古文書整理指針 白田町教育委員会
- 昭和51年11月 『地理研究第2号 (特集・幕末築城龍岡城)』 国学院大学地理研究室
- 昭和52年2月 『大給恒と白田町』 『歴史地理研究』
- 20 昭和45年4月 『田野口藩維新期客年表稿』 尾崎行也
- 21 昭和34年10月26日 龍岡城 (五稜郭) 設計図 白田町教育委員会 (1枚)
他 御殿・御台所姿図・招魂社配置図・田口小学校校舎平面図 (計6枚)
「龍岡城由来」の封筒に但し書きあり
- 22 龍岡城御殿平面図 (市川武治作図) ・御台所平面図 (他33枚)
- 23 龍岡城五稜郭設計図 (5枚) ・御殿向之図 (5枚) ・瓦図 (1枚)
文化財指定区域図 (1枚)
- 昭和34・35年 御台所改修工事用図面 (6枚)
- 昭和56年度 大手橋設計計画書と橋梁架替工事用図面 (3枚)
- 24 竜岡城御台所1階2階平面図 (4枚) ・屋根屋瓦葺き瓦の図面 (3枚) 他5枚
- 25 昭和45年2月28日 白田町古城原図・龍岡五稜郭・田口城址・入沢城址・湯原城址・雁峯城址
下ノ城址・賢王寺城址・稲荷山城址・上小田切城址
『明治と大給恒』 (「もう一つの五稜郭」 櫻出版抜粋)
- 26 昭和57年 『田口小学校130周年記念誌』 田口小学校130周年記念事業実行委員会
- 27 平成15年10月10日 白田町公民官報縮刷版 第1集
- 28 昭和52年11月3日 白田町公民官報縮刷版 第4集
- 29 昭和54年11月3日 白田町公民官報縮刷版 付録
- 30 昭和54年11月3日 『史跡龍岡城跡 保存管理計画書』 佐久市教育委員会
- 31 2013.3 「龍岡城五稜郭遺品目録 (1)」 —佐久市岸野小学校所蔵分)
- 32 平成3年7月14日



昭和 46.1.5～3.31 (1971)
 ⑥南校舎田口中学校校舎撤去申請時の写真



昭和 49.8.26 台風通過に伴う④崩壊ヶ所 (大手橋付近)



昭和 51.1.23 (1976) 文化財補助事業計画 (国庫) の回答に載る③-4 南石垣下未買収地。用水の U 字溝が新しい。



昭和 51 (1976) 重要文化財等保存整備工事
 ⑦黒門石橋架替 解体中



昭和 51.9.27 (1976) 重要文化財等保存整備工事⑧黒門石橋架替工事 着工前



⑧黒門石橋架替工事 竣工

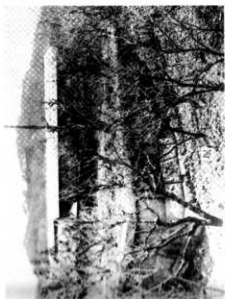


昭和 51 (1976) 国補重要文化財等保存整備工事
 ⑨通用門土塁土盛工事



昭和 51 (1976) 国補重要文化財等保存整備工事
 ⑩通用門石積工事着工前

※○数字は第 4 図史跡龍岡城跡変遷図を参照



田口村五段郭の石疊 (西北隅)

『南佐久郡古城址調査』龍岡五段郭
信濃教育会南佐久部会より転載
昭和十年刊行

断面は縮尺 1:650
DD断面は縮尺 1:180

1:1,000



第5図 昭和初期の龍岡城跡図 (昭和5~10年)

史料 2

表紙

昭和八年十月

龍岡城復旧計画要領書

陸軍築城部本部

龍岡城復旧計画要領書

第一 本計画ハ史蹟保存ノ為メ旧龍岡城ヲ概々往時ノ状態ニ修理復旧スルニ在リ

第二 本計画ニ基ク復旧ノ箇所左ノ如シ

- 1、土塁 全部
- 2、石垣 一部
- 3、濠ノ邊濠 全長
- 4、水門壁及堰ノ新設
- 5、水取入給ノ新設
- 6、大手門及通用門構築架設
- 7、植樹其ノ他保存上必要ナル施設

第三 復旧工事ノ要領概々左ノ如シ

- 一 土塁ハ計画図ニ示ス如ク盛土ノ土端造ヲ為シ之ニ張テヲ施スモノトス
大手並通用門六門口土塁ノ端米ハ堅石ヲ敷積ト為スモノトス
- 二 濠ノ石堰中埋没及ハ崩壊セラルモノノ之ヲ旧状ニ修理復旧スルモノトス
- 三 濠ハ堰木外岸石垣頂ヨリ二米四〇ノ深サニ渡テスルモノニシテ此際漏水防止ノ粘土層敷設ノ部
分ハ之ヲ補填シ且ツ濠底裏面ニ約十釐ノ厚サニ切込砂利ヲ敷込ムモノトス
- 四 水門壁及堰ハ計画圖ニ示ス如キ鉄筋「コンクリート」(「コンクリート」の配合一：二：四)
造ト為スモノトス
本工事ノ為メ石垣積直シ箇所ハ繼續トシテ水密ヲ計ルモノトス
水門下流側川ニ注ケル間ニ水路ヲ設ケ水叩キノ部分ハ特ニ廻石張「モルタル」目地トス尚本雨
川ノ浸食ニヨリ水門壁及石垣ノ崩壊セラルヲ予顧慮シ護岸用鉄筋「コンクリート」壁を適當長
設ケルモノトス

五 導水渠ハ経五〇ノ鉄筋「コンクリート」管ヲ埋設スルモノトス

取入口ニハ副水門ヲ設ケ流入量ヲ調節シ得ル如クス

六 大手門構築ハ徑間八米二幅員四米七五ニシテ床版桁部ヲ鉄筋「コンクリート」構造トシ親柱、
柱、櫓干ハ古風擬實殊型ノ木造トス

橋臺部石垣ハ特ニ繼續ト為シ堅固ニ補強スルモノトス

通用門木橋ハ徑間三米八〇、二連全徑間七米六〇幅員二米六一ニシテ小学校児童ノ通学ヲ主
トセル簡車ナル木造トス

第七 植樹其ノ他保存上必要ナル施設ハ土塁上及風致ノ為メ植樹ニシテ別ニ計画スルモノトス

第四 添附計画圖及工費仕書書ハ上記ノ主旨ニ基キ其ノ大要ヲ示スモノトス

龍岡城復旧工事概費仕書書

名 称	数量	単位	単 価	計	備 考
土圍及邊濠復旧		一式		5,000,000	除土及積土4500m ³
石垣修理	400	米 ²	12,000	4,800,000	内100?ハ土圍一分を含む
大手鉄筋コンクリート橋	1	箇所	1,700,000	1,700,000	徑間8.15幅員4.75橋干木造
通用門木橋	1	#	700,000	700,000	徑間3.8二連幅員2.6
鉄筋コンクリート水門壁	1	#	800,000	800,000	
導水取入用暗溝	20	米	5,000	100,000	徑50釐コンクリート管理設水制溝央
鉄筋コンクリート堰	1	箇所	25,000	25,000	
植樹及雜費		一式		1,000,000	
人件費監督其他		#		1,000,000	
計				15,125,000	

「龍岡城五稜郭の歴史」

田口小学校の生徒が作った年表（昭和49年で終了）

慶応2年	1866	龍岡城の築城工事が終わる。
明治4年	1871	龍岡藩虎藩 建物は御台所を残して売られたり取り壊されたりした。 表御殿→佐久市落合時宗寺本堂 書院→佐久市野沢小池さん宅 納戸→佐久市中込山岡さん宅 東通用門→佐久市野沢成田山の門 書院の門と塀→田口宮代丸山さん宅 御台所は大きすぎて売れずに残る。 お堀には土のい土が少し入れられ大手橋付近のお堀は完全にうめられた。
明治8年	1875	御台所が村に寄付された。 五稜郭の中はほとんど畑となる。 お堀は使いみちがなく、しだいにゴミすて場になった。 悪臭が漂いそれを消すために土が放りこまれた。 それが、5年10年と続くうちに堀はいつしかうめられ、何となく畑に使える見通しも出てきた。 農民たちは土のいをこわし、その土を放りこみ、桑の木を一面に植えた。
明治31年	1897	お堀も畑に変わった。
昭和4年	1929	「招魂社も大事だがそれより堀を復元して、普通の龍岡城にもどそう」 「龍岡城は、函館五稜郭とともにわが国でたった二つだけの五稜郭である」 佐々木鉄之助 大工原滝三郎 田代常
昭和7年	1932	「龍岡城の堀をもう一度掘りおこそう」田口村の人たちが村をあげてこの運動にとりかかった。ツルハシとクワ、モッコだけが復元作業の道具だった。掘り起こされた土はモッコにかつがれて堀の外へと運びだされた
昭和5～10年		全く人力だけの作業だった。村の主婦たちも応援しにぎり飯やサツマイモをふかしてはげました。五千人の村人の心が一つなつての作業だった石垣も修理された。
昭和8年	1933	二年がかりで昔のようなお堀や石垣に戻った。
昭和9年	1934	文部省から史跡に指定された。新しい大手橋ができた。 龍岡城の復元は村人だけでなく佐久のすべての人たちから歓迎された。
戦争中		戦争中お堀の東側南側は水田になってしまった。 大手橋付近から、石橋まではお堀だったが、水があつたりなかったり状態だった。
昭和20年	1945	終戦
昭和20年代半ば		戦後の食糧がまだ少なかった時代少しの空き地も許されず、お堀（東側 南側）は水田にされていた。
昭和30年代半ば		田んぼをやらなくなってから、お堀はほうっておかれた。荒地地になり、アシやヨシが生いしげり、石ころだらけのゴミ捨て場になっていった。
昭和40年	1965	周辺の地元住民から「ちょっとひどいなあ」という声が上がりはじめた。 「国の史跡地だからなんとかしてほしい」と町へ環境整備を訴えた。
昭和48年	1973	「このままでは五稜郭がまた荒れてしまう」住民たちがスコップやカマを持ち集まり城の清掃作業をした。 雑草をきりひらき、土や石を取りのぞいた。ゴミは連日トラックで何台も運ばれた。南側の堀には耕運機も入れて土をすっきり耕し、漏水を防ぐ手でもこうじられた。
昭和49年	1974	『龍岡城五稜郭保存会』の設立（一月） 「地元にある史跡・歴史的な文化遺産を大切に保存し、のちの世に残したい。みんなで龍岡城五稜郭を守っていこう」定期的な清掃作業・草刈り作業 49年夏お堀に水が入った。魚の放流。



第三章 穴門排水口石垣修理工事に伴う調査

第1節 穴門排水口の概要

1.排水口石垣の構造

(1) 概要

穴門排水口の石垣は水堀の終点に位置し、堀の深さの1/2強（下流では1/3）まで石積みの堰を築き、これより上部は通水部を狭めて、さらに石垣を築く。

通水部の上流側には幅15cm程度の溝が彫られており、ここには堰板を落としこんでいたものと推測される。

堀の側壁を成す北面と南面の石垣の裏は、ともに土坡を築いて納めている。

石積みは安山岩（佐久石）を用いた切込接ぎ布積みを基本とし、部分的に亀甲積やその崩しのような目地模様が混入している。



排水口石垣修理前 上流側



排水口石垣修理前 下流側



石垣修理前 上流側水替え工事

(2) 堀の主要な寸法

区分	上流側	下流側	通水部
上幅	5.85m (19.3尺)	5.85m (19.3尺)	幅2.42m (8尺)
下幅	4.5m (14.9尺)	4.05m (13.4尺)	長5.45m (18尺)
深さ	2.5m (8.2尺)	3.15m (10.4尺)	1.06m (3.5尺)
水深	1.2m (4.0尺)		

(3) 水抜口と放水口

水抜口：堀を仕切る石垣の上流面の堀底に接して水抜きのための穴が設けられている。

周囲の積石の仕上げや目地模様から見ると、積極的に後世改造されたようには見えないが改造の可能性も否定できない。

放水口：堀を仕切る石垣の下流面の下方に放水のための穴が設けられている。

周囲の積石の使い方や目地の模様から、後世の修理もしくは改造の痕跡が見られる。

現在の穴の向かって左下にも欠き取り穴のようなものがあり、旧状は不明である。

(4) 堀底の構造

・堀底の断面状況

上層：厚10cm程度の砂利層で、この上に石垣の根石を据える。

中層：厚6～10cm程度の黄色粘土層

下層：褐色の粗い砂・砂利層で栗石のような礫も混入する。

所見

下層は雨川の堆積土と推定され、中層の粘土は防水を目的に人為的に敷かれたものと推測される。この上に砂利層を設けて根石を据えているので、中層の粘土は石垣の裏面で防水層として立ち上げられているか、石垣の裏込め材中に粘土が混入されている可能性もある。



第7図 穴門排水口全体図

2.破損の状況

(1) 概況

排水口とその周囲の石垣については、上流側では水面より上の部分、下流側では河床より上の部分に変形が見られる。

特に中央通水部の側壁を成す石垣は根石が沈下し、上部の石垣面の乱れが激しい。

原因は、堀水の漏水により、石垣の裏面に詰められていた土砂が流出したためと考えられる。

土砂の流出により、裏込めの栗石や各積石に施された倒い石がゆるんで石垣面に歪みが生じたものと推測される。

また下流の南側入隅部については、積石が広範囲で欠失している。原因は農業用水路建設時に土坡の法面尻が掘削されて法面の土砂が流出したためと推測される。

(2) 上流側

堀の水面より上部の狂いが目立つ。概して石垣上方が後退し、ほぼ垂直であるべき勾配が緩くなっている。

この状態は、石垣の入隅部において直交する積石が後退し、石垣の内部が見える状態となっているのでわかりやすい。

特に南側の入隅部では、上方の積石が大きく移動し、仰向している。これは背後の土坡表面が雨水等で浸食されて流失したためである。

(3) 通水部

北側の壁面の変形が著しい。根石が沈下し、本来直線であるはずの天端線の中央が大きく下がりこれに伴って、壁面が孕み出しており、崩壊寸前の様相を呈している。原因は壁面石垣の根石を支える土砂の流失と考えられる。

対する南側の壁面では、沈下は少ないが、下流側で壁面が大きく石垣の内側に倒れこんでいる。

この原因は、この石垣に続く下流側西面を成す石垣が崩壊し、その裏側にあるべき土坡が著しく流失しているためと考えられる。

(4) 下流部

北面と西面北半分の石垣については、現状の河床より上方に積石の歪みが見られるが、変形の度合いは小さい。特に西面は目地の模様や積石の一部に近年使われている矢穴を持つ石が用いられていることなどから、ここ30年程の間に積直し修理を受けた可能性がある。

西面南半分および矩折れに続く南面の石垣では、入隅部とこれより西方の積石の矢穴が著しく欠失し、原形を止めていない。

この入隅部の原形は、上流側南隅と同様であったと推定されるが、末端の状況は不明である。

この破損の原因は、農業用水を引く際に石垣背後（南側）の土坡を削り取ったことによる裏込め材の流失と考えられる。

なお、西面南半分は後世の積直しにより積石が入れ替わり、各目地に隙間を生じている。また、西面石垣の現況河床付近には、凍害により破損した積石が3石見られる。これらの劣化部分から堀水が流れ出ており、さらなる劣化を招いている。

3.修理方針

(1) 石垣面の歪みのみられる上半については、解体・積直し修理を行う。

(2) 原形の不明な下流側については、西方へ続く石垣の残存状況を修理工事の際にさらに調査し、その状況に応じて整備計画を立案し、文化庁と協議のうえ、施工へ移す。

(3) 石垣の解体に際して石垣内部の在来工法を調査し、これに倣って石積みや裏込め工事を実施することを原則とする。

(平成18年2月「平成17年度 史跡龍岡城跡排水口石垣調査業務成果品」財団法人 文化財建造物保存技術協会より抜粋転載)

第2節 六門排水口石垣修理工事経過と結果

(平成16年度)

2004/7/17

臼田町教育委員会龍岡城跡石垣改修工事申請

(平成17年度)

史跡龍岡城堰排水口石垣調査業務

2005/11/20 工事着工

施工業者準備工

2005/11/22 文建協指導

着手時打合せ (田口小学校教頭、保存会会長、文化財課 (課長・係長)、石材会社、
 龍文化財建造物保存技術協会 (以下、「文建協」とする))

調査工事

石垣脚部は土砂に埋もれているため、これらを撤去し、石垣の全面を現す。石垣測量
 と調査が終了したのち掘内の土砂を埋め戻す。これらの作業に必要な締め切りと水替え
 工事および仮設を行う。

石垣測量図化

調査工事で現した各石垣面の立面と平面を写真測量し、図面化する。排水口石垣周辺の
 平面 (36×30m範囲) を測量し、図面化する。

調査管理



黒門西に設けた仮設橋



仮囲いと進入路



通水部D面石垣と堰板溝

2005/12/1 文建協指導

堀内土砂撤去

上下流共、堆積していた土砂を堀底まで撤去を確認。

堀の深さ

石垣天端から堀底まで、上流側で約2.6m (8.5尺)、下流側で約3.3m (10尺9寸)
 となっている。

石組み暗渠排水

上下流の石垣面下部に水抜き口があり、現在は土砂がつまっている。

指示事項

12月5日に五味盛重先生の指導後、6日から測量作業に入る。先だって、石垣上の土
 囊をはずして天端石を現し、南側の土坡法面の草木を刈って現す。



平成18年発掘調査 排水口上流側石垣 表土除去状態

2005/12/5	文建協指導	五味盛重先生による現地指導。 測量作業	6日から測量作業に入る。
2005/12/16	文建協指導		調査工事終了後の仮設物引き上げ状況確認。
2005/12/19	文建協指導	調査終了	調査工事完了に伴う関係者による現地確認。



上流側（F・G・H面）掘り下げ



下流側（B面）掘り下げ



D面石垣裏込め



北岸土塁上面表土除去



北岸土塁表土除去（上流東より）



南岸H面土塁表土除去（西より）

（平成18年度）

2006/6/1			平成18年度文化財国庫補助（史路関係）交付決定
2006/7/4	文建協指導		石垣の修理範囲の確認。 積み石の実測。 仮設計画策定に必要な周辺部分の確認・実測。
	修理範囲と内容		修理範囲は昨年度に実施された調査業務報告書の中で示された範囲とする。
	C面積み工		石垣が欠失している西南隅部の復元は、今回は取り扱わず、現状維持修理とする。
	仮設計画		搬入り口となる黒門の石橋は、昨年調査業務時に実施した程度の補強を行う。
	発掘調査		佐久市教育委員会は工事着手前に石垣表面の現況を記録し、堀底の状態を調査する。 また石垣上面についても、解体範囲内の表土を取り除き、その状況調査する。 石垣解体中には一段解体することにより、その平面状況を写真にして記録する。
2006/7/13	仮設計画		大型重機を使用する方向で計画を見直し、石橋に負担を掛けない仮橋を設定する。
2006/7/23	発掘調査事前 打ち合せ		調査指導者、地質石質鑑定者、県文化財担当者、文化財課
2006/7/25	文建協指導		大型クレーンを石垣西側の河川敷に設けて石積みを行う。
	仮設計画		仮設費用がかさみ、単年度では困難なので、2カ年継続工事の可能性を検討する。
	工事期間		文建協より「修理事務実施設計業務」履行期間延長の契約変更申請。
2006/8/ 7～23	発掘調査		排水口付近の土塁部分、排水口通水部分の表土を剥ぎ、裏込めの確認のため、石垣の上面を現す。トレンチセクション図、石垣上面の平面図を作成する。

2006/8/25		D・F・G面石垣（跳ね出し石・天端石）平面図
2006/8/30	文建協指導 工事の分割	架設工事の費用が大幅増となることが判明し、単年度の事業を2カ年の継続事業とし、 工事は単年度発注を前提に工事計画を組み直す。 初年度で、南側の半分、次年度で北川半分を工事することとした。
2006/9/13	文建協指導	小学校側に石置き場と中型クレーンを据える作業場を設置。 2カ年の継続事業とすることが認められたので、この方向で設計を詰める。
2006/10/23～ 11/22	発掘調査	8月に続き、排水口周辺の表土掘り下げる。西下流域からの多量の近現代遺物を回収。
2006/11/7	工事着工	A・C・Eトレンチセクション追加
2006/11/20	文建協指導	施工業者 施工計画書作成
2006/11/24	安全性の確保 石垣工事	工事着手に際する打合せ。 工事現場が田口小学校の校内に当たるため安全性の確保に努める。 石垣工事の石屋は「史跡またはこれに準ずる近世城郭石垣の実績が豊富でかつ優良であるもの」とすること。工事範囲と内容を確認。石垣の裏込めについては内部状況を 調査確認しながら解体範囲を決定する。



A面石垣裏込め



D面調査風景



E面側通水部掘り下げ



D面のD1石列除去後裏込め



D面のD2石列裏込めとモルタル



D面のD2石列のモルタル



D面の最下D3石列東側



D面の最下D3石列西側



D面の最下D3石列東側

- 2006/12/16 仮橋設置 黒門仮設橋設置
- 2006/12/12 小学校と打合せ 田口小学校と打合せ（文化財課、施工業者）
- 2006/12/16 文建協指導 施工打合せ（文建協、文化財課、施工者）解体調査・粘土材料等
計画変更申請申請 計画変更承認申請、本年度施工監理範囲を概ね南の半分の範囲に縮小。
- 2006/12/25 文建協指導 解体準備と仮遣り方を終え、五味先生の指導を受ける。
監理の体制 解体中に石垣一段ごとの状況を撮影し、記録する。通水口については構造の確認調査と内部の土の採集を行う。残土掘削、搬出、処理



E面のE1石列西側の裏込め



E面E1石列東側の裏込め



E面E1石列東側の裏込め



石垣解体仮遣り方（下流側）



石垣解体仮遣り方（上流側）



E面石垣解体準備終了



E面のE2石列と裏込め



E面のE1石列除去後の裏込め



E面の最下E3石列東側



E面の最下E3石列西側

平成19年

2007/1/9

2007/1/11

2007/1/13

文建協指導

解体準備工

除雪、足場工、仮設水替工を始める。

B・C面起工測量、丁張り升目工。

五味先生による石組み時の形態および基準の検討。番付、基準栞目は仕様書の通り付されていた。

設計書にもとづいた仮遣り方が設けられていた。

石垣解体工

石垣解体工に入る。～22日

2007/1/20

文建協指導

排水口裏込め

石垣解体後の状況に付いて五味先生の指導を受ける。

石垣の裏側にモルタルを削り込んだ箇所があり、裏込めは砂礫が大半で、ビニール製品や近年の瀬戸物などの遺物が混入している。

石組み暗渠

排水暗渠の蓋石のうち、中央部の3石は石垣の築石が転用されており、暗渠内は泥状の土砂が充填し、流水不可能状態である。

粘土層

今回解体した部分には漏水防止層が皆無である。裏込めをさらに掘り下げて、漏水防止層を確認する。

石垣の修理年代

石垣内部の異物の様子から昭和40年代頃に修理されたものと推察される。

漏水防止層

石垣修理に当たり、漏水防止層（粘性土版築）を設け、止水防止効果を高めるために、止水シートを挿入したり、通水部の石垣（D・E面）を支える盛り土にセメント系硬化材を混練して強度を高め、石垣の沈下を予防するなど現代的工法の併用も必要と思われる。

修理範囲の変更

五味氏の指導をもとに、修理範囲の変更に必要な実測を行い、写真を撮影。

補足粘土

補足粘土の透水性、試験結果の報告では、24時間の経過では、水位の差はなく、石垣裏に用いる止水用粘土としては問題はない。



解体終了 石組み暗渠検出



石組み暗渠内には泥土が充填



石組み暗渠（北より）



石組み暗渠と下流B面にある排水口



石組み暗渠とG面（西より）



石組み暗渠 蓋石下面とその周囲が加工されている。（南より）

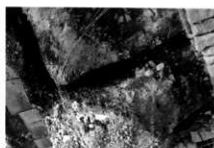
2007/1/23	文建協指導	五味氏の見解を報告。
	発掘調査の 必要性	築城時の裏込め工を確認するため、堰を横断する方向にトレンチを中央に入れ、断面を観察する。現状の裏込め工は締まりがなく、この上に新しい裏込め工を築くことができないので、すべて取り除く必要がある。その前にトレンチを入れ断面を調査し、築城時の裏込め、盛り土層を確認する必要がある。
	取り替え石材特定	解体石材について、取り替えが必要なものを決定する。
	実測作業	残存する石垣の各部について必要な実測調査を行った。
	計画変更の必要	発掘調査期間の増、修理範囲の拡大が見込まれるので、計画変更の手続きが必要となる。
2007/2/2	文建協指導	文建協より、五味先生の見解を説明。
	発掘調査	発掘調査の目的、位置、範囲について調査係から説明。
	変更計画書	2月末までに変更設計書を文建協で作成する。
2007/2/2	発掘調査	排水口に南北のトレンチを設定し、排水堰の構築土の確認をする。石組み暗渠の北隣に粘土に包まれた木樁を検出する。止水防止粘土層が所々で確認された。南岸の堤に入れたFトレからは堤に粘土が貼られ「はがね巻き工法」という白色粘土が挟まれている。
～2/20	(第8～10図参照)	



平成19年2月の発掘調査風景



Cトレンチ北側5層



Cトレンチ南側5層



堰に3本のトレンチを設定



Bトレンチ北側下部に黄褐色粘土



Bトレンチ南側下部に黄褐色粘土



B面北側の止水用青灰色粘土



B面南側の止水用白色と青灰色粘土



南岸で部分的に残る粘土層

1. 近年の改修は広範囲に及んでおり、石組み暗渠施設も据え直されている。この時期の盛り土は砂質で、ビニール片や陶磁器片が多量に含まれており、締まりのない不安定な土である。
2. 上流側の東面（G面）の石垣裏にはモルタルが充填されている。積み石の縫（とも）側石に用いたコッパ（割石片）の使い方がごく最近の施工であることを物語る。
3. 石組み暗渠の天端石（蓋石）は通水部の敷き石を転用している可能性がある。
4. 古そうな盛土層は、小学校側の下部と対岸に一部残っている。東面（G面）の石垣の裏側には茶褐色粘土の粘土層が残り、それより内部には栗石が混入した粘土層が残っている。
5. 小学校側の通水部の石垣の下方に粘土層が残っており、止水を目的に施工されたものと考えられる。
6. 石組み暗渠の北隣（小学校寄り）に木製の通水施設のようなものが検出され、周囲は青灰色粘土で覆われている。
7. この位置は、下流側の西面石垣に設けられた石組み暗渠排水口（B面）の北隣にある穴に通じていると考えられる。
8. 対岸下流側の南面土壁の中から高さ1.2m程の石垣（南裾石垣）が検出された。その積み方により、修理されたものか、後世新たに築かれたものとする。 （農業用水路を整備した時法面の崩壊防ぐ目的で築かれた可能性がある。）
9. 木製通水施設については、築造当初の可能性があるもので、その構造や下流側の石垣面に開いている口に通じているか否かを調査すべきである。また上流側では石垣の根石より下に位置しているの、石垣面上流側に何らかの施設があった可能性がある。



排水口（堰）北側



A面とB面入り隅部裏込め



F面裏込め



H面裏込め（西より）



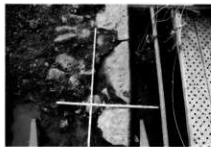
石組み暗渠の隣下にある木製埋設物と脇の青灰色粘土



木製埋設物が通じる位置にあるB7-1石の下の穴



H面野面積み部裏込め



H面の根石と築城当時と思われる裏込め



H面根石の裏には近年の遺物は含まれていない

10. 石組みの暗渠施設については、蓋石や側石に通水部の敷き石を転用した可能性があるので調査する。
11. 「はがね」とはここでは田んぼの止水効果を高めるために、施した帯状の粘土層を言う。龍岡城の「はがね巻き工法」もこのような止水層の意味と考えられる。
12. 陸軍が築城本部を作り、各地の城の調査を進めた。その延長線上の史料が「昭和8年10月」の記のある「復旧計画要領書」といえるであろう。
13. 対岸下流側の南面土塁の中から高さ1.2m程の石垣が検出された。その積み方により、修理されたものか後世新たに築かれたものと考える。（農業用水路を整備した時に法面の崩壊を防ぐ目的で築かれた可能性がある。）
14. 高遠の石工は、本来加工石工で墓石や石像を作っていた。これが石垣石工に変わっていくのだが、龍岡城を含めて周辺の石文化はその過程を物語る文化財であり、見直しが必要。

2007/2/20

計画変更承認通知

2007/2/26 石組み暗渠施設

昭和9年5月1日の指定当時に石組み暗渠施設は存在していたと思われる。対岸土塁側の近年の裏込め土が不安定なものならば石垣を安定させるために必要な範囲は修理すべきである。土塁部分が指定外であっても指定範囲内の石垣を安定させるために必要ならば修理対象としてよい。

2007/3/13 計画変更申請②

年度内に工事完了が無理なため、繰越明許事業となる。

2007/3/15 施工打合せ

今後の方針について（文化財課、監督員、施工業者）

2007/3/31 計画変更承認②

計画変更承認



B面の裏込めと粘土



C面石垣と南裾石垣



石材整理と計測



Gトレ全景



Fトレ全景



Fトレ層にある粘土

2007/4/18 文建協指導

1. 小学校の対岸側土塁尻に検出された石垣は存置し、その裏込めを残して内側にある近年の盛り土を取り除く。本日午後より調査員を入れ、旧盛り土の残存状況を確認する。
2. 今後の工事日程は発掘終了後、連休明けから石垣の解体に着手し、続いて石積み工を進め、5月末には石垣工事を終えたい。

2007/4/20 発掘調査を進める。

2007/4/27 現地協議 石垣裏の盛土撤去および発掘調査が終了。現地確認と課題の協議。

築造後の修理履歴の概要

1. 昭和初期に石組み暗渠が設けられ、これに伴う工事によって石垣内部の構造体が大規模な改修を受けた。
2. この後G面北側とH面の石垣が根石をのこして、上部を修理された。時期は不明。
3. この後石垣に沈下や変形が生じ、昭和40年代後半以降に上・下流面を修理した。
4. 農業用水路側の石垣を昭和40年代後半～50年代前半にかけて構築、その後50年代後半には土砂に埋まった。

築造時の石垣内部の構造

1. 石垣裏には粘土が上流側で4層、下流側で3層に築かれており、その奥行きは石垣表面から上流側で1.8m、下流側で1.7m程度である。この粘土層は上流の土層へも続いている。
2. 上記の粘土層内部はシルト・粘土・礫を混入した人為的盛土が築かれている。

石垣の基礎工法

1. 平成17年度の調査では根石の下には黄色粘土層が確認された。しかし、粘土の上に直接根石を据えるだけでは石垣が変形するので、根石を支えるための何らかの地業が施されていると考えられる。今回、根石一石を選んで取り外し、その下の状況を調査した方がよい。(五味)

その他

1. 近年の南裾石垣は土層尻の処理に必要なのでそのまま残す。
2. 上流側では築造時の石垣裏込めと粘土層との取り合いが不明なので、今後の石垣解体に際し、明らかにする。
3. 粘土層を3～4層に築く意味が現段階では分からないが、石を積む際は奥行き寸法を踏襲して粘土層を築く。また残存している粘土層は出来るだけ保存する。なお石垣裏30cm位は粘土のなかに出来るだけ栗石を入れる方が強度が出ると思われる。
4. 石組み暗渠については、昭和初期に作られたものであることが判明したので、調査して取り外すことが理想的だが、工期的に問題が生ずる。
5. D面・E面の石垣を粘土だけで支えると、すぐに石垣が変形することは明らかなので、石垣の下に平たい雑石のような石を据えて石垣を支える。

2007/5/9 現地協議 予定範囲の石垣解体作業が終了。現況確認と今後の石積みについて

1. 南裾石垣の実測、暗渠施設から南の構築土の確認をする。G-4面の石垣の高さでは裏込めに添って粘土層が確認された。
2. 石垣裏の盛土撤去および発掘調査が終了。
3. H面の入り隅部に築造時の裏込めが検出された。奥行きは石垣表面から3尺ほど、長さ5～6尺の範囲で、大き目の栗石を小橋立てに詰め、間に小さい川原石と粘性土(シルトと粘土混合土)を詰めている。根石の裏は砂と粘土であるが、本来は川砂だけで、後年内部の粘土が喰いだされてこのような可能性がある。
4. 石組み暗渠の蓋石下場から53cm程下に溝底が検出された。これは栗石を敷き並べた層で、栗石間にはヘドロが詰まっているが、地山を掘り込んで栗石を敷いたものと思われる。
5. B面の石組み暗渠排出口周囲の石組みは安定していると思われる。
6. G面の根石下部の調査は全体的に総持ちで安定しているので、一部を取り外すと復旧後沈下することが懸念されるので、今回の調査は見合わせる。
7. 裏込め工の奥行き寸法は、石垣表面よりG面・H面で0.6m(2尺)、B面・C面で0.9m(3尺)とする。なおH面で新補材(控長0.6m)が入る所では奥行きが増えてもよい。
8. 粘土層の奥行き寸法は、石垣表面より、G面・B面で1.8m(6尺)H面・C面で1.5m(5尺)とする。
9. 石組み暗渠は、上流側の蓋石3石を取り外して、中の土砂をさらし、粘土を詰めて止水する。同様にこの範囲の暗渠側石の両脇も後世の盛土をさらし粘土に入れ替える。石組み暗渠の周囲に薄く粘土を巻き、これをベントナイト・シートで覆って止水する。



盛土を除去（西より）



G面G-5列のモルタル



B・C面入隅部根石の飼い石と裏込めは築城時か



南榭石垣発掘調査風景



南榭石垣（南西より）



南榭石垣東端



G面とH面の入隅部に残る築城時とみられる粘土層と南岸の堤に残る粘土層
南岸堤の粘土層はFトレンチまで続く。



排水口南側で面的に確認された粘土範囲
上は北より、下は南より

2007/5/18 裏込め工法

積石を安定させるため、大きな飼い石の間にも小さな栗石をたくさん詰めたので、盛土が間に入らなかった。→強度的に問題はない。盛土は後年流出して変形の原因になるので、今後もこの方法でよい。

H面の通り

入隅を仮積みし、2部勾配となった。H面東端先の野面積みは4分勾配である。→東端を3分勾配にし、入隅2分からねじって納める。

D面・E面石垣下の粘土の厚さ

通水部の粘土の厚さ→葛石より下に1尺は欲しいので葛石上端より50cm下がりの間に粘土層を設ける。

G面

G面の下から3段目の小学校側入隅2石は築城当時のままと考えられる。

2007/6/11 最終確認

主要工事が終了したので、現地での最終確認および協議を行う。
出来形設計図を作成し提出する。



石組み暗渠の東端に粘土を充填



石組み暗渠を粘土・シートで覆う

石積み工（上流側）

石組み暗渠のG面側3石の蓋を取り、中に粘土を詰めて止水する。暗渠全体は粘土・防水シートで覆う。石積みはG面から行い、築城時に做って、裏込め、粘土、盛土を構築した。



G面から石積みを行う



H面の裏側地業



上流側のH3列まで復元



B面石組み暗渠



B面を積む、B6-6は新材にする



B面とC面の裏込め



B面石組み暗渠



B面を積む、B6-6は新材にする



B面とC面の裏込め

石積み工（下流側）

B面の暗渠排水口は安定していることが確認される。上流側のD面とE面の石積み検討の結果をもとにB面の勾配を決定する。



南裾石垣の土盛



H19年度の工事を終了し、シート養生

(平成19年度事業)

2007/10/4 現地打合せ

解体工事

1. A面・F面については最小の範囲で設計する。
2. 石垣の内部については裏込め栗石の奥行きの方までの解体とし、工事の状況により、必要な変更をする。
3. 南岸および通水部の石垣は昨年度と同様の施工をする。
4. 通水部については、堀水の侵入による石垣の変形と下流面への漏れをできるだけ少なくするために、通水部を横断してD面・E面の石垣裏込め裏で立ち上がる形状にベントナイトシートを入れる。シートは積石二段目まで立ち上げる。
5. 上流側の場底に水漏れを防ぐため、粘土を補足する。下流側は掘り下げた土砂を旧状のように埋め戻すのみ。
6. 通水部上面にも粘土層を形成し、粘土の表面に砂利を叩き込んで、流水による浸食を予防する。
7. 南岸法面と石垣上面は、盛土の流失を予防するため、植生シートで覆う。シートはワラ芝系とする。

2007/10/17 設計図の確認 現地打合せ・施工業者着工

2007/12/26 小学校と打合せ 田口小学校と打合せ(施工業者、文化財課)

(平成20年) 準備工 水替工、敷鉄板、土糞除去

2008/1/8 文建協現地指導 工事区域内に生徒が入ることのないよう仮囲いを確実に設置すること。

2008/1/16 安全性の確保 工事範囲と内容の確認

石垣工事 石垣の裏込めについては内部状況を調査確認しながら解体範囲を決定する。また裏込めに用いられている粘土については施工時に凍結しないよう養生方法を検討する。上記の粘土については昨年同様に、土質検査を行い、その結果を報告すること。解体準備工、仮造り方設定工

2008/1/19 石垣解体 石垣解体工F面・G面、跳ね出し石解体、裏込め解体、残土搬出、石材整理工、取り替え石材調査

2008/1/20 石垣仮積み F面・G面仮積み

2008/1/21 A面・B面解体工、跳ね出し石解体、裏込め解体、残土搬出、石材整理工、取り替え石材調査

2008/1/22 石積み工 A面仮積み、B面勾配修正、G・F面石垣積み工・裏込め工

2008/1/23 石積み工 A・G・F面石垣積み工、裏込め工



▲F面石垣積み工



A面石垣解体工▶

F面・G面の解体、仮積みをして、A面・B面の解体をする。



F面石垣解体と裏込め状況

2008/1/23 文建協現地指導

1. 石垣解体および石積み状況の確認、D・E面脚部の納め方協議。
2. A面・B面・F面については設計範囲が解体されていることを確認。
3. 解体範囲の裏込めには、粒径15～20cm位の川原石と粒径3cm位の川砂利が使われていた。
4. その裏側の盛土には粒径3～5cmの川砂利が混ざった土砂が使われており、粘土はみられなかった。今回解体した積み石では取り替え必要なものはなかった。
5. D・E面の根石下端の通りはかなりの凹凸が生じるので各面での最も低い根石の下に、止水用のベントナイトシートを敷き込み、この上に平たい割い盤石で高さを調整しながら根石を据える方法を試みる。

2008/1/24 石垣積み工 A・B・F面石垣積み工、裏込め工、補足粘土、補足土工、A・F面跳ね出し石仮振り付け

2008/2/4 石垣積み工 石垣積み工、裏込め工、粘土補足土工、D面下栗石・ベントナイトシート工
各面の仮積み状況の確認

2008/2/9 文建協現地指導 石積み状況の確認。五味氏の指導

2008/2/13 文建協現地指導 石積み状況の最終確認。五味氏の指導、出来高寸法実測

2008/3/18 出来形検査（佐久市検査課）竣工



D面石垣下の敷石



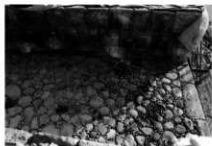
積み工 G面・D面出隅部裏側



積み工 D面・B面出隅部裏側



積み工 E面



通水部敷石（E面を見る）



C面の土嚢養生と上面の土盛り



竣工 上面に芝を張る

第3節 穴門排水口発掘調査の結果

まず石垣の上面の観察のために、穴門排水口付近の石垣を堀に平行して14m、幅12m範囲で表土を剥いた。また裏込めの厚さを見るために、石垣を壊さない程度の狭いトレンチを入れ確認した。第10図に示したが、石垣上方は河床礫を主体とした裏込めであり、H面のAセクション面のみ18層のシルトと砂が込められている。裏込めの幅は石垣の全面から1m~1.5mである。

石垣の解体作業に入り、D・E面の通水部の石垣の解体を進める。その中で、構築時ないし昭和8年の陸軍の復旧の痕跡を確認するため、水門に南北3本のトレンチを設定した。その結果、水門を構築している5層は粘質土ながら、土の中には陶磁器、ガラス、ガラス瓶、ビニール、プラスチック、金属を含んでいた。陶磁器はかなり多量である。この5層は通水部D・E面の石垣上面から約2m下まで及んでいた。その地点からは石組暗渠が堀と並行して検出された。上流側G面の下にある排水用とみられる水抜口と、B面の放水口をつなぐもので蓋石は長さ60~84cm、幅30~50cm、厚さ18~28cmの扁平に加工された石を並べている。暗渠の内口の大きさは32cm四方である。石組暗渠の側面まで5層が及んでいる。暗渠の側面と上部からプラスチック容器の内蓋や、ガラス片、青色のガラス瓶片が出土している。暗渠の蓋石には、跳ね出し石を転用した可能性がある石材もあり、構築時のままではないと思われる。

しかし、第11図にみるように底面付近には12bの青灰色粘土が見られ、後世の影響は受けていないとみられる。この石組暗渠の北に並列して、石組暗渠の底面と同じ高さに木樋とみられる木片が12bの青灰色粘土中に見られた。これは下流側B面石垣にみられた石組暗渠の口のほかに北に開く口と一致している。ただ、上流側のG面石垣では口が確認出来ていないがBトレンチ地点では粘土と木製埋設物の一部の木片がみられる。

第12図に示したが排水口の南裾からは石垣が検出された。南裾石垣としたが長さ10m、高さ1m、裏込めを含めた幅約1mを測る。南の水路と方向が一致していることから、水路による堰の崩壊を防ぐために設けられた石垣であろう。南裾石垣自体は切断していないので遺物は出土していない。五味氏の見解では新しいものとしている。

第13図は、5層除去後の土質図で、粘土の「はがね巻き工法」を確認したものである。B面でB6列のレベルで石垣の面から1.1mの内側に幅1m、中央に0.3m幅の白色粘土を入れている。G面ではG5列レベルで石垣面から1.2m内側に0.9m幅で同様に白色粘土を挟んでいる。H面のH4列レベルで石の面から1.8m内側に0.9mの幅で粘土を持ち、中に白色粘土を挟んでいる。

石垣の裏込めの背後に1m幅に粘土を貼り、その粘土の芯に幅30cmの異なる白色粘土を挟んでいる。佐久地方では水田の水漏れ防止として在来で行われている方法である。対岸にあたる堀の南岸に設けたFトレンチも同様に粘土層が検出され、南岸の堤にも「はがね巻き工法」がなされ、水漏れ防止をしていることが確認されている。

裏込めは栗石が詰められていたが、構築時のものと見られる裏込めが2か所にみられた。その一つは第14図に示した。H面の石垣のH6列レベルで部分的に確認された裏込めである。この部分は石垣の面から幅1mの裏込めであり、削い石と裏込めの確実で念入りな仕事から築城当時とみられる。また同様にB面とC面の入隅部にあつて、B6列の下レベルとC1列下レベルでも築城時の裏込めが残っていた。

これらにより、穴門排水口は築城時に堰として構築され、明治の廃藩後、堀は埋められて桑が植えられた(南佐久郡の古城址調査の図参照)。昭和8年から2年がかりで陸軍築城部本部により、旧状



B面石垣 築城時の裏込め

に戻された。このときの陸軍の「復旧要領書」では、水門は「新設コンクリート作り」としているが、今回の調査で、下部の粘土や裏込めに築城時のままの部分が残っていることから、上部のみコンクリート造りで復元したのと思われる。そして、第二次世界大戦の最中、堀の東・南側は水田耕作され、戦後も20年代半ばまで同様であった。(P20 史料3小学生の年表)戦時中は水堀としては機能しないものの水のたまる状態であったことは確かで、また秋になれば排水の必要もあったとおもわれる。この堀は昭和28年に修理が必要な状態であったことは確かである。昭和28年田口村公民官報に「五稜郭石垣修理なる」の見出しで、樹形石積、漆の石積3ヶ所、水門暗渠1ヶ所とある。「水門暗渠1ヶ所」は穴門排水口のことで、その写真に「五稜郭南方の払いまち」と注があり、穴門排水口が掲載されている。このときに暗渠まで手が加えられたようである。(P16 資料29)

そして昭和48年秋半年がかりで清掃した(小学生の年表)とあり、この年は現在の田口小学校が新築された年であり、関連して手を加えられたようである。ここには工事に関することはかかれていない。

これらから排水口は築城時には存在し、その後上面は崩壊し、昭和8年に復元され、昭和28年に石組暗渠まで修理されていることになろう。

昭和48年にどこまで手が加えられたかは「南側の堀には耕運機も入れられて土をすっかり耕し、漏水を防ぐ手だてもこうじられた」と小学生の年表にあり、土や石も取り除いたようであるから、穴門排水口の表層はこの時に整えられたであろう。今回修理した構築土の中に戦争中の陶磁器が大量に含まれており、ガラスやプラスチックも含むが、それほど多くない。暗渠付近はこれらの陶磁器・プラスチックの混入量が少ないことから、昭和28年の修理が妥当とおもわれる。しかし、昭和48年の範囲はつかめていない。

解体した石と石材の情報については、第15・16図に示した。また今回の石積工については第17・18図に示した。参照願いたい。

龍岡城跡排水口出土木製品(遺物番号1043)の樹種

高橋 敦(パリーノ・サーヴェイ株式会社)

はじめに

龍岡城跡(長野県佐久市田口)は、江戸時代末期に築城された城郭であり、北海道函館市の五稜郭と同様の五芒星形の西洋式城郭として著名である。

本報告では、龍岡城跡の用水排から出土した木種とみられる木製品の樹種を明らかにするため、樹種同定を実施した。

1. 試料

試料は、用水排から出土した木種(1043;FF-1)の1点である。

2. 結果および応札

木種は、針葉樹のマツ属複雑管束亜属に同定された。以下に、解剖学的特徴等を記す。

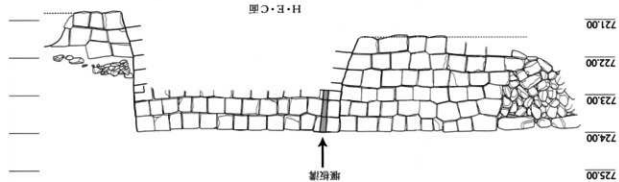
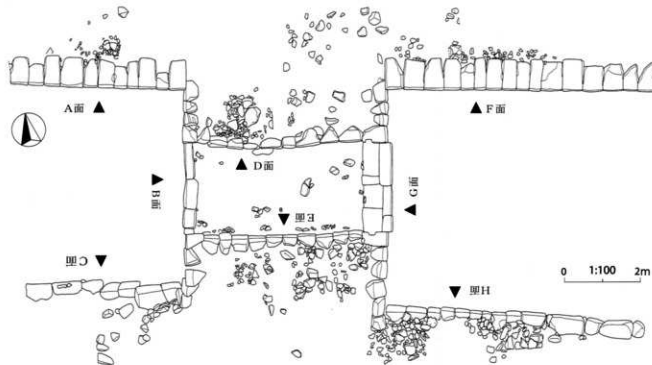
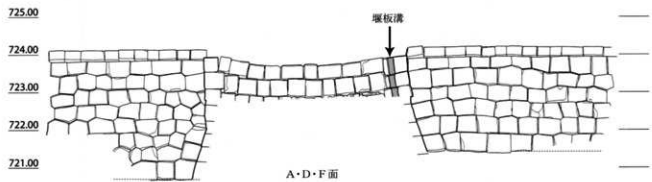
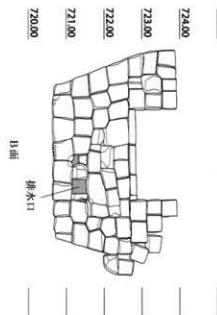
・マツ属複雑管束亜属(*Pinus subgen. Diploxylon*) マツ科

軸方向組織は仮道管と垂直樹脂道で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は急へや緩やかで、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道は晩材部に認められる。放射組織は、仮道管、柔細胞、水平樹脂道、エビセルウム細胞で構成される。分野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁には鋸歯状の突起が認められる。放射組織は単列、1-15細胞高。

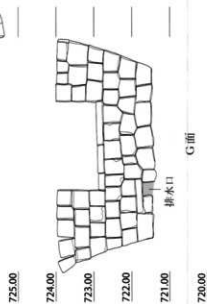
分析に供された木種(1043;FF-1)は節に相当する部分にあたり、本来の形状や木取りは不明である。本資料は、樹種同定の結果、針葉樹のマツ属複雑管束亜属に同定された。本州に生育するマツ属複雑管束亜属は、アカマツとクロマツの2種があり、アカマツは二次林等に広くみられ、クロマツは海岸砂丘等によく生育する。いずれも常緑高木で、木材は軽軟であるが強度と保存性が高く、とくに水中にある時の保存性が高いとされる。木種にマツ属複雑管束亜属が利用された背景には、木製品の用途を考慮した用材選択があったと考えられる。

引用文献

Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E. (編) 2006. 針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘(日本語版監修) 海青社, 70p. [Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E., 2004, IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification].
島地 謙・伊東隆夫, 1982, 図説木材組織. 地球社, 176p.



D面 (南より)

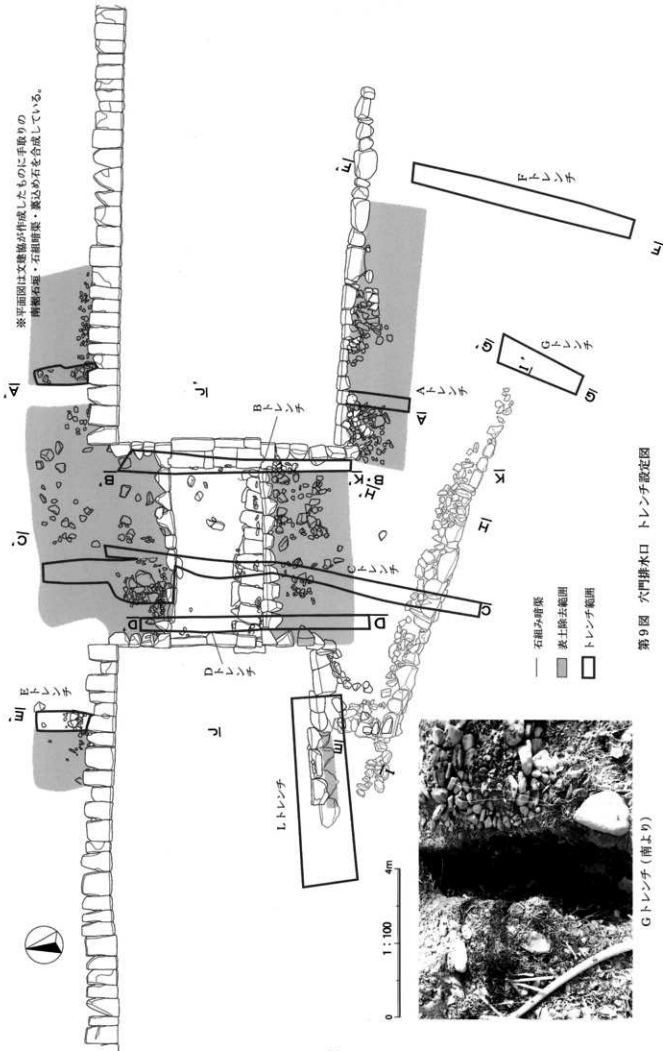


G面 (北より)

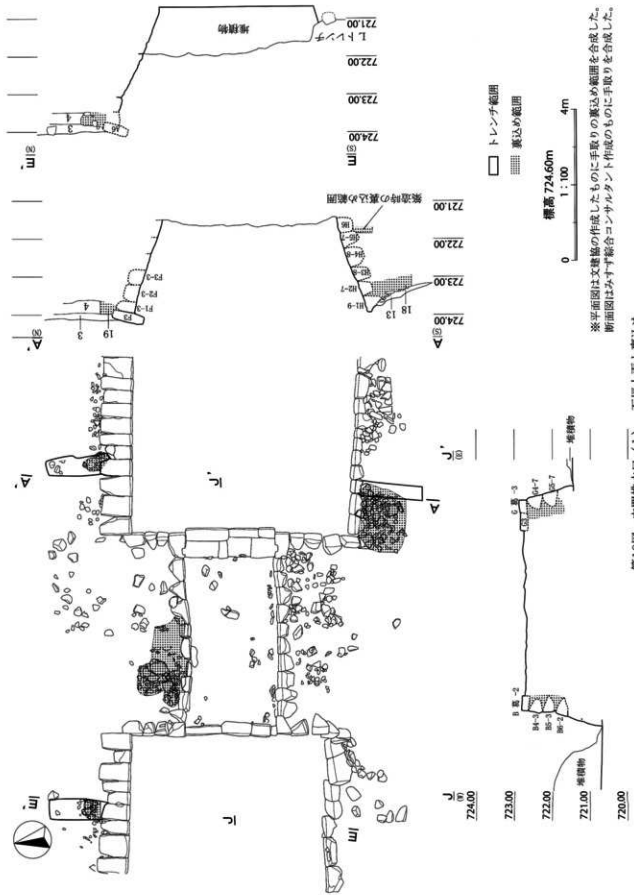


第8図 穴門排水口 石垣現況図

※平面図は文建協が作成したものに手取りの裏込め石とC面を合成した。
立面図は文建協作成。

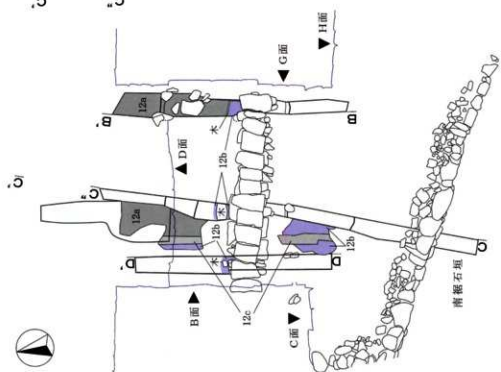


第9図 穴門排水口 トレンチ設定図

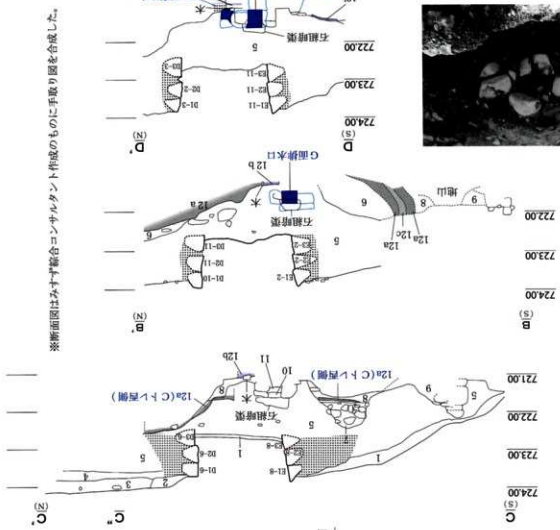


※平面図は文書協の作成したものに手取りの掘込み範囲を合成した。
断面図はみずぬす総合コンサルタント作成のものに手取りを合成した。

第10図 穴門排水口 (1) 石垣上面と掘込み



□ トレンチ範囲

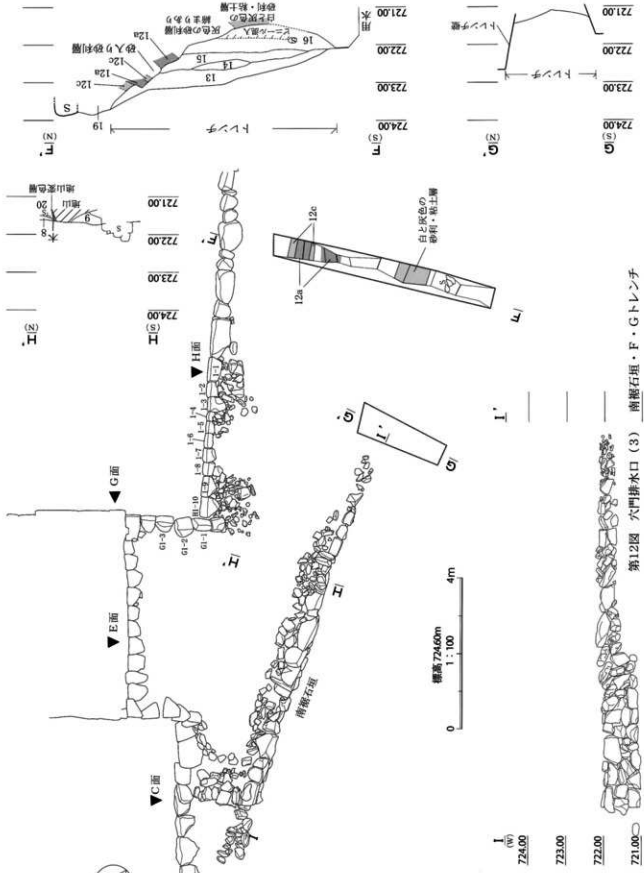


Cトレンチ7層裏込め(東より)

※断面図はみずすけ総合コンサルタント作成のものに手取り図を合成した。

▨ 裏込め範囲

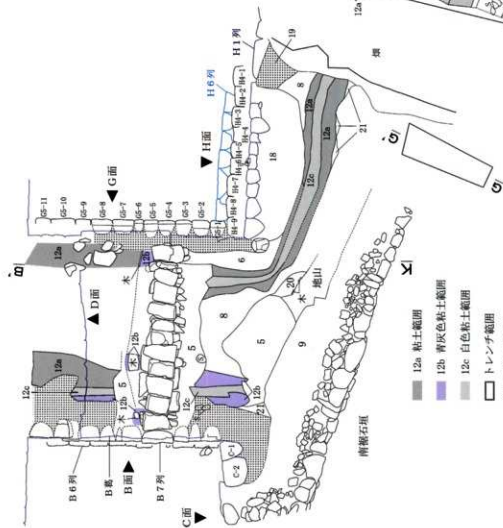
第11図 穴門排水口(2) 石組暗渠



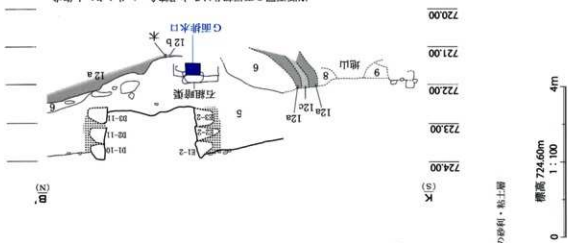
第12図 穴門排水口 (3) 南瀬石垣・F・G・トレンチ



0

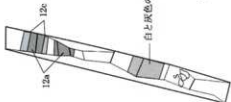


- 12a 粘土範囲
- 12b 黄灰色粘土範囲
- 12c 白色粘土範囲
- トレンチ範囲
- ▨ 築込み範囲

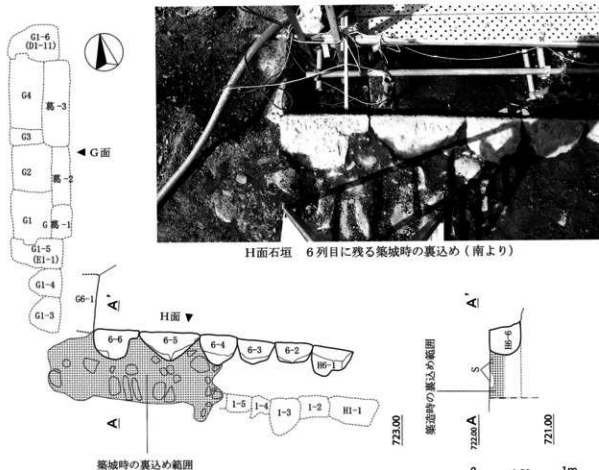


(B)

720.00
721.00
722.00
723.00
724.00 (S) K



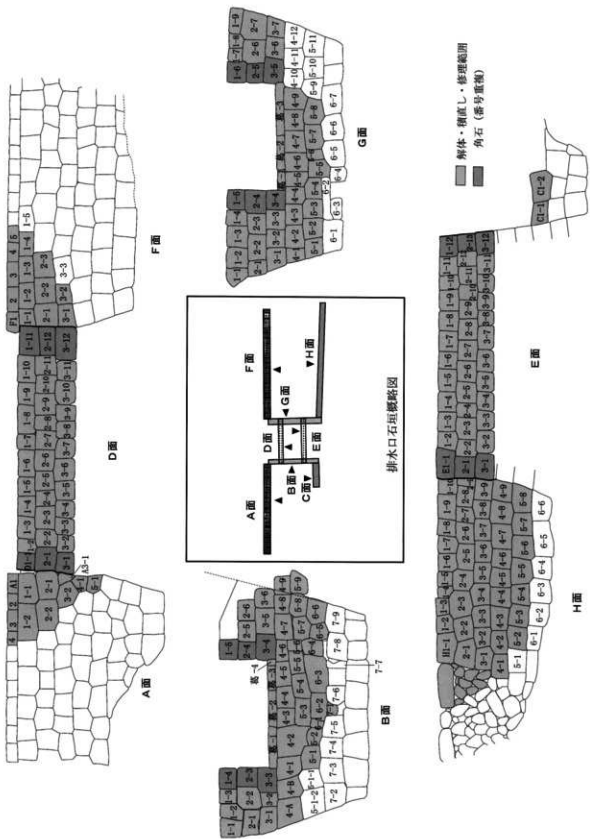
第13図 穴門排水口 (4) 土質図 (L)



第14図 穴門排水口 H面の築城時裏込め図

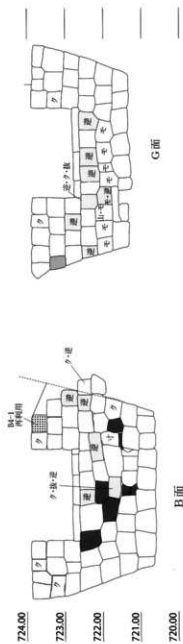
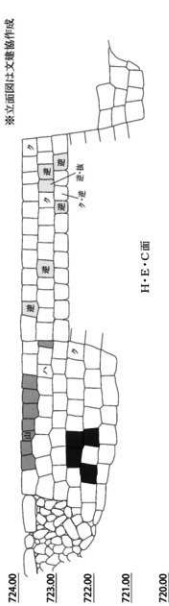
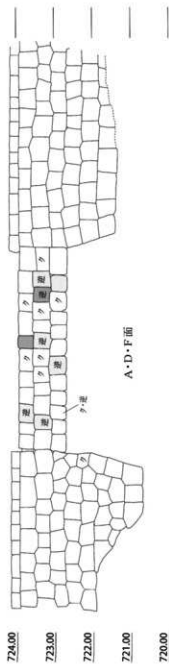
穴門排水口土層説明

1. 暗褐色土層 (10YR3/4) ゴミ堆積層。ビニール等を多量に含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/3) 土塁補修時の山砂か？
3. 暗褐色土層 (10YR3/4) ガラス・瓦等を多量に混入。大・小礫を含む。
4. 暗褐色土層 (10YR3/3) φ1~5cmの礫を多量に含み、暗褐色の粘土ブロック少量混入。
5. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 粘質土。礫を多量に含み、締まり無し。カラン土。陶磁器・ガラス・ガラス瓶・ビニール・プラスチック・スチール缶・アルミ缶を多量に含む。
6. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) S層中に粘土を多く含むもの。S層より陶磁器・ガラス・ビニール・プラスチック・スチール缶・アルミ缶等は少ない。漏水を防ぐ為の版築土。
7. 石垣の裏込め。
8. 褐色土層 (10YR4/4) 砂質土。φ15cm大礫を多く含む。陶磁器・ガラス片を含む。
9. 南側石垣の裏込め。下部締まる。ビニール・陶磁器片等を含む。
10. 褐色土層 (10YR4/4) 砂層。(石組階層内)
11. 花肥。(石組階層内)
12. 粘土層。
 - a. 褐色土層 (10YR4/6) ・にぶい黄褐色土層 (10YR7/3)
 - b. 青灰色土層 (5b5/1) 青灰色粘土。
 - c. 白色粘土。
13. 褐色土層 (10YR4/4) 地山。砂質土。
14. 黒褐色土層 (10YR3/1) 表土。締まり・粘性あり。
15. 黄褐色土層 (10YR5/6) 締まり・粘性弱い。砂層。
16. 暗褐色土層 (10YR3/3) 締まり・粘性弱く、小礫を多く含む。
17. 暗褐色土層 (10YR3/4) 締まり・粘性弱く、こぶし大の礫を含む。
18. H面石垣裏込め。シルト・砂混合土。
19. G・H面裏込め。礫主体。
20. 黒褐色土層 (10YR3/2) 締まりなし。砂質土。シルト質土を含み、大小礫を多量に含む。
21. 灰黄褐色土層 (10YR4/2) 締まる。粘質土を多量に含み、シルト質土・砂・礫を含む。



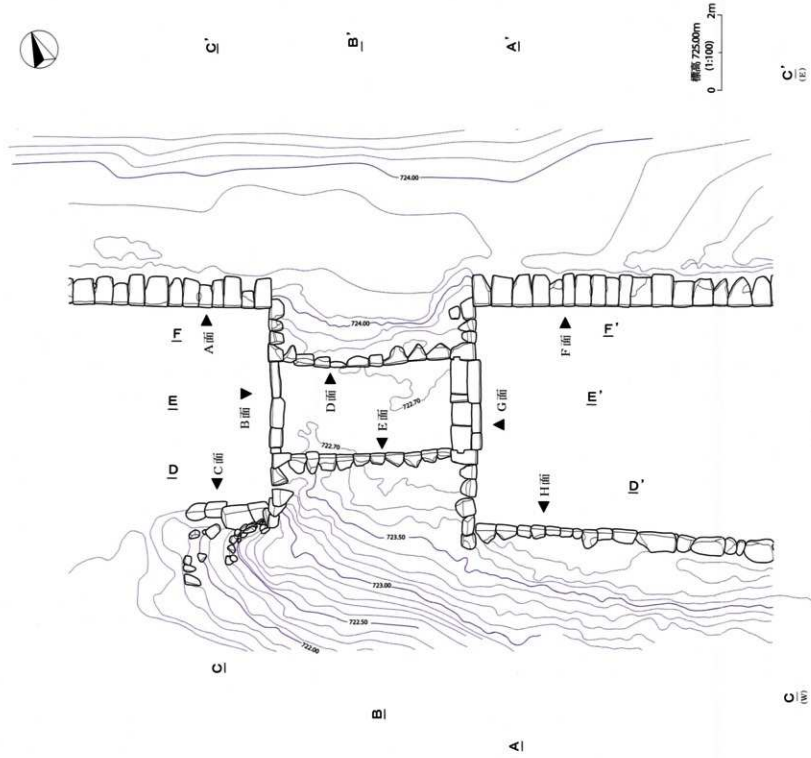
第15図 六門排水口石材番号一覧図

※立面図は文書協作成



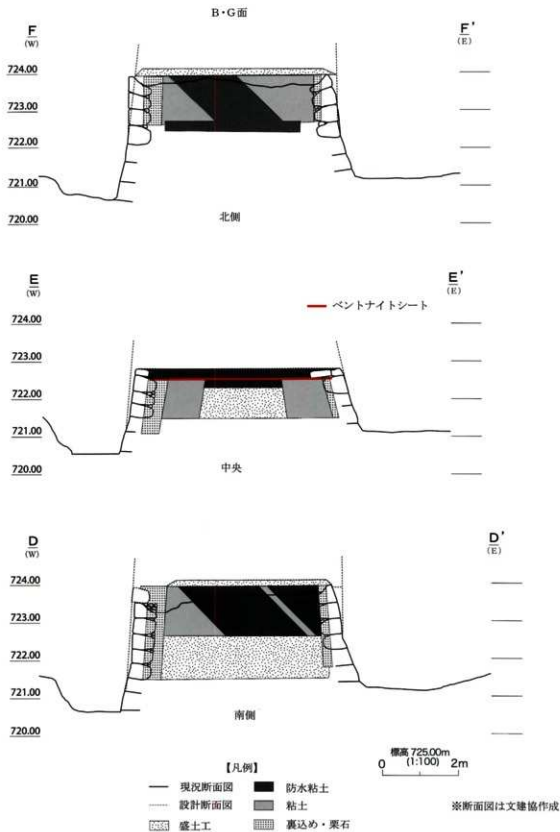
- 山 (山脈)
- タ (クラック)
- 寸 (寸法不足)
- 抜 (欠損)
- ハ (割傷)
- モ (モルタル付着)
- 逆 (逆さ石)
- 加工
- 取替え (新材)

第16図 穴門排水口 破損・修復石材区分図



第17図 六門排水口 石積工 (1)
(平成18・19年度)





第18図 六門排水口 石積工(2)

第IV章 旧プール撤去工事に伴う調査

第1節 旧プール撤去工事に伴う発掘調査の経過

国史跡内のプール撤去・埋め戻し工事に際しては、工事による破壊が行われないよう慎重に進める必要がある。また、発掘調査により旧プール建設工事による破壊範囲・深度の確認するために工事の前に本調査、工事に際しては立ち会いを行った。その結果旧プール撤去範囲は攪乱されており、築城時の土層は確認されなかった。

(平成19年)

2007/4/20	現状変更申請 旧プール撤去工事（プールフェンスの外側1mを限度としてプールの施設のすべてを撤去する。）
2007/5/1	旧プール解体許可
2007/9/14	旧プールの北側の土塁との間にトレンチを設定し、掘り始める。
2007/9/28	プールサイドのブロックをはがしトレンチを入れる。
2007/10/17 (平成20年)	各地点のトレンチを掘り下げ、埋め戻し、ほぼ終了する。
2008/1/	プール撤去
2008/1/15	プール内のコンクリート下の調査。
2008/1/31	プール南に石組暗渠を検出（砲台南石垣石組み暗渠）。
2008/3/4	新たに設ける排水溝付近の調査。 北東の井戸付近の調査。

第2節 旧プール撤去工事に伴う発掘調査・トレンチ

旧プール撤去工事が国の史跡内であることから、撤去・埋め戻しに際して、旧プール建設工事に伴う破壊範囲を確認し、破壊範囲が広がらない様、工事前にプール外周にトレンチを入れ表土層を除去し、攪乱範囲の確認をした。その結果、今回の撤去範囲には構築時の土層は残っていないことが確認された。工事に際しては担当者が立ち会った。

第3節 砲台南石垣にある石組暗渠

プール短辺に当たるプール南端に石組暗渠が検出された。プール内はすでに破壊されて残っていない。第19図に示したが石垣と直交するもので、石垣外面からの写真（P58）をみるとよくわかるが外側で長さ60cm、幅72cm、高さ50cmの石をくり抜いて凹型に加工し、凹型溝の接合部は南の石を凹に北の石を凸にカットして整合し連続している。蓋石は幅70cm、厚さ16cmを測る。長さは分からない。凹型溝の断面形はほぼ28cmの正方形を呈する。石材は石垣と同じ凝灰岩である。



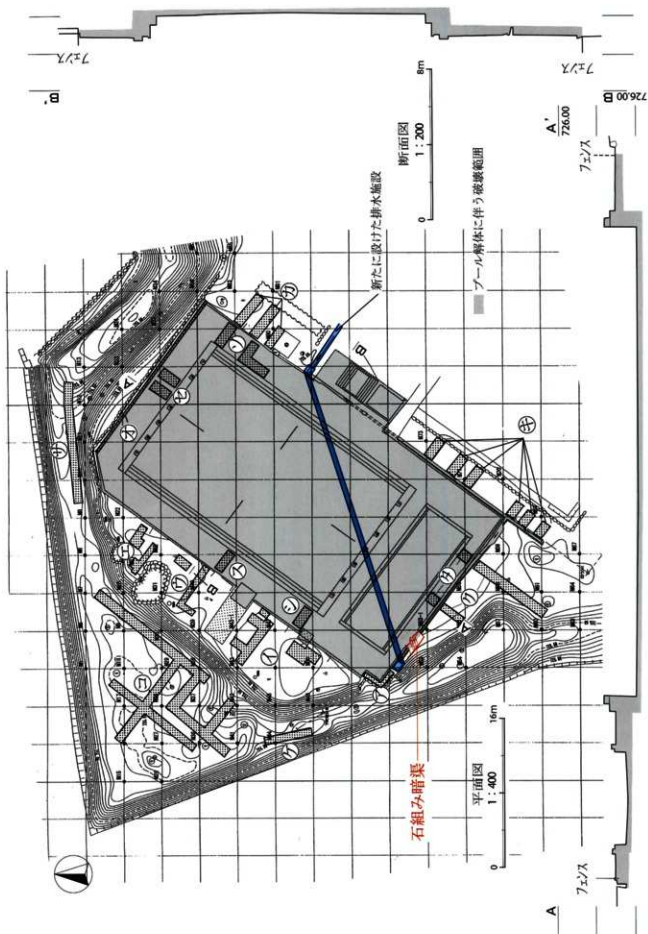
旧プール西側にトレンチ



旧プール撤去 南より



旧プール撤去後の整地 西より



第19図 旧プール撤去に伴う全体図・トレンチ配置図



㊦トレンチ (南西より)



㊦-1トレンチ (西より)



㊦トレンチ (西より)



㊦-2トレンチ (北より)



㊦-1トレンチ (西より)



㊦トレンチ (東より)



㊦-2トレンチ (西より)



㊦トレンチ (西より)

㊦~㊦トレンチ



㊦トレンチ (北より)



㊦トレンチ (西より)



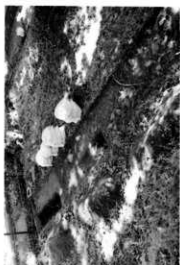
㊦トレンチ (西より)



㊦トレンチ (北東より)



㊦トレンチ (東より)



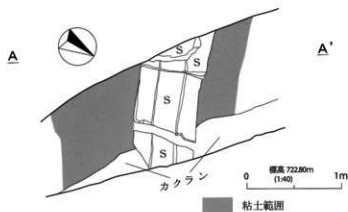
㊦トレンチ (西より)



㊦トレンチ (東より)



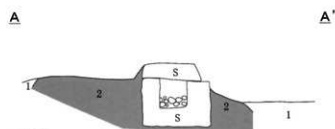
㊦トレンチ (東より)



石組暗渠・郭内（東より）



石組暗渠端部（東より）



土層説明

1. 黒灰色土層 20%シルトを含み3cm以下小礫を少量含む。
2. オリーブ褐色粘土層

第20図 石組暗渠（旧プール撤去時検出）



石組暗渠アップ（東より）

▼砲台南石垣外側（西より）



第V章 黒門西側石垣修理工事に伴う調査

第1節 黒門西側石垣の概要

1. 概要

龍岡城の西辺にあり、黒門の西側にあたる。佐久石（安山岩）を用いた切り込み接ぎの落とし積みとし、石垣天端には、跳ね出し石を据える。

石垣上面に土塁を築き、背後は法面とする。落とし積みは過去の修理で改変されたもので、石垣の東端の入隅部から約2mの範囲と西端の出隅部から約3mの範囲は当初と思われる亀甲崩しの布積みが残っている。

2. 石垣の寸法

区分	寸法	区分	寸法
跳ね出し石	延長50.318m (166.0尺)	せい	0.242m (0.8尺)
石垣上端	延長50.078m (165.2尺)	高さ	2.727m (9.0尺)
石垣下端	延長49.909m (164.7尺)	石垣全体 高さ	2.969m (9.8尺)

3. 破損状況

(1) 概況

黒門西の石垣は全体に石垣面の乱れが著しく、「孕み出し」「上部の後退」「壁面の前のめり」が連続して続く。このため石垣面は全体に波うった状態を呈している。

各積石は目地の開きが大きくなっているものや、積石のトモが下がったために目地位置で石垣面に食い違いを生じている箇所が散見される。

石垣天端に据えられている跳ね出し石は積み石の変形の影響を受けて通りの乱れや不陸が著しく、背面側へ転倒している箇所もみられる。また部分的に表面や角が欠損している石材も確認される。

積石が変形した原因は、裏込めの栗石や各積石間にほどこされた銅石がゆるんで石垣面に歪みが生じたものと推定される。また裏込めの施行不良や根石の沈下および積石の控えの長さが短い可能性もあり、これらも破損を助長した要因と考えられる。

(2) 積石

東西端部の石垣面より50cm離れた位置に前面道路の勾配なりに水系を張った状況から観察すると、石垣面は著しく歪みを生じているのに加えて緩みもみられ、積石間の目地が大きく開いている箇所が散見される。石垣面の破損として「孕み出し」「上部の後退」「壁面の前のめり」の三種が混在していることがよくわかる。

(3) 跳ね出し石

石垣天端には「跳ね出し石」が据えられているが、積石の変形の影響を受けたため本来直線であるはずの天端線は不陸を生じている。この他、石垣の孕み出しに伴い、天端位置が移動したため、跳ね出し石の座りが悪くなり、道路側に前転びになっているものや、逆に背面側に転倒しているものが見られ、全体的に不安定な状態といえる。

小口表面は積石よりも経年劣化が進んでおり、部分的に角が欠損しているものや小口全面が欠失しているものが見られる。

(4) 昭和50年代の修理の痕跡

佐久市教育委員会が実施した調査により、昭和50年代に行われた修理工事の概要がきらかにされた。

まず、積石表面に残る擦り傷の痕跡により積直範囲を概ね把握することができた。

この擦り傷は修理の際に、重機のバケットや積石を吊り上げるために挿入した鉄筋の擦り傷と推定され、特に中央部に残る傷は、番付けを削り落とした可能性も考えられる。

また聞き取り調査によると既存の栗石に碎石を補充しながら積み直し、モルタルは使用していないとのことで、積み直しを行ってから一年経過せずに孕み出してしまったとのことであった。

上記の孕み出しの原因として考えられるのは、裏込めに用いた資材および施工の良否が考えられ、本修理工事では解体時に破損原因の究明に努めることが求められる。

4. 修理方針の設定

前項に記したような破損状況を基に、修理方針を以下のように設定する。

【修理方針】

- ① 現状維持修理とし、復元的な修理は行わない。
- ② 石垣は全体に歪みが見られるが、比較的健全な東端の出隅部分は存置することとし、これ以外の部分については、一旦解体して積み直す。
- ③ 石垣の積み直しに伴い、上面の土塁も必要最小限の範囲で一旦撤去して復旧する。
- ④ 石垣の解体に際して石垣内部の工法を調査する。在来の工法の中で、築城当時の工法が判明した場合は、これに倣って石積みや裏込め工事を実施することを原則とする。
- ⑤ 工事対象の石垣の前面は道路で石垣が足元まで埋まっているため、根石の状況確認を目的として、トレンチ調査を行う。これに伴い、道路石垣のアスファルト舗装を一旦撤去して調査を行い、石積み工事終了後に復旧する。

【考え方】

- ・史跡龍岡城跡については、来年度以降に保存管理計画を初めとする各保存整備計画を策定していく予定である。
- ・今回の修理工事はこれからの策定以前に行う応急処置であり、現状を維持するための修理として限定し、復元的な内容については上記の計画を策定していく段階で、保存整備に関する委員会を設置し、審議して決めるべきものとする。
このため工事対象の石垣は過去の修理工事で、布積みから落とし積みに変更されているが、布積みへの復元は本修理工事では行わない。

5. 修理工事の内容

(1) 修理範囲の設定

工事区域を東と西の2工区に分けることとし、2カ年の工事として設計する。

(2) 石垣形状の設定

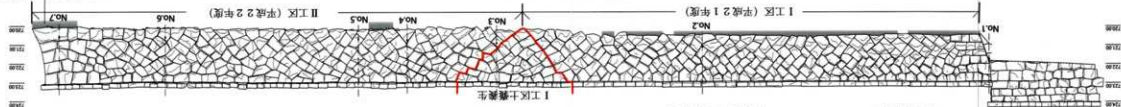
【形状設定の基準】

- ・変形が最も少ないと思われる測量点No.5と7において、推定標準石垣勾配と測量基準線Bから根石の位置を求めた。
- ・石垣を解体する前に石垣足元のトレンチ調査を行い、根石の位置を確認して基準線を再設定する必要がある。

(財)文化財建造物保存技術協会「平成20年度 史跡龍岡城跡黒門西側石垣修理工事実施設計業務成果品」平成21年1月より抜粋転載

6年9月の測量資料より

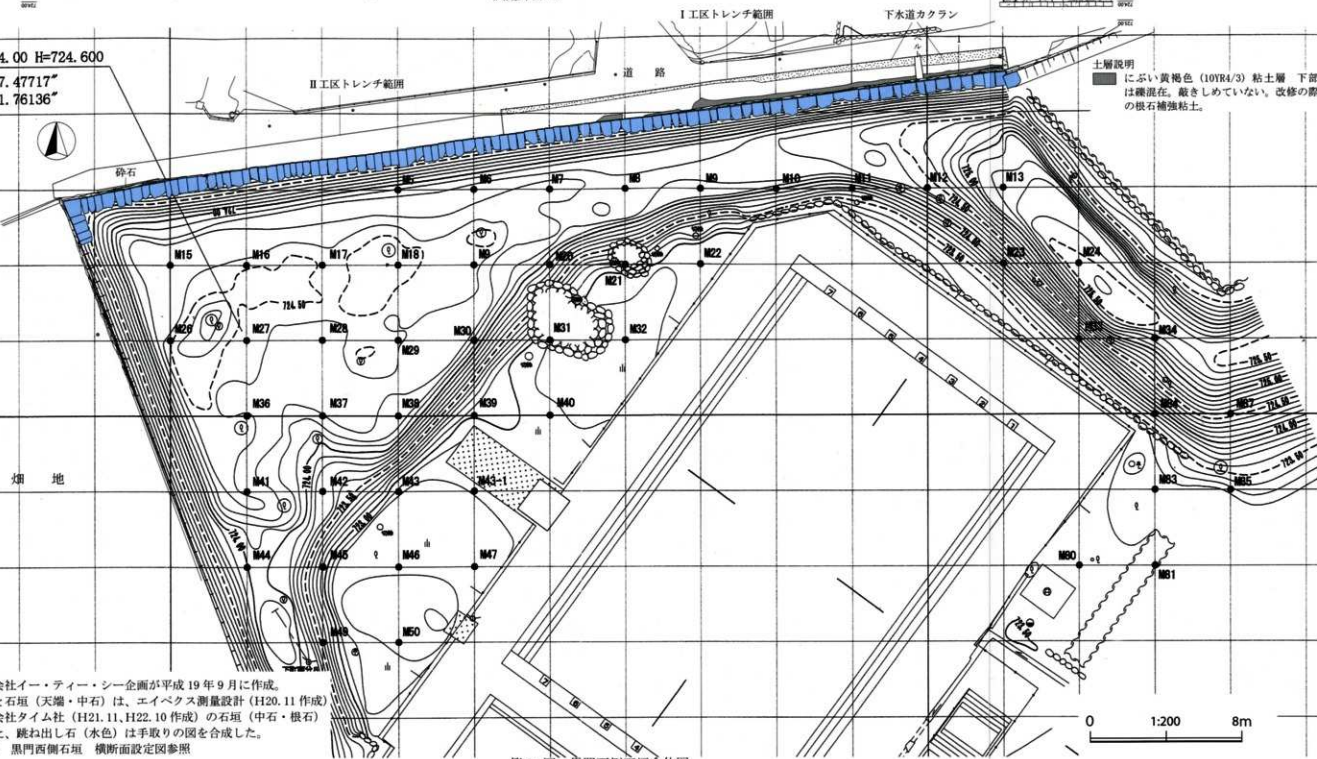
測量図の粘土層は



X=21804.00 Y=44.00 H=724.600

緯度 36° 11' 47.47717"

経度 138° 30' 01.76136"



土層説明

■ にぶい黄褐色 (10YR4/3) 粘土層 下部は礫混在。敲きしめていない。改修の際の根石補強粘土。

郭内の平面図は有限会社イー・ティー・シー企画が平成19年9月に作成。
 北の郭外の道路部分と石垣(天端・中石)は、エイベクス測量設計(H20.11作成)の平面図を基に有限会社タイム社(H21.11、H22.10作成)の石垣(中石・根石)を合成している。また、跳ね出し石(水色)は手取りの図を合成した。
 №1~№7は第28図 黒門西側石垣 横断面設定図参照

第21図 黒門西側石垣全体図

0 1:200 8m

第2節 黒門西側石垣修理工事に伴う土壘発掘調査の経過と結果

(平成20年)

2008/11/4 機材搬入

2008/11/5 石垣解体範囲にトレンチを設定する。

2008/12/24 5カ所に設定し、順次掘り下げ、測量、埋め戻しを行い終了する。

- 1 トレンチ
石垣の東端にあって、高石垣に接するため土壘は60cmほど高くなっている。
土壘表層10～20cm程を剥ぎ、多量の大小河床礫層を検出。瓦の破片が約4.6kg、鉄製の楔、近代陶磁器2片、ガラス製おはじき1、ガラス片が出土している。
- 2 トレンチ
表層は最大で16cm程の厚みを持ち、砂粒・シルト・粘土が混在する。粘性はやや強い。
1層中より、約2.3kg、近代陶磁器1片、ガラス片が出土している。下層の2層は36cm程下げたところで止めている。30×10cm大の大礫を多量に含み、暗褐色土層である。粘土ブロック、砂を含んでいる。瓦片は約6.9kg、スレート瓦、ガラス瓶、近代陶磁器片、丸釘、大正9年の一銭、昭和44年の百円硬貨が出土している。→昭和44年以降の補修である。
- 3 トレンチ
黒門西側石垣の中央に設定したトレンチである。2トレンチ同様1層が34cm、2層が36cmあり、下に3層の黒褐色土と暗褐色土の混在土層が36cm程確認された。さらに下に4層暗褐色土層がみられた。4層は粘土を5割ほどに砂を含む層で、版築層である。4層の下面に付いては確認していない。この地点でも瓦片が1層中より約4.6kg、2層中より約6.9kg出土している。2層中からは近代陶磁器片、ガラス片、プラスチック製品、鉄製のねじなどが出土している。3層からは瓦約2.3kg、近代陶磁器の湯呑みが出ていた。3層は2層とあまり変化のない土層である。
- 4 トレンチ
1層からは約2.3kgの瓦と針金、近代陶磁器片、ガラス、ガラス瓶、昭和35年の10円玉硬貨が出土する。また東側からは旧プール建設時に盛り上げた土が確認された。
- 5 トレンチ
西端の出隅部に設定したトレンチである。1から4トレンチの上に1層の黒褐色土を盛っているようである。1層は最大24cm、2層は20cm、下の3層は礎主体の層である。10cm～20cmの円礫が主体である。下層の4層はにぶい黄褐色土層で礎主体の層である。1層からは近代陶磁器、ガラス、ガラス瓶、プラスチック製品、瓦が約2.3kg出土している。2層から瓦が6.9kg、近代陶磁器、角釘、丸釘、王冠、針金、ガラス、ガラス瓶、ビー玉、おはじき、昭和34年の10円硬貨が出土する。3層からは近代陶磁器、角釘、丸釘、ガラス片、瓦が約2.3kg出土している。4層では瓦は出土しないが締まりのない土層である。トレンチ内に重機の爪痕が見られる。



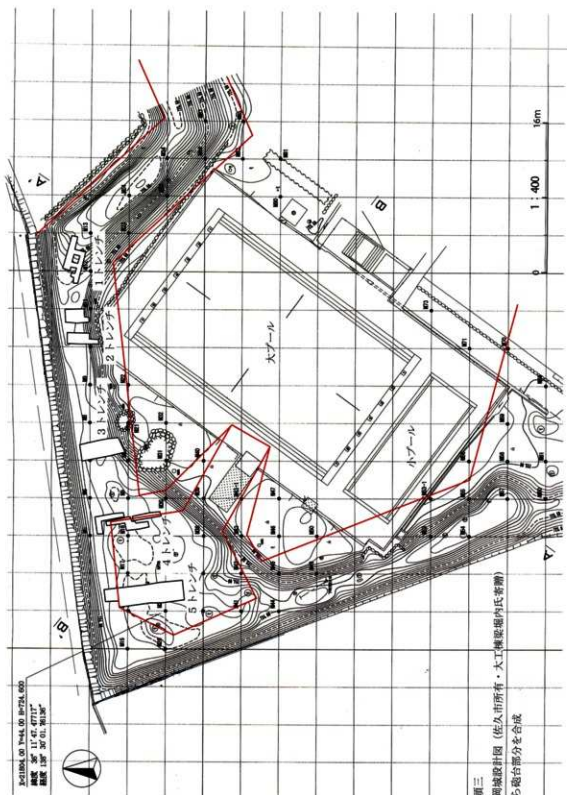
トレンチを埋め戻す



1トレンチ

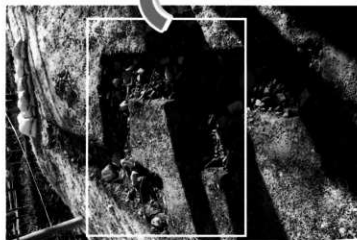


3トレンチ



巻頭三
 龍胆城設計図 (佐久市所存・大工棟梁堀内氏普請)
 から堀台部分を合成

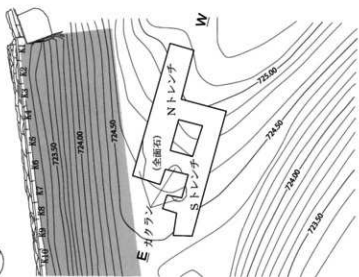
第22図 黒門西側土塁 トレンチ設定図



1トレンチ (西より)



1トレンチ (西より)



0 1 : 100 4m 土器解体範囲

E 725.00
724.00
W

第23図 黒門西側石垣 土器1トレンチ



1トレンチ遠景 (西より)



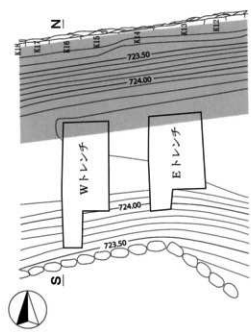
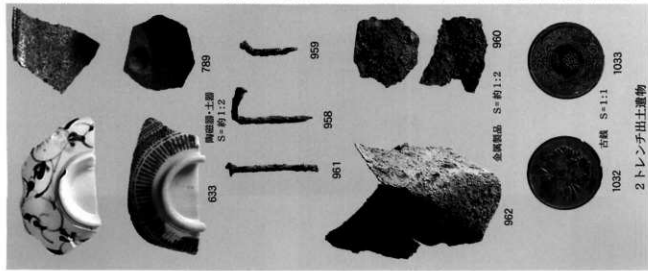
2トレンチ (西より)



2トレンチ (南西より)

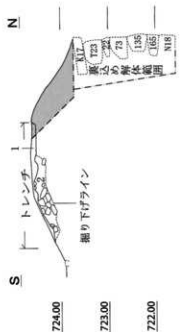


2-Eトレンチ (南より)



0 1:100 4m

■ 土器解体範囲



※ は計測値と写真より合成

土層説明

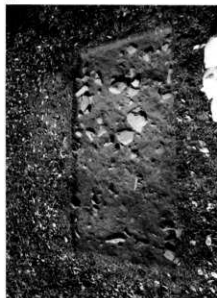
1. 黒褐色土層 (107)(K2)3 粘質や強 砂状・シルト・粘土・灰・腐植・ガラスを含む。
 2. 暗褐色土層 (107)(K2)3 粘質や強 粘土・シルト・シルト・腐植・灰・腐植・ガラスを含む。
- ※1・2とも後述のもの

第24図 黒門西側石垣 土壁2トレンチ

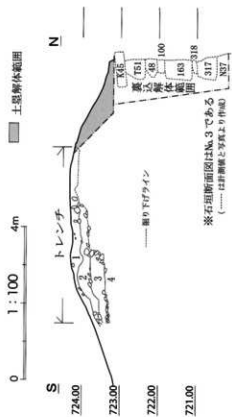
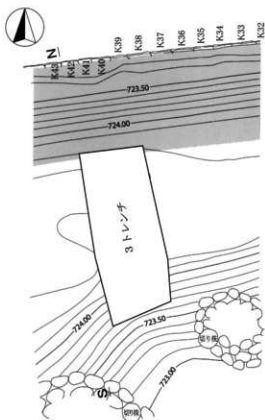
3トレンチ付近土壁（西より）



3トレンチ（西より）



3トレンチ南側（西より）



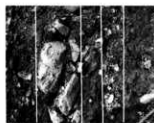
土層説明

1. 黒褐色土層 (0022.2) 粘性や中強 砂粒・シルト・粘土・瓦・陶器・ガラスを含む。
2. 黒褐色土層 (0022.3) 粘性や中強 砂粒・シルト・粘土・瓦・陶器・ガラスを含む。
3. 黒褐色・暗褐色土層 (0022.3・3.3) 粘性や中強 シルト30%-粘土30%-粗砂10%
4. 暗褐色土層 (0022.4) 粘性や中強 粘土50%-砂30%(数量比)

第25図 黒門西側石垣 土壁3トレンチ



4-N・Wトレンチ (南より)



4トレンチ附近北
土器配置状況模式図

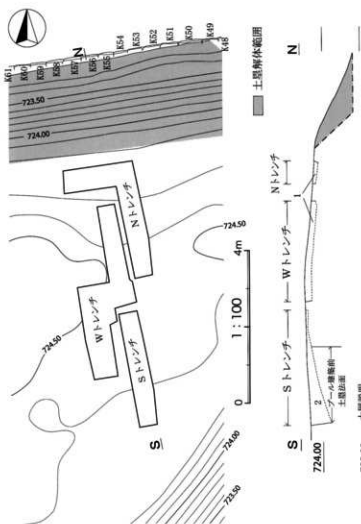
1. 基石層 30cm
2. 砂層 15cm
3. 砂層 15cm
4. 基石層 15cm



4トレンチ (北西より)



4トレンチ (南より)



土器説明
1. 黒褐色土層 (1000Z/2) 磁器ややじ 磁石・シルト・粘土・瓦・陶器・ガラスを含む。
2. プールの底面時に盛り上げた層

第26図 黒門西側石垣 土器4トレンチ



4-Nトレンチ (南より)



4-Sトレンチ (南より)



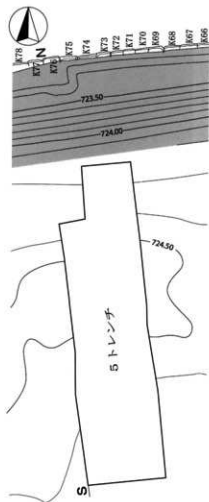
5トレンチ (東より)



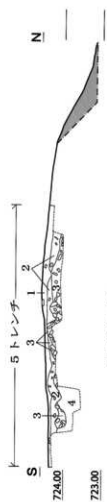
5トレンチ (西より)



5トレンチ (東より)



0 1 : 100 4m



— 掘り下げライン

土層説明

1. 黒褐色土層 (00782/2) 灰土、黒砂・粘土・シルト
2. 黒褐色土層 (00782/3) 粘土30%・シルト10%
3. 暗褐色土層 (00783/3) 礫主体、シルト・粘土を含む。
4. におい・黒褐色土層 (00784/3) 礫主体、黒砂・シルト・粘土、瓦礫し、
断片的に土質構築土とは考えにくい。

第27図 黒門西側石垣 土層5トレンチ

5トレンチ (南より)

第3節 黒門西側石垣修理工事の経過と結果

(平成20年度)

2008/7/8	着手時打合せ 測量内容	文化財課(係長・担当)・測量業者(エイベクス)・文建協 測量後に設計を進めるので、測量を早めにする。 測量図は石の輪郭線と隙間を描き、断面は裏側の法面及び地盤面まで描くこと。
	測定の要点 その他	平面的基線は両端部入り隅と出隅を結んだ線とする。 修理方針は現状の孕み出し・変形を修整することとし、斜め積みを布積に復することはしない。 整備委員会を立ち上げ、石垣小部会を設ける予定。
2008/8/25	仮設計画打合せ 提出書類 通学路について 居住者の車両の出入 石垣根石の確認 解体石材置き場 近年の石垣修理	文化財課(係長・担当)・文建協 「史跡龍岡城跡黒門西側石垣修理工事の仮設計画について」(文建協) 大手機からのルートを通学路とし、黒門は使用しないようにする。 車両の出入りが可能なように仮設計画を立てることが望ましいが止むを得ない場合も考慮する。 工区を分けて根石の確認。 置き場はパレットか鉄板で養生。 平成元年か2年に下水道の引き込み時に修理している。その際、跳ね出し石が12個ほど落下したため復旧している。
	版築および盛土 周辺工事 現場にて	土塁部分は版築の遺構が検出されず単なる盛土であった。 校舎の耐震補強工事、保育園北側で公園整備と道路の拡幅工事を実施している。 Ⅱ工区の足元全面とⅠ工区の出隅部分のトレンチによる根石確認で工事対象面の基準墨が設定できる。計画案で示した工区を入れ替えて、入隅部をⅠ工区、出隅部をⅡ区とする。 通学路として工事期間中に道路を使用することは困難。 石垣上の盛土はⅡ工区時に一括して行ってよいが冬期間はさける。
2008/12/4	仮設計画打合せ 提出書類 Ⅰ工区について Ⅱ工区について Ⅰ工区・Ⅱ工区 の共通事項	「史跡龍岡城跡黒門西側石垣修理工事 Ⅰ工区解体・石積検討図」(文建協) 「史跡龍岡城跡黒門西側石垣修理工事 Ⅱ工区解体・石積検討図」(文建協) 根石確認調査のトレンチが深い為、通路約80cmしか確保できないため、通学路としては困難。 石垣上の盛土はⅠ工区時は撤去のみで、Ⅱ工区時に一括で復旧する。 Ⅰ工区石積後、Ⅱ工区の解体に着手するまで、取合い部は土囊積とする。 Ⅰ工区石積後、Ⅱ工区の解体に着手するまで、現場作業のない期間石材・栗石・土砂はシート養生し、周囲に高さ1.5mの安全柵を設置する。 クレーンを使用せず、トラックにより場内の石材置き場へ搬入する。 解体作業は石垣全面道路にて行うため、既存のフェンスを一旦撤去し、復旧する。道路と畑地段差に土囊を積んで鉄板で道路を養生し、2.9tクレーンと石材運搬用2tトラックを併用して作業したい。 仮囲いの範囲は黒門周囲の土塁から児童が工事区域内に入らないよう設置範囲を広げる。 ミニバックホーが走行する土塁上の養生はベニヤまたはゴムマット程度でよい。 小学校体育館の耐震補強工事をしている。今年度は8/10～11/30まで実施され、来年度も予定している。仮設橋の設置はどちらで行うか発注時期によって検討する。

仮置き場の囲い	今回対象区石積みは、本来布積みであったものが谷積みに変更されており、また何度も積み直しが行われているので、今回、積み直しを行っても隙間を生じてしまう。
送付資料について	50年代に積み直した範囲がわかった。石材にバケットの擦り傷や石材をつり上げる際に挿入した鉄筋の擦り傷が確認され、図面に落としたところその範囲がわかった。聞き取りでは裏込めは既存の栗石に砕石を補充しながら積み直したようで、モルタルは使用していないとのこと。積み直して一年も経過せずには孕みだしてしまった。(羽毛田)
土塁トレンチ調査の結果	プールの建設時の配管のため解体した石積みの範囲はわかっていないがおそらく№2地点と思われる。(羽毛田)
その他	北面の土塁は石垣の天端高が異なる地点に版築が確認されたがそれ以外は土塁の中にはガラスやビニール製品が混じっており、近年の盛り土であった。(羽毛田) 北西隅部分はプール建設時に撤去した土砂置き場とされていたと思われる。(羽毛田) 砲台南石垣に石材の欠損がみられる。応急補修として、裏込めが流出してしまった部分に土嚢を充填し、外側にトンパックで押さえを設置する。

黒門西側石垣Ⅰ工区工事

(平成21年度)

2009/9/8	学校と打合せ	施工業者、文化財課で田口小学校教頭先生打ち合わせ
2009/9/14	業務委託契約締結	文建協と業務委託契約締結
2009/9/16	着手打合せ	現場で施工協議。(文建協、測量会社、文化財課)
2009/9/25	工事着手	工事着手。仮囲いの設置。
2009/9/28		トレンチ掘削。単管バリケード設置。
2009/10/5	打合せ・根石確認	五味先生に指導。石垣前面の埋もれた石垣部分を現すため掘削を進める。部分的に粘土層が確認されたため、掘削を中止し、調査する。堅い粘土は西側はほとんど欠失。根石まで前面を掘削し、根石が直接白色粘土層の上に据えられており、栗石地業は行っていないかった。
2009/10/6~8	発掘調査	仮囲いおよび出入りロゲートの設置が完了した状況を確認。 裏込め用の補足栗石のサンプル確認。千曲川源流に近い部分で採取した川玉石。



黒門西に仮設橋



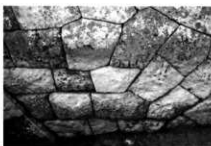
仮置き場の囲い



前面の道路を掘削して脚部を出す



掘削後部分的に堅い粘土層がある



根石N1~N4付近亀崩しの布積み



黒門西側石垣 解体準備

2009/10/9	発掘調査	トレンチ掘削。進入路敷き鉄板設置。
2009/10/15		解体準備工、番付けを始める。
2009/10/16	打合せ・根石確認	五味先生の指導。発掘トレンチが完了。各積み石にはガムテープを貼り付け、解体番付け打ち完了。
	旧石積み の残存状況	石垣根石が現れる。道路下の埋め戻した土内には昭和30年代に修理した際に不要となった積み石が混入していた。積み石の控えの長さは40～50cm程度で、また「毛抜き合端」となっていることが破損原因と思われる。
	根石の状況	昭和30年代の修理で本来の亀甲崩し積みから落とし積みに変更され、その際根石からやりなおされているため、根石の固定には下前角に滑り止めに削い石を入れていた。この部分の根石下の地業は礫混じりの粘土である。(根石No.30付近)
	解体範囲の策定	東端部の根石2と一段目積石1石を除き、根石から修理する必要がある。根石については解体せずに勾配の修正のみで行えるのか判断してからとなるため、根石のみ残して解体を行うこととする。
	高石垣との 取り合い部詳細	東端部は高石垣に取り付く。高石垣の積石側面を加工して、積み石3段と根石を20mm程度嵌め込んでいる。
	根石の出入り	根石が全体に波うっていることを確認。
	解体準備工	根石の上端高を基準の水平墨とした。石垣面に墨付けを行う。縦墨は東端部根石の上東角を基準に墨打ちする。
2009/10/19		上部土塁解体、跳ね出し石解体、石材整理・調査に入る。
2009/10/21		裏込め解体・石垣解体・石材整理・調査に入る。



土塁掘削



跳ね出し石解体 K1～K3



天端石を見る



天端石T46～49を見る



中石1～8を見る



天端石解体後中石を見る(西より)

2009/10/31 解体完了確認	五味先生の指導。根石を除いて解体が完了。
裏込め背面の盛り土の状況	昭和37～38年修理時に施工された盛り土は栗石を混ぜた土を互層状に盛っていたが、昭和50年代の修理時盛り土は層状を呈していなかった。またいずれの盛土も締め堅めが十分でなかった。
高石垣への取り付け部分の加工痕	高石垣に残る加工痕より、今回施工する石垣の東端部法勾配を求めたところ、二分勾配であった。
裏込めの状況	裏込めは石面から2.5尺までの範囲、幅は平均1尺程であった。昭和修理時に裏込め材にクラッシャーラン（中砕・細砕）をもちいており、締め堅めが行われていないことが石積み破損の原因となっていた。
解体石材整理状況	解体した石材は部位ごとに整理して城内工事エリアに置いている。裏込め材は土と石材を篩いわけている。
跳ね出し石の矢穴	跳ね出し石の控え長さは2.0～2.8尺で平均は2.5尺。K22に矢穴が残っており、上幅2.0寸下幅1.5寸、深さ2.0寸、5.0寸タッチであった。
天端石の矢穴	T44は後補材（明治材）であるが、矢穴が残っている。矢穴寸法は上幅2.0寸下幅1.5寸、深さ2.0寸で3.0寸ピッチであった。
天端石の加工痕	天端石T35にはテッポウ（電動ドリル）穴が残る。これは昭和修理時の加工痕と判断された。
積み石の状況	積み石は当初から控えが短いものであった。控え長が40cm以下、逆石、寄り友の積み石は取り替えることとするが、見付面積が大きい積み石はできるだけ再利用する。山傷や軽度のクラックが生じている石材は再利用することとした。
根石状況	根石の補修を施すのは以下の部分とする。 ①根石が下がった影響で上部積み石同士に隙間が生じている場合。 ②根石の前転びが著しい部分は座りを調整する。 ③根石の座りを修正しても、控え部分の形状が凸となっており、上の積み石が前に滑り勝手になってしまう場合は、控え部分をはつきり落として調整する。（根石N30） 西端部出隅の引き通し勾配は1.75分、5段積みである。各角石の勾配は下から4分、3分、2分、1分、0であった。東端部の勾配は2分勾配、西端部出隅の勾配は1.75分であった。石垣中間部分の勾配は両端部の中間勾配（1.875分）に設定する。



K50・T55・178・229の裏込め



96～98裏込めクラッシャーラン



I 工区解体作業風景



K1～K3の跳ね出し石と天端解体後の裏込め



K1と接する高石垣の裏込め



K22跳ね出し石の矢穴



T44天端石の矢穴



石材整理状況



116~123中石



116~119中石と根石



根石N1~N5



左：N30の下の飼い石

右：根石下の地業は磯混じりの粘土であった。

2009/11/13 石垣積み工

石垣解体から石垣積み工に入る。

2009/11/14 文建協指導

石積み状況の確認。13日まで積み直しが完了した部分を確認。飼い石、飼壁石の施工状況を確認。

石垣積み工

仮積みを行い合端の隙間状況を確認し、根石の修正をどのように行うか見直しをつける。

積み石の状況

根石下に飼い石を施し、根石の据え直しを行う。根石の修正が終わった段階で、2段目までの積み石の座りを修正する。→3段目の積み石を仮積みする。さらに修正が必要な場合は、必要な修正方向を検討し、根石から修正を加える。

IとII期の間に積む養生土嚢の製作と設置。

2009/11/24 小学生見学

小学生石垣見学 (11/24・26・27)

2009/12/4 五味先生の指導

根石の前面に押さえ石を据え付けて、根石の移動を押さえるように施工。

石垣下部の積み直しが完了した状況を確認。

裏込め栗石を丁寧に施した後、背面盛土面との境を含めて、目潰し砕石を施し、ランマーで締め固める。裏込め栗石に小学校生の名前・夢などを書いてもらった。

2009/12/11 跳ね出し石の

跳ね出し石の仮据え状況を確認。T張りを確認し、西面石垣になって一部修正する。来年度工事範囲との境部分に設置した養生土嚢の施工状況確認。

仮据え状況

裏込め状況を確認し、跳ね出し石裏側は、天端より3cm下まで栗石地業とし、上3cmは砕石で均す。土塁の復旧は来年度工事。



N34~N36付近の根石をはずす



T23~T26石積み工



I工区東の石積み工



石積み工
裏込めの状況
控えの短い積み石に胴割い石、尻割い石、尻押し石を施工する。



跳ね出し石石積み工



控えの短い跳ね出し石の裏の補強



上面は3cm厚の砕石で仕上げる。

田口小学校の生徒の見学。見学の際に裏込めの栗石に生徒の名前・夢などを書いてもらい、天端石T1~T5の裏に入れる。



- 2009/12/15 石垣積み工終了
- 2009/12/16 出来形検査
- 2009/12/17 道路分復旧
- 2009/12/18 土塁の養生
- 2009/12/21 撤去

裏込めをして、石垣の積み直し終了。
発掘トレンチ埋め戻しの前に出来形検査。発掘トレンチの埋め戻し。
トレンチ分の舗装復旧工事。
土塁にシートを張り養生する。
鉄板、ガードフェンス、現場事務所を撤去。現場の作業終了。

(平成22年)

- 2010/1/30
- 2010/2/9

黒門仮橋撤去
I工区竣工検査

黒門西側石垣Ⅱ工区工事

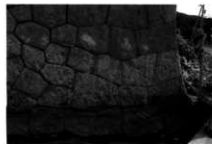
(平成22年度)

2010/8/26	工事着手打合せ	丁張り、行程、施工上の留意点（文建協・文化財課・測量会社）
2010/8/29	仮設橋	黒門仮設橋設置
2010/8/30	仮囲	仮囲い設置
2010/9/6	道路の掘削	舗装を切り離し、発掘トレンチ掘削。
2010/9/7	根石前発掘調査	石垣前面掘削・根石状況の確認、解体工事工程の協議
	第Ⅱ工区の根石	文化財課で根石足元まで下げる。根石の下の粘土層はなかった。 西端隅部より8石は布積み状に根石が据えられていた。この部分の根石下の地業は磯混じりの粘土で栗石地業は行っていなかった。N64からN68までは根石前の埋め戻しは砕石となっており、N63とN64、N64とN65の根石間の表面の合端に朱の合い墨が残っていた。昭和50年代の修理と思われる。
2010/9/9	土塁解体撤去	上部土塁解体撤去
2010/9/17	解体準備	解体準備工の施工状況の確認、上部土塁解体完了の確認、解体工事工程の協議 跳ね出し石解体に入る。養生土嚢撤去。
2010/9/20	解体工	



第Ⅱ工区の根石前面を掘り下げる。N64～N68の根石前は砕石となっている。根石の前面に粘土層はなかった。西端の出隅部3石の根石の下は磯混じりの粘土である。

出隅部の裏込め 昭和修理時にクラッシュラン（中砕・細砕）を使用、かつ締め固めが不十分。



出隅部石垣 根石8石までは布積みになっている。ただし据え直された。

出隅部の跳ね出し石 上部の土塁を解体して石を出している。

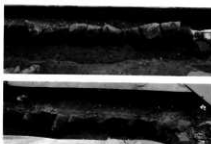
出隅部の天端石をはずしている



解体石材整理状況 解体した石材は部位ごとに整理している。採寸・記録や目視及び打音検査をしている。



跳ね出し石を解体する。



上段は根石の上に中石が一段乗っている。
下段は根石N36～N45まで。

2010/10/5	五味先生の指導 モルタルが使用 大きめの栗石	解体完了確認、石積みおよび補足石材の協議。 昭和50年代の修理部分には石垣合場端の副削い石を固定するためにモルタルを使用。 Ⅱ期工事の裏込め材を篩い分けしたところ、昨年度工事範囲に比べ、大振りの栗石を使用。
	昭和修理の破損 原因	昭和修理時に裏込め材にクラッシャーラン（中砕・細砕）をもちいており、締め固めが行われていないことが石積み破損の原因となっていた。積石の控えが短いにもかかわらず、裏込めで強度的な工夫することなく積み上げたことも石積み破損の遠因である。 昭和37～38年修理時に施工された盛り土は栗石を混ぜた土を互層状に盛っていたが、昭和50年代の修理ではこの仕様を踏襲せずに、発生土を埋め戻した程度であった。
2010/10/3	石積み工	石垣積み工に入る。
2010/10/22	文建協指導	10/21までの石積み状況の確認 本年度の石積みは石垣前面道路からクローラクレーン、ダンプトラック、バックホウを使用して作業を行っている。
2010/10/25	保存会・小学生 見学	龍岡城五稜郭保存会・田口小学校の見学開催。小学生生徒に、裏込め栗石に生徒の名前・夢などを書いてもらい、保存会には役員名を記した石板を用意する。
2010/11/5	文建協指導 出隅に残る布積み 根石下の地業	石積み状況の確認 根石は出隅より9石までは当初の亀甲崩し布積みの根石が残っている。ただし据え直しの手は加えられている。 N53より西側の根石下には固い白色粘土層はなく、修理時に取り除かれた可能性が高い。根石下が軟弱なことによる沈下や前転びが生じていた。
2010/11/19	五味先生指導	石積み状況の確認
2010/12/2	文建協指導 石積み終了	石積み完了確認、跳ね出し石の仮据え状況の確認、本据え高さ調整指示、新材加工状況の確認 跳ね出し石の裏込め工を行い石積みを終了。
2010/12/7	文建協指導	
2010/12/8	土塁の復旧	上部土塁復旧
2010/12/9	出来形検査	発掘トレンチ埋め戻し前の石積み工事の出来形検査を実施、土塁復旧の施工状況の確認
2010/12/13	埋め戻し	発掘トレンチ埋め戻し
2010/12/15	道路の舗装	発掘トレンチ埋め戻し、アスファルト舗装復旧。
2010/12/23	雑工事	雑工事の完了確認。芝張り完了。
(平成22年)		
2011/1/22	仮橋撤去	黒門仮橋撤去
2011/3/14	竣工検査	竣工検査



積み工 N37～N40下に栗石設置



積み工 西端根石N61付近裏込め



積み工 西端裏込め状況



積み工 中石194・243付近



積み工 N55・中石295付近



積み工 ステンレス棒でジョイント
中石214・213・212



積み工 西端出隅に保存会の役員名を
書いた石板と子供の夢を書いた栗石を
入れる。



根石前の押え石 根石部分は埋まるの
で補強



石垣の上に土盛り



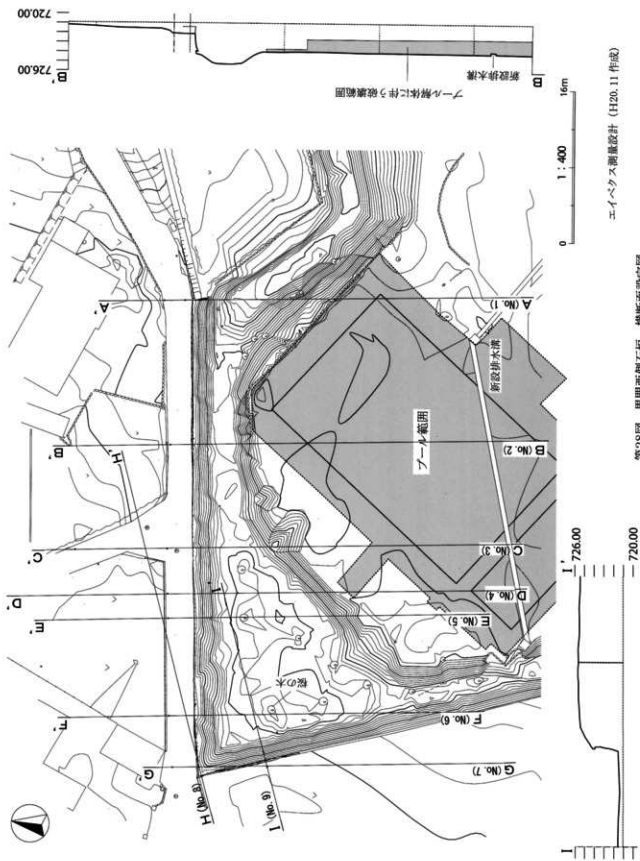
石垣の上に土盛り



土盛りに芝張り



芝張り後泥を載せ寒冷沙で養生



エイベクス測量設計 (H20.11 作成)

第28図 黒門西側石垣 横断面設定図

725.00

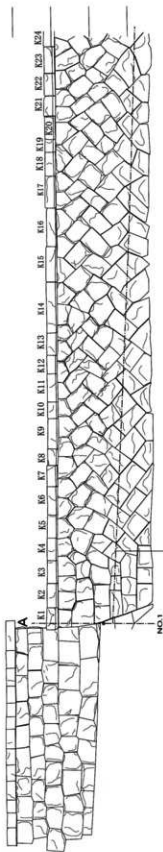
724.00

723.00

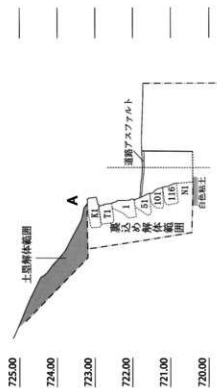
722.00

721.00

720.00

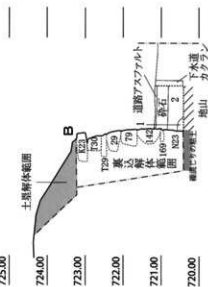
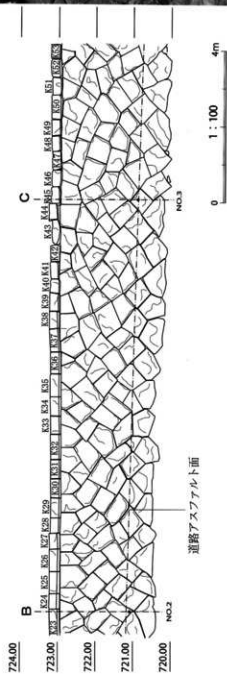


A地点 (北より)



設計断面と写真より石の断面図を作成

第29図 黒門西側石垣 修理前A地点現況図



※計測図と写真より石の断面図を作成

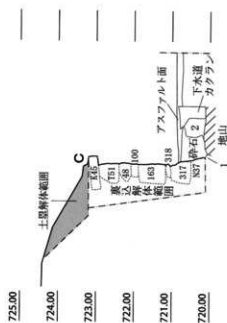
土層説明

1. におく黄褐色土層 (0074/2) 粘土、下層は腐植土。置きしめていない。改修の際の硬石埋め戻し。
2. 暗褐色土層 (0080/2) シルト90%粘土9%の混合カクラン土。硬多い。石埋下層材の大礫石を内包。

第30図 黒門西側石垣 修理前B・C地点現況図



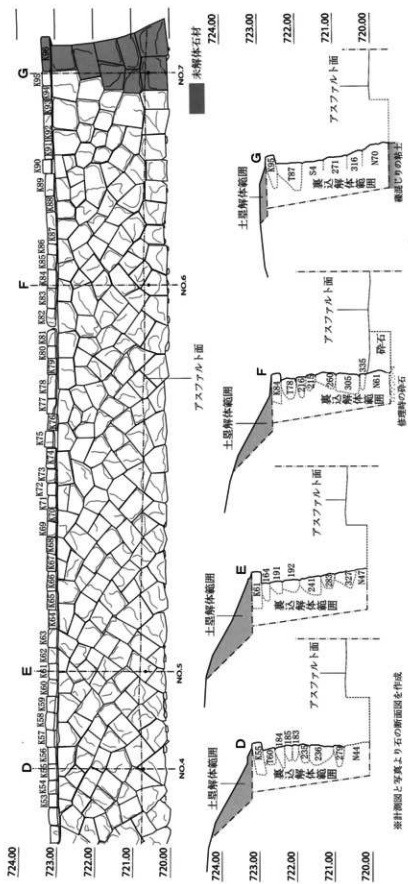
C地点 (北より)



※計測図と写真より石の断面図を作成

B地点 (北より)





※計測図と写真より石の断面図を作成

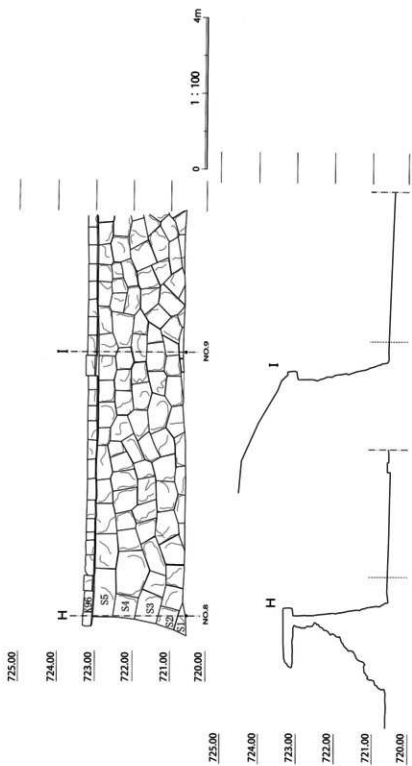


D・E地点 (北より)



F・G地点 (北より)

第31図 黒門西側石垣 修理前D・E・F・G地点現況図



H・I地点(西より)

第32図 礎台南石垣 H・I地点現況図

725.00

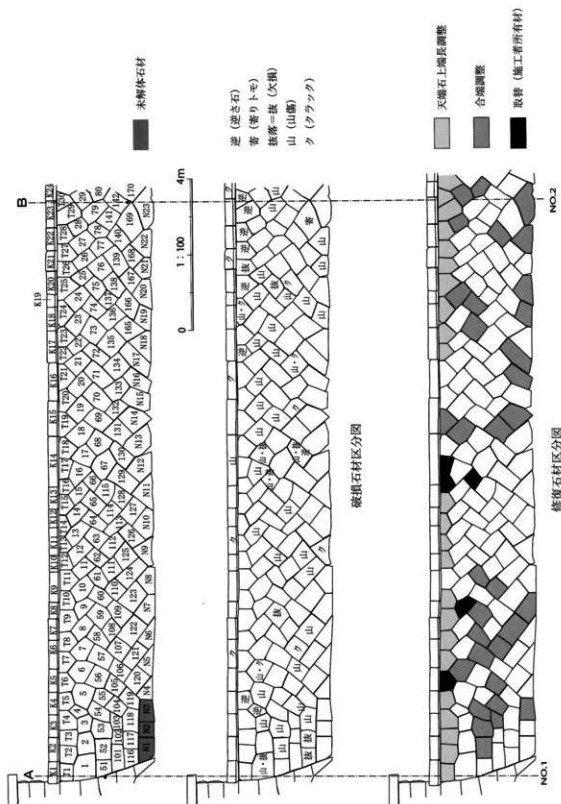
724.00

723.00

722.00

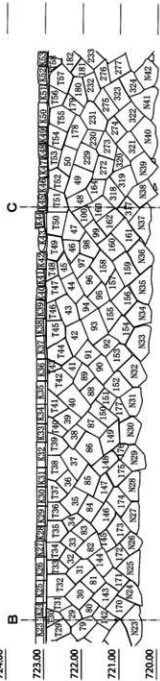
721.00

720.00



第333図 黒門西側石垣 番号・破損・修復石材区分図(1)

724.00

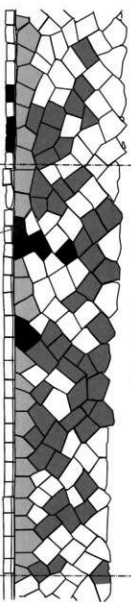


抜落=抜(欠損)
山(山崩)
ク(クラック)
逆(逆き石)
害(害りトモ)

破損石材区分図



取替え(支給材)
原田村口御土石に転用



天端石上場長置整
取替(施工者所有材)
合端調整
取替え(新材)
原田村口御土石に転用

NO.2

NO.3



第34図 黒門西側石垣 番号・破損・修復石材区分図(2)

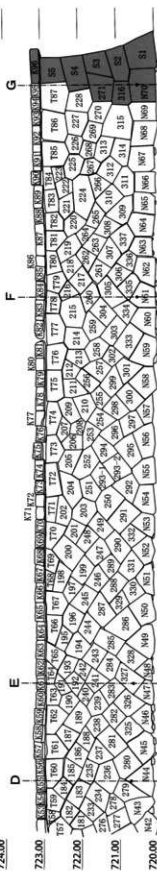
724.00

723.00

722.00

721.00

720.00

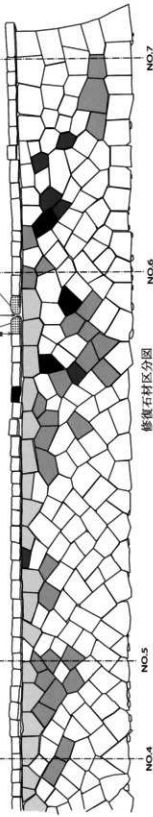


未解体石材



破損石材区分図

振落=抜 (欠損)、山 (山脚)
ク (クラック)
逆 (逆さ石)、寄 (寄りトモ)



修復石材区分図

- 天端石上端長調整
 - 合地調整
 - 取替え (新材)
 - 取替え (支砕材)
 - 部分的に取替え (新材)
- ※山脚及び石に転用
※山脚は押え石に転用



第35図 黒門西側石垣 番号・破損・修復石材区分図 (3)

第4節 黒門西側石垣発掘調査の結果

今回の石垣修理に伴う解体では、どんな修理が以前に行われたかということも課題のひとつであった。まずわかるのは、昭和の初めである。『南佐久郡の古城址調査』の掲載図によると、この黒門西側石垣の半分ほどが崩れていることがわかる（P18の史料1）。昭和8年の復旧工事の際に積み直されたことは確実であろう。その他にこの地点の具体的修理記録は今回探しだせなかった。今回の修理中に地元の方からの聞きつけによる昭和37・38年、昭和50年代の修理の記録は分らないままである。この本を機会にわかることを期待したい。実際に、砕石の裏込めや重機で釣った山傷など修理の傷の石材があるのであるから、戦後の修理はあきらかである。また旧プール建設時に重機が土塁に乗ったため石垣が崩れたという話もある。そうであれば昭和36年のことである。土塁トレンチから昭和44年の百円硬貨が出土していることやプラスチック製品が出土していることから言えることである。

また、『南佐久郡の古城址調査』では旧プール地点は窪地となっている。地元の人の話では池のようになって、瓦がいっぱい入っていたそうである。今回の修理工事の際に出土した多量の瓦片は御台所の屋根の瓦であろうか。御台所が昭和4年に現在の地に移され、昭和35年に半解体修理がなされている。その際に多量の瓦が旧プール地点に廃棄されたのであろうか。昭和36年の旧プール建設に際してはその瓦の一部は土塁に盛られたであろう。今回の黒門西側の石垣修理の瓦に、昭和35年の御台所の半解体修理の際のものと思われる破片があり、それ以降の盛土であろうことも推測される。現在砲台址はなく土塁となっている。本来砲台自体は土塁より低い所に設けられるであろうから、プール建設時に盛られたようである。

築城当時の石垣の状況が残っている所は、高石垣との取り付け部分の根石下に粘土が確認され、栗石を数かず直接粘土の上に置いていた。また西端のN1～N3の出隅部は、今回解体しなかったが築城時のまま残っているようである。また築城時ではないとしているが、根石の下に粘土層が残る所で根石N30の下は礫混じりの粘土である。

第VI章 遺物

1. 陶磁器

茶碗・湯呑など近代陶磁器が排水口の構築土から多量に出土した。旧プール・黒門西側石垣からも出土しているが量は少ない。大半は第二次世界大戦中または以後のものである。黒門西側石垣の根石裏込めからは明治初期の小皿（700）が出土している。

茶碗（飯碗）は218種を分けたが、未分類を含めれば数は増えるであろう。破片は大テン箱で3箱以上ある。湯呑は253種を拾い出し大テン箱2箱出土している。盃48、徳利31、花瓶11、皿100、井15、壺18、鉢24、搦鉢6、醤油甕4、鍋6、甕17、瓦質甕1、焙烙1、内耳1、土製鍋1、器台形土器2、陶製工具4、陶製フック1、合子3、急須9、佛飯1、植木鉢7、土管1、タイル3を分類した。

これらの主な時代は戦争中またはそれ以降の陶磁器・土器であることが判ってきた。第二次世界大戦中に産地と生産番号の記録された陶磁器である。それは産地と製造工場の番号が陶磁器の底に示されたものであり、例えば「岐86」は土岐郡笠原町の服部辨三さんの工場で作ったものである。こうした場所と番号のわかる陶磁器は、第二次世界大戦に入る前、経済統制により戦争の遂行を容易にしようということで、窯業界も生産から販売まで完全に統制下に入った。岐阜県陶磁器工業組合連合会によって定められた「生産者別標示番号」で、生産者に番号を付して製品を完全に管理下に置いたのである。製品に「岐〇〇」の番号が表示されたものは、岐阜県において昭和16年3月から5年間に製造されたと思われる生産者表示の陶磁器が各地に出荷された。この時期は金属回収に即応して生産の改良に努めることで、鍋・おろし器・湯たんぼなどの代用品が陶磁器で作られた。穴門排水口から出土

した陶磁器はこの統制陶器を主体としている。(2008年 岐阜県陶磁資料館『萩谷コレクション全国の戦時中のやきもの』・平成11年美濃古窯研究会『美濃の古陶』美濃古窯研究会報 8号)
皿類は皿660など明治期にさかのぼるものもある。670・701など型紙文様の明治25年以降のものと、皿696・700の幕末から明治初頭のものがある。700は黒門西側石垣Ⅰ工区根石前粘土から出土する。

2.瓦

瓦はいずれも破片で完存するものはない。六門排水口の水門の構築土から大テン箱2、堀からは大テン箱1で63kgを出土する。旧プール地点では大テン箱5で76kg、黒門西側の石垣修理ではⅠ工区から大テン箱17で167kg、土塁のトレンチ調査で、大テン箱2で41kg出土した。黒門西側Ⅱ工区では主だった破片のみを選択したためテン箱2で36kg出土した。黒門西側の瓦の破片量は合計244kgと多量になる。P16の資料一覧の資料24に「竜岡城御台所図面」と鉛筆書きされた封筒の中に、青焼きの瓦の図面が保管されている。御台所の平面図・建具図・出格子図の青焼きが一緒にあることから、昭和35・36年の御台所半解体修理の際に焼かれた瓦の図とみられる。しかし現在の御台所の屋根に載っている軒瓦は藁に細かい葉脈が見られ、青焼き図とは異なっている。青焼き図と同様の瓦は824の巴瓦、885～887の軒瓦が該当しているものとみられる。文様は雲形に区画され、藁の葉脈は省略されている。この青焼き図(第51図に掲載)の軒瓦の大きさは長さ39cm、幅30cm、垂れ幅最大5.25cm、巴径8.5cmを測る。また巴瓦は径14.7cm、長さ38cmである。『白田町公民館報縮刷版付録』には御台所のものとみられる瓦が注釈年代なしで掲載されている。上段に885～887の瓦と同様、つまりこの青焼き図瓦と同じものである。下段に載っている瓦は垂れがほそくて文様は四角で区画され、藁は葉脈のないものとなっている。895がこの破片とみられ、黒門西側遺跡の裏込めから出ている。これらのことから、黒門西側の石垣は昭和35年の御台所の半解体修理、昭和36年の旧プール建設以降に積直されたことは明らかである。

883の軒瓦の垂れ幅は広く、藁が最も写実的で、新海神社に乘謨の父兼利が天保六年に再建した手洗鉢の家紋と近いものである。黒門西側石垣のⅠ工区根石の裏込めから出土の884の瓦は垂れ幅が広く、藁の葉に葉脈がある。883・884の瓦の様相は築城時に近いものであろう。

3.ガラス

今回、透明ガラス片、青色の葉瓶、緑色の瓶片などが出土した。透明ガラスは学校の窓ガラスであろうか。大テン箱1ほどの破片ある。黒門西側石垣の西側からは健康飲料の茶瓶が出土する。

4.プラスチック

掲載したプラスチックは写真にできるものの一部で、他には畑に使うマルチ、畔シート、ビニール袋、ヘルメットなどがある。これらの大型プラスチックの大半は六門排水口の水門堰上部と下流側の堀底から出土している。表探の資料である。

5.金属製品

金属では釘、雨樋の受け、ボルト、針がね、火具、空き缶などが出土した。

釘は丸釘と角釘の両者がある。918は断面二等辺三角形を呈する鉄製品である。針金は細いものから太い番線がある。火具はストーブの蓋、網などがある。空き缶は鉄とアルミ製があり、缶類の飲み口がプルトップになるのが昭和60年頃であるため、それ以前である。

6.貨幣

最も古いものは寛永通宝2枚ある。新しいものでは、昭和44年の百円硬貨が黒門西側土塁の2トレンチより出土している。黒門西側の土塁は昭和44年以前の土盛であることが確認された。

7.石製品

硯、石板などの学用品、茶臼、引き臼、打製石斧が出土している。

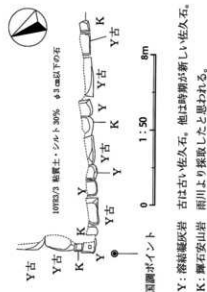
まとめ

六門排水口の水門堰の構築土では量的には表層に多量のプラスチックがみられる。六門排水口は上面から約2m下まで、プラスチック製品の葉蓋や近代陶磁器が出土している。また構築土には多量の陶磁器が混入し、長らくゴミ捨て場となっていたという証言どおりに、そのゴミを入れたまま石垣の修理をしていた。

黒門西側石垣は瓦の破片が多く、御台所の屋根の修理と関連し、石垣の修理は御台所半解体修理・旧プール以降であることは確かである。

第Ⅶ章 市道改良舗装工事に伴う調査

調査は平成20年12月1日から12月12日に現地の調査を行った。黒門と直交する市道と接する地点をA地点とし、市道の北端をB地点とした。A地点では現道路より北の下段に旧道路面とみられる面が確認された。B地点の石垣に凝灰岩が使用されており、築城時のものが転用されて使われていた。



Y: 凝結凝灰岩 古は古い佐久石。他は時勢が新しい佐久石。
K: 輝石安山岩 黒川より採取したと思われる。

第37図 市道改良舗装工事 B地点



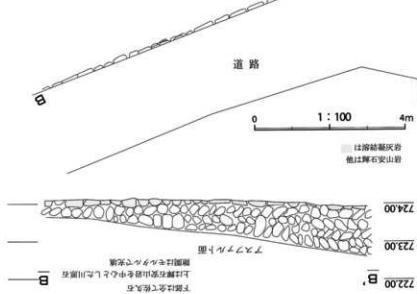
市道改良舗装工事 B地点 (南より)



市道改良舗装工事 B地点 (南より)



市道改良舗装工事 A地点旧道路面（南より）



第38図 市道改良舗装工事 A地点



市道改良舗装工事 A地点（西より）



市道改良舗装工事 A地点（西より）

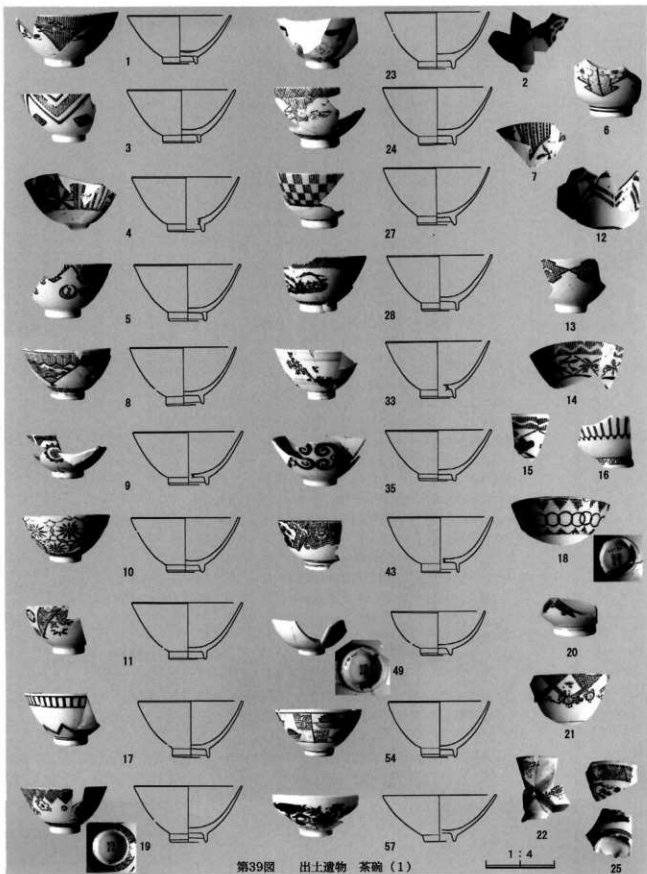
田道路面の盛土
 上層 10YR2/3 シルト・粘質土 30%
 厚より捨てられたφ4cm以下の小石を含む。
 下層 10YR2/3 粘質土・シルト 20%
 側作土

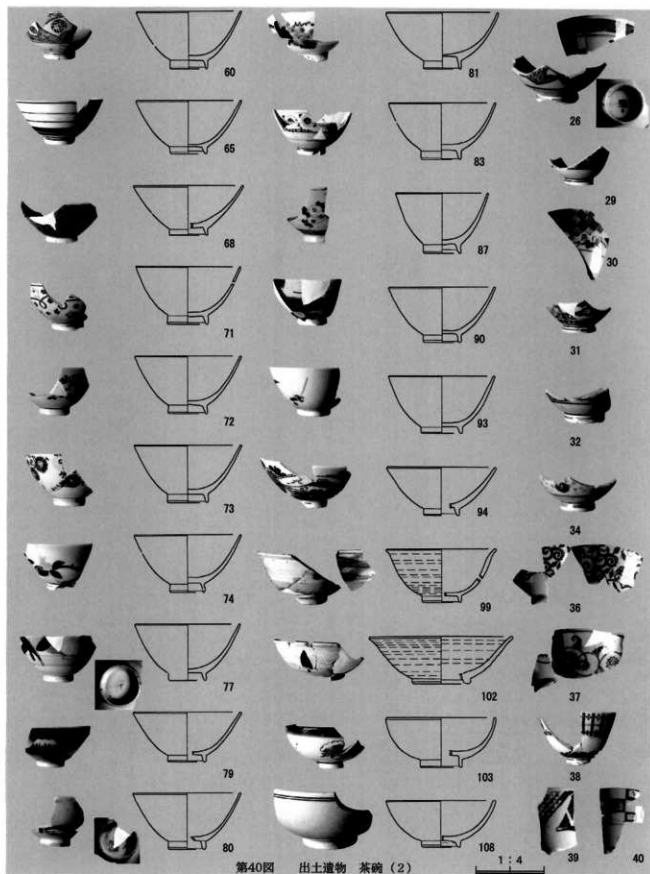
引用参考文献

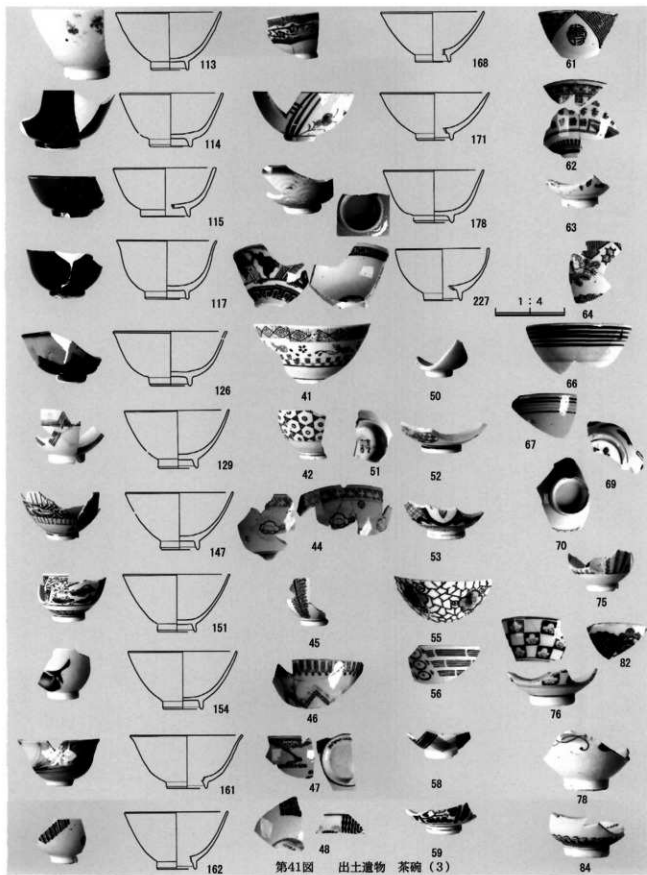
1. 1966(S41) 白田町教育委員会『龍岡城五稜郭の概要』

築城概要	
一、所在地	信濃国佐久郡田野口村字竜岡
一、総面積	貳万七拾五坪
内 内城	五千六百四拾坪
外城	老万四千五百三十五坪
一、設計	堀巾四間、深サ一文二尺但大手門前五間 土塁、高サ七尺五寸、巾四間但大手門前五間 周圍堀、長サ參百七十五間即六町十五間 大手門ヨリ最後方角（西正中角）マデ百 參間通用門ヨリ北門マデ八拾間
一、着工及竣工	文久三年九月着工シ慶応二年十二月竣工
一、総費用	四万余円
一、普請奉行	藩の老中 衣川 幾之

2. 1971.3.31 「大給亀崖公伝」再版委員会 長野県南佐久郡白田町役場 教育委員会事務局内
復刻版 榎本半重著『大給亀崖公傳 全』
3. 1978.1.31 信濃教育会 南佐久部会 『南佐久郡古城址調査』P53-龍岡五稜郭
4. 1985.6.30 郷土出版社 『明治初期 長野縣町村繪地圖大鑑Ⅰ東信篇』 38龍岡城
5. 1988.3 佐久市志編纂委員会『佐久市志』自然編
6. 1996.3 白田町教育委員会 『幸神古墳群』
7. 2007.10 佐久市教育委員会 『国史跡龍岡五稜郭 築城140周年記念事業』
8. 2007.3 白田町誌編纂委員会『白田町史』第三卷 考古・古代・中世編
9. 2007.3 佐久市教育委員 『市内遺跡発掘調査報告書2005』P80 五稜郭であいの館東側電柱設置
10. 2007.3 佐久市教育委員会 『五處遺跡』
11. 2008.3 小諸市教育委員会 『重要文化財 小諸城大手門保存修理工事報告書』
12. 2009.3 佐久市教育委員会 『市内遺跡発掘調査報告書2007』P51 五稜郭公園と川村吾藏記念館
13. 2010.3 佐久市教育委員会 『市内遺跡発掘調査報告書2008』P4 五稜郭公園と川村吾藏記念館、
P80-五稜郭であいの館に案内板設置
14. 2012.3 佐久市教育委員会 『田中遺跡』
15. 2012.3 佐久市教育委員会 『市内遺跡発掘調査報告書2010』P49・P50-鷺見・岩田宅立ち合い、
P59-川村吾藏案内板設置
16. 2012.3.31 石川県金沢城調査研究所『金沢城跡』 二の丸内堀・菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓Ⅱ
17. 2013.3 佐久市教育委員会 『史跡 龍岡城跡 保存管理計画書』



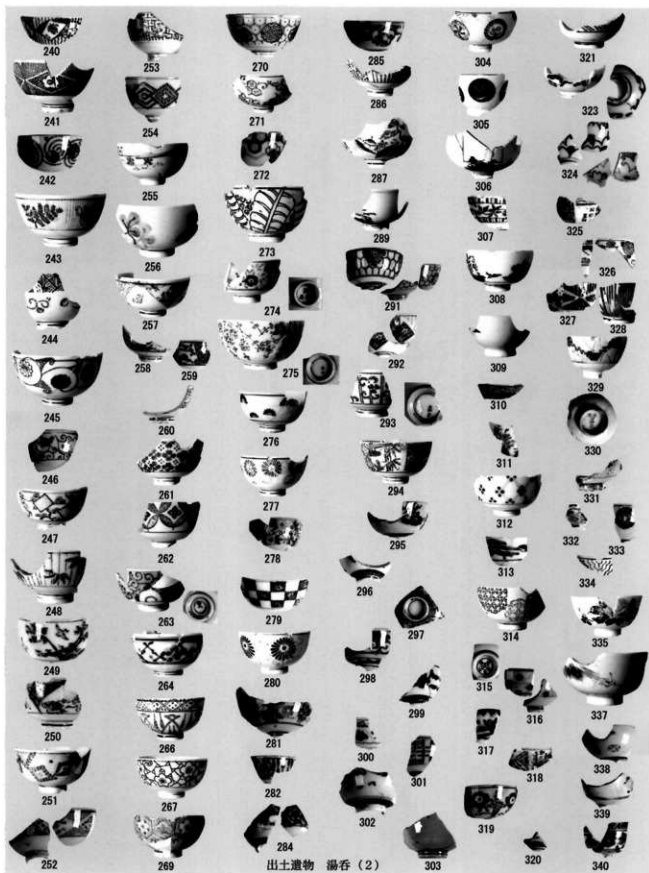


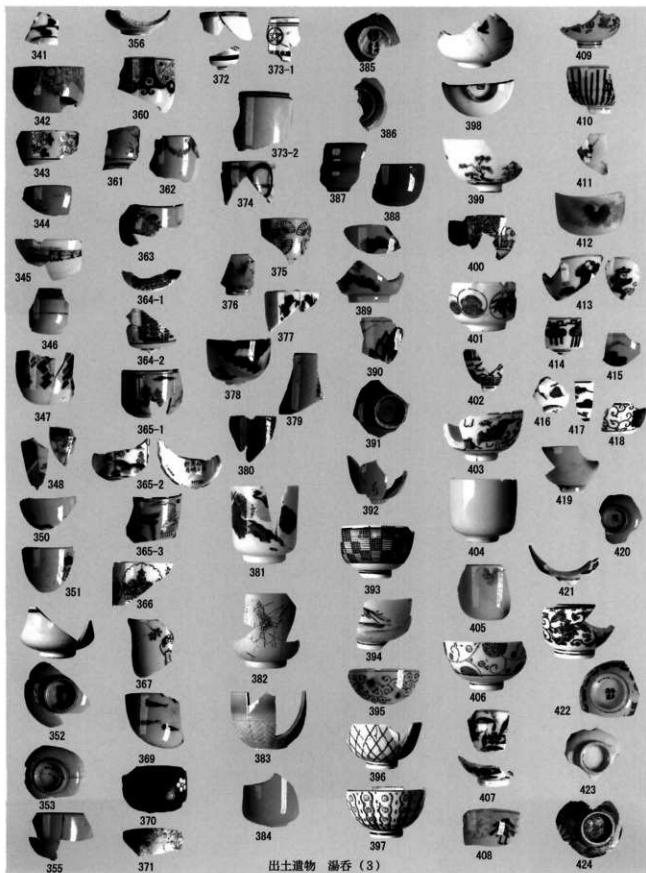


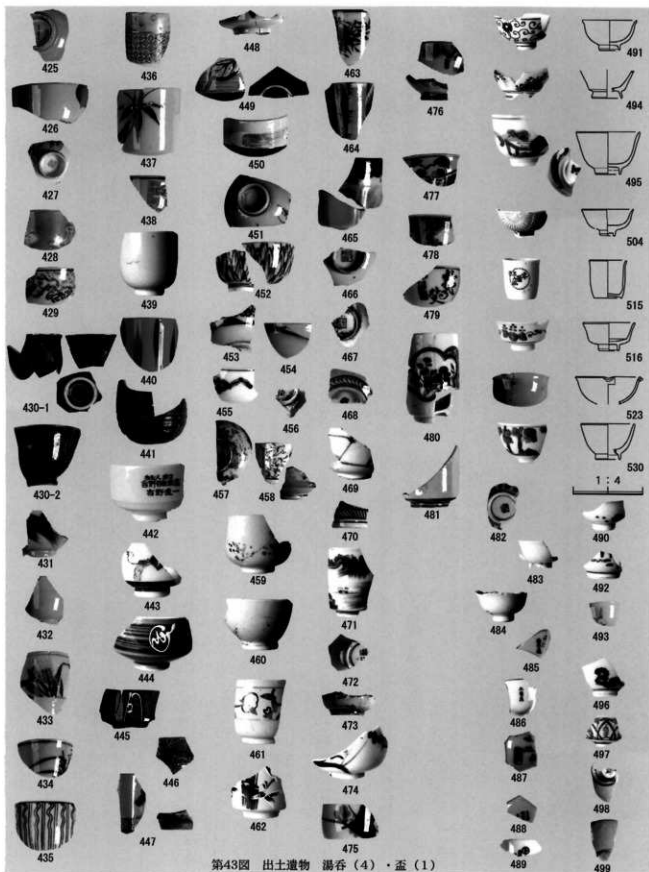


出土遺物 茶碗 (4)





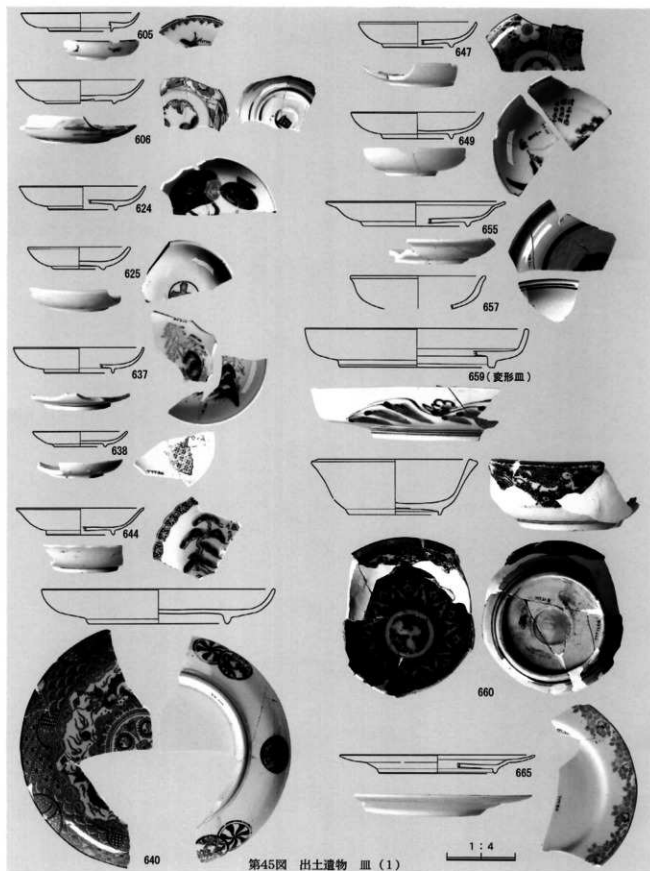




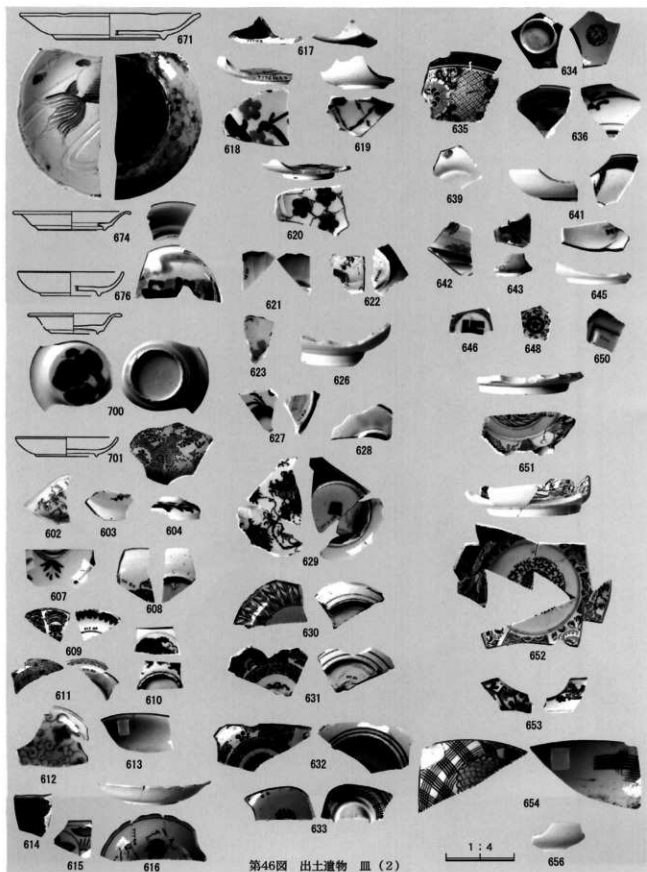
第43图 出土遺物 湯呑(4)・盃(1)



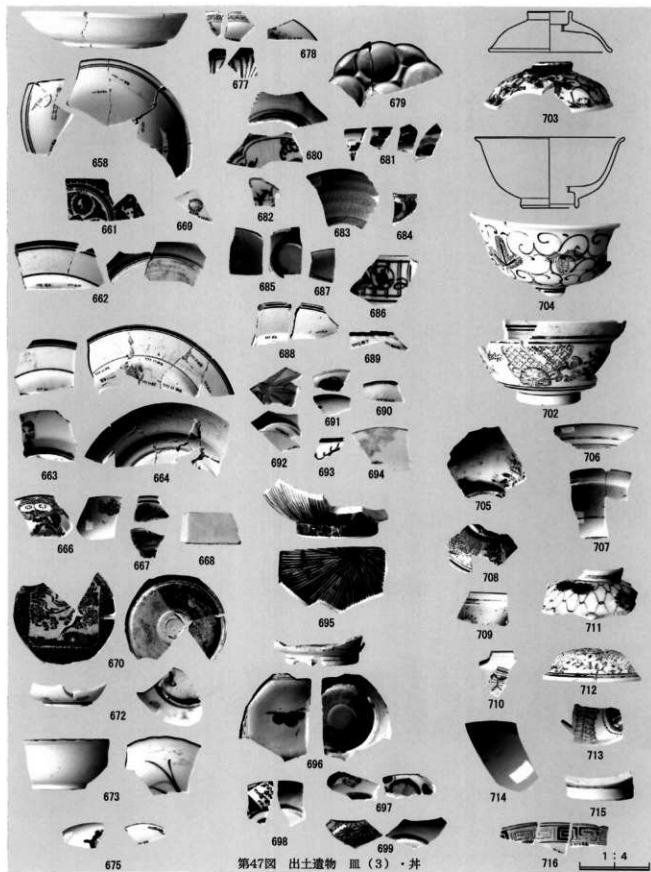
第44図 出土遺物 盃(2)・徳利・花瓶・プラスチック・タイル・ガラス



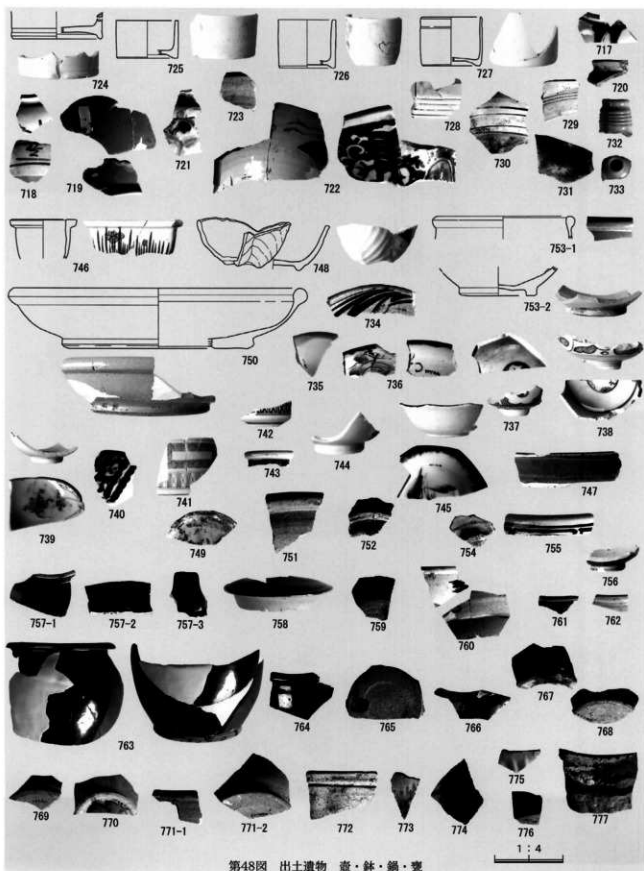
第45図 出土遺物 皿(1)



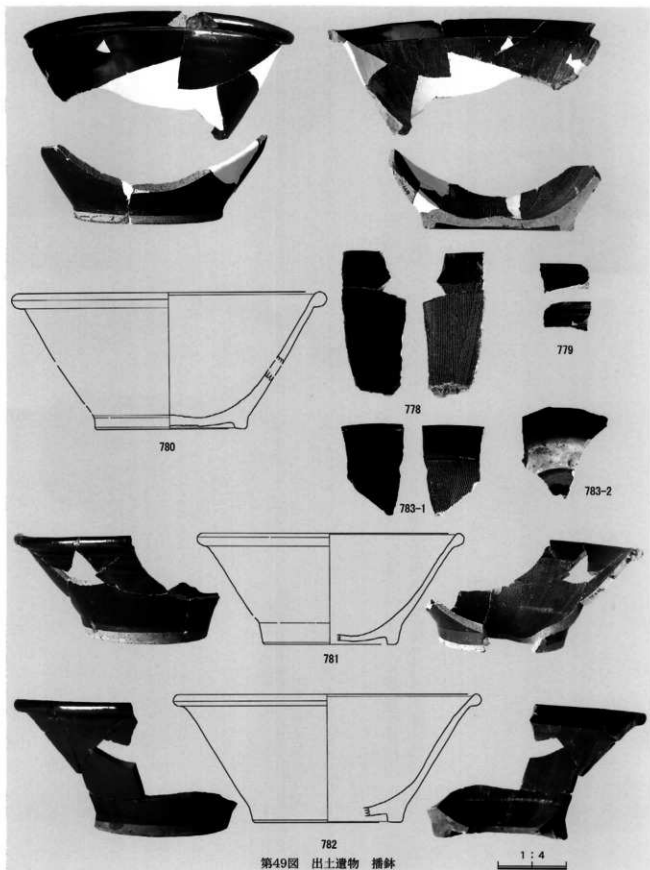
第46图 出土遗物 皿(2)



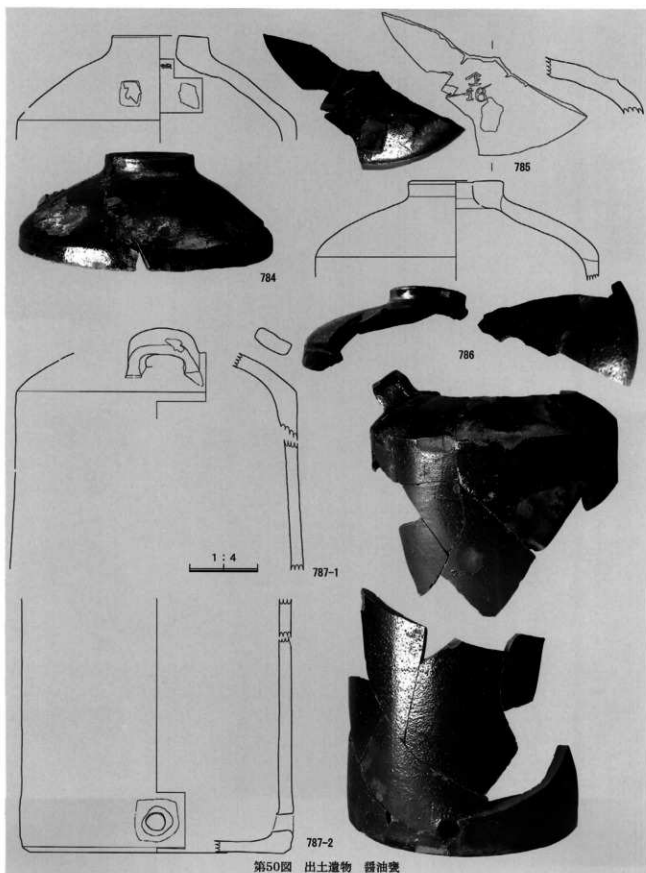
第47图 出土遗物 皿(3)・并

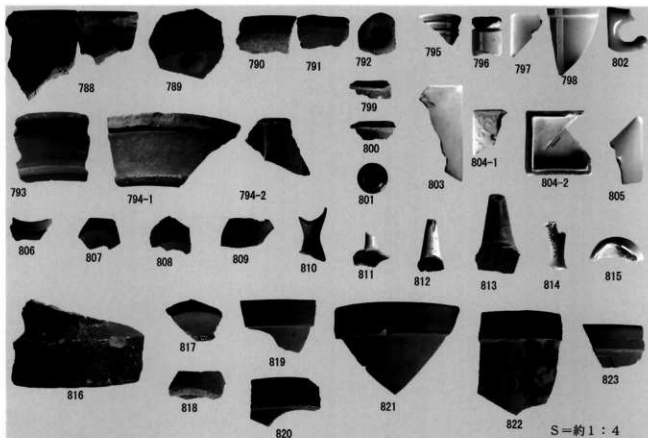


第48図 出土遺物 壺・鉢・鍋・甕

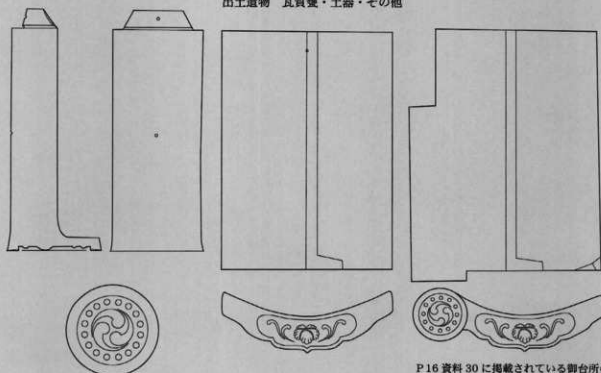


第49図 出土遺物 播鉢





出土遺物 瓦質甕・土器・その他

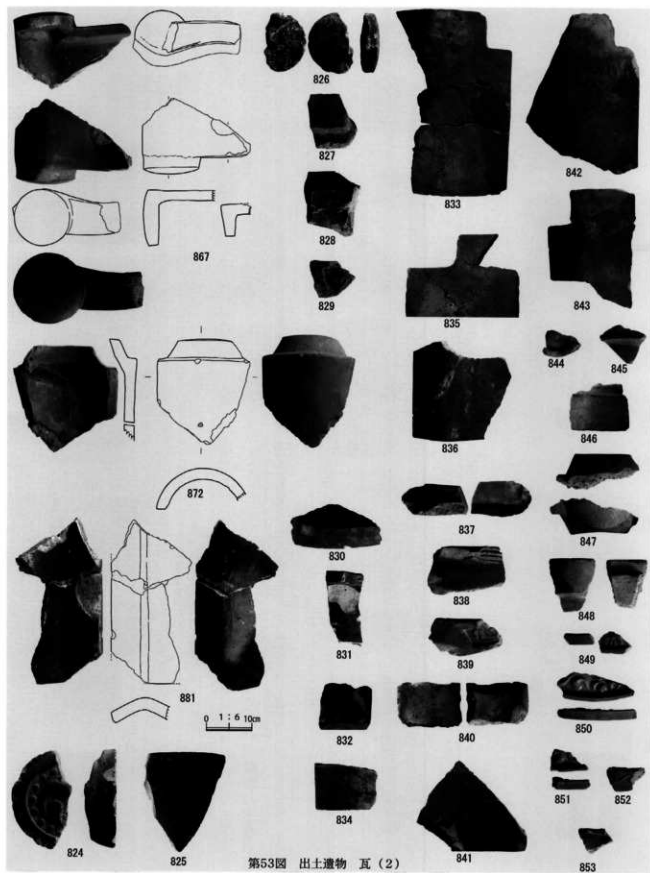


第51図 龍岡城御台所瓦設計図
(資料24よりトレース)

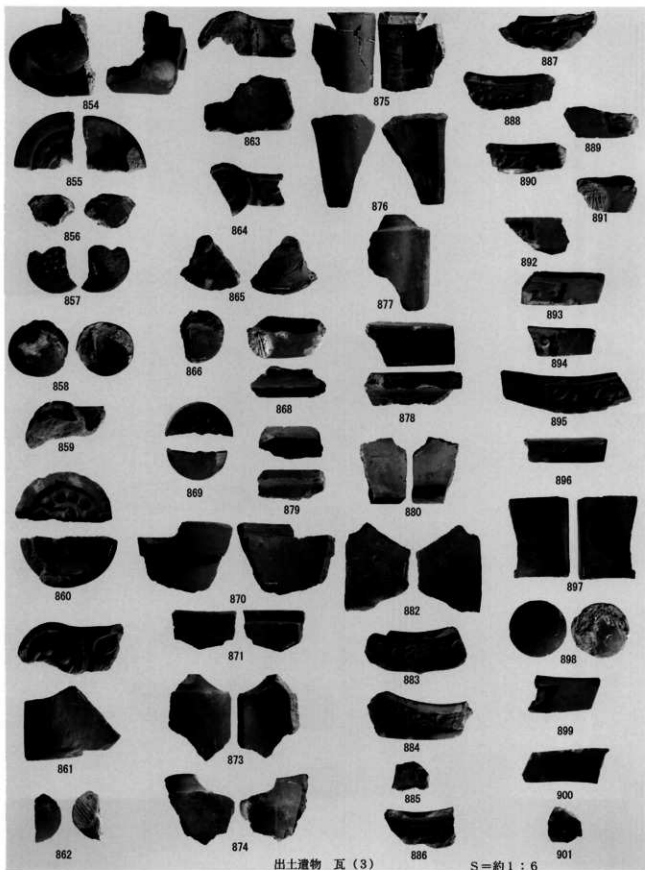
P 16 資料 30 に掲載されている御台所の瓦の
写真中にあり、古そうである。雲形があり、
瓦が写実的である。
885～887の瓦がこれと似ている。

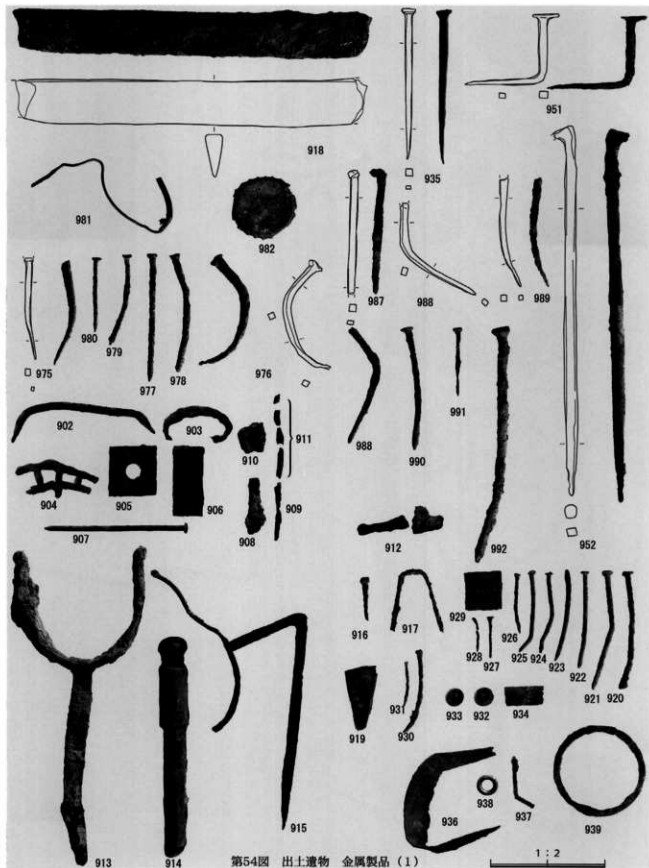


第52图 出土遗物 瓦(1)

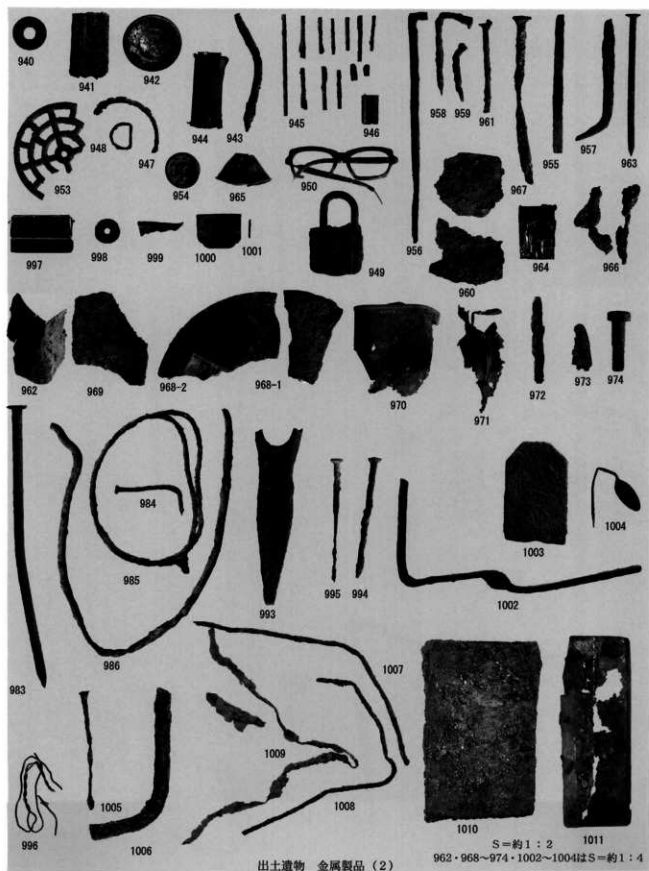


第53図 出土遺物 瓦(2)



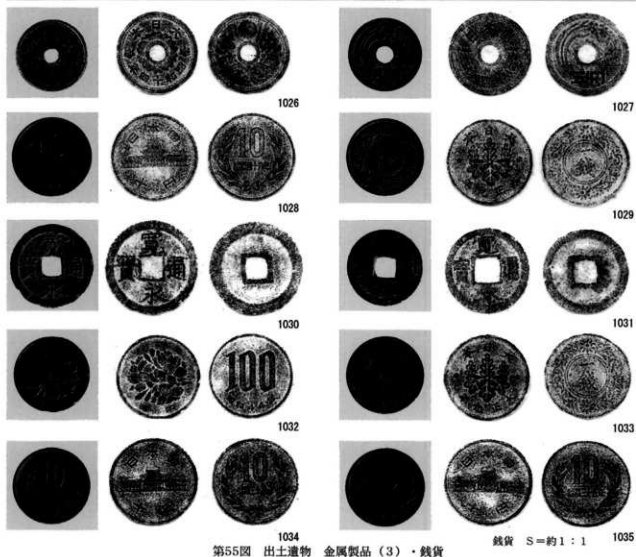
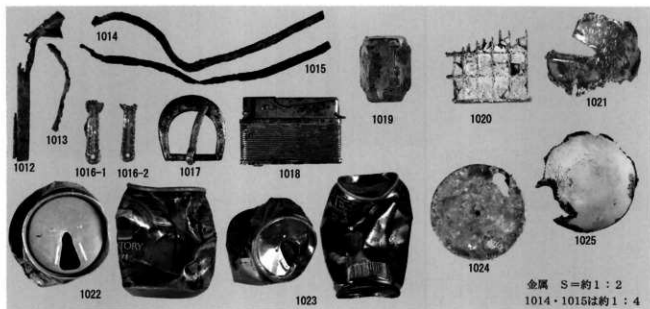


第54图 出土遺物 金属製品 (1)

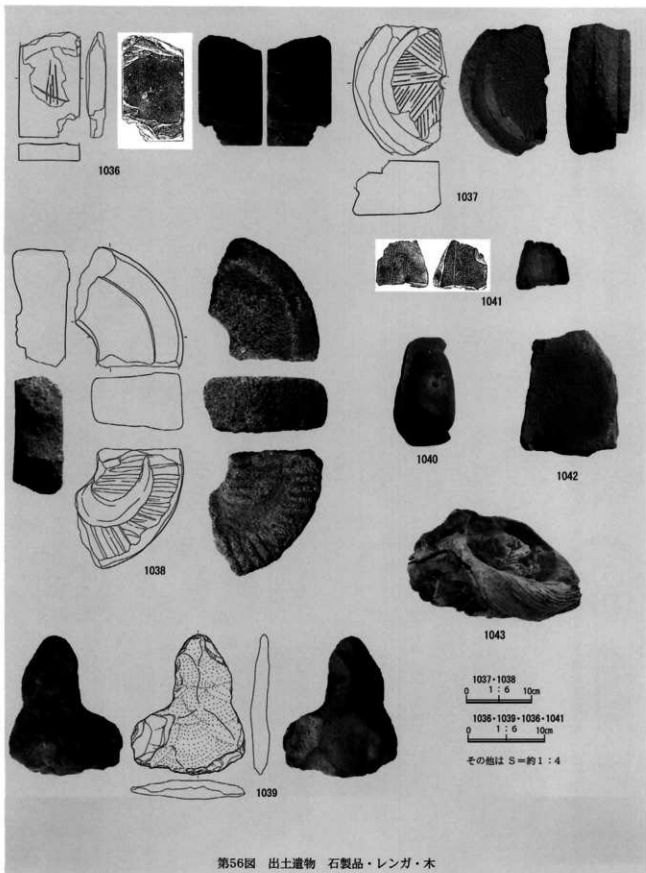


出土遺物 金属製品 (2)

S=約1:2
962・968~974・1002~1004はS=約1:4



第55図 出土遺物 金属製品(3)・銭貨



第3表 龍岡城跡Ⅰ・Ⅲ石材一覧表
龍岡城跡Ⅰ六門排水口石垣修理工事石材一覧表

A面 駒出し石										利用状況の○=再利用、△=補足石材である。								
石材番号	石種	石材数(長×幅×厚×高)				石材調査 目録	利用 状況	備考	修理 年度	石材番号	石種	石材数(長×幅×厚×高)				利用 状況	備考	修理 年度
		縦長	横長	厚	高							縦長	横長	厚	高			
A1		290	430	780	195				D1-8		370	660	450	130			H18	
A2		290	330	750	110				D1-9		360	500	390	86			H18	
A3		290	460	790	230				D1-10		390	600	400	106			H18	
A4		270	300	780	115				D1-11角石		440	620	209				H18	
A面 中石									D2-1角石		450	520	156				H18	
A1-1入隅	420	660	460	190					D2-2		480	370	380	74			H18	
A1-2	400	800	580	235					D2-3		430	490	400	119			H18	
A2-1入隅	470	590	500	180					D2-4		450	350	410	79			H18	
A2-2	500	670	500	225					D2-5		440	440	460	103			H18	
A3-1入隅	560	350	400	105					D2-6		460	470	420	116			H18	
A3-2	510	580	460	175					D2-7		450	450	500	121			H18	
A4-1入隅	410	430	420	75					D2-8		440	320	560	89			H18	
A5-1入隅	340	440	430	65					D2-9		440	500	330	102.5			H18	
B面 磨石									D2-10		440	400	430	109			H18	
B面 中石									D2-11		490	420	410	126			H18	
B面 1	510	530	570	188					D2-12角石		360	620	154				H18	
B面 2	510	350	300	87.5					D3-1角石		540	410	168				H18	
B面 3	390	310	350	61					D3-2		510	370	460	97.5			H18	
B1-1角石	370	476	114						D3-3		500	370	490	114			H18	
B1-2角石	420	420	125						D3-4		440	370	450	77			H18	
B2-1	370	650	500	142					D3-5		480	420	450	91			H18	
B2-2	520	480	300	114					D3-6		440	450	490	109			H18	
B3-1角石	460	390	156						D3-7		480	380	490	100			H18	
B3-2角石	400	360	95						D3-8		510	560	500	157			H18	
B3-3	400	440	107						D3-9		450	400	466	98			H18	
B3-4	380	410	130	92					D3-10		470	470	466	166			H18	
B3-5	460	330	148	156					D3-11		450	480	516	138			H18	
B3-6	420	300	430	48.5					D3-12角石		450	700	302				H18	
B3-7角石	430	540	168						上面 中石								H18	
B3-8角石	450	540	168						B1-1角石		390	670	192.5				H18	
B3-9	430	560	480	156					B1-2		460	350	450	90.5			H18	
B3-10	430	400	290	76					B1-3		410	420	370	82			H18	
B4A入隅	620	700	430	260					B1-4		320	460	410	110			H18	
B4B	580	410	520	200					B1-5		410	500	390	85			H18	
B4-1	550	500	500	209					B1-6		410	280	480	82			H18	
B4-2	630	680	550	334					B1-7		420	440	340	84.5			H18	
B4-3	400	410	340	72					B1-8		420	450	480	95.5			H18	
B4-4	400	450	450	92					B1-9		420	450	400	98			H18	
B4-5	350	560	440	77					B1-10		440	320	460	94			H18	
B4-6	260	480	550	74					B1-11		420	420	500	97			H18	
B4-7	400	550	520	138					B2-1角石		410	460	125				H18	
B4-8	360	420	350	68					B2-2		470	400	600	104			H18	
D4	400	370	370	95					B2-3		470	480	500	111			H18	
B5-1	470	540	410	145					B2-4		460	320	480	83			H18	
B5-2	470	440	440	85					B2-5		450	500	380	112			H18	
B5-3	370	600	440	90					B2-6		460	430	400	109			H18	
B5-4	360	570	450	109					B2-7		440	440	450	114			H18	
B5-5	340	490	460	84					B2-8		440	450	470	116			H18	
B5-6	320	290	440	48					B2-9		420	430	490	99			H18	
B5-7	410	490	330	104					B2-10		430	350	410	75			H18	
B5-8	400	500	400	101					B2-11		410	400	420	94			H18	
B5-9	390	530	470	130					B2-12		510	320	500	89			H18	
B5-10	580	410	520	200					B2-13角石		390	390	95				H18	
B6-1	300	180	380	25					B3-1角石		440	540	170				H18	
B6-2	350	610	460	135					B3-2		470	510	480	136			H18	
B6-3	510	830	290	185					B3-3		510	470	450	125			H18	
B6-4	400	340	410	105					B3-4		490	400	500	132			H18	
B6-5	500	320	470	100					B3-5		440	430	510	122			H18	
B6-6	460	550	420	170					B3-6		400	500	550	148			H18	
D7-1	260	300	400	27					B3-7		410	490	470	97			H18	
D1-1角石	370	360	114						B3-8		460	350	480	89			H18	
D1-2	390	270	380	53.5					B3-9		500	410	500	131			H18	
D1-3	380	480	420	84.5					B3-10		470	400	520	124			H18	
D1-4	370	420	490	88					B3-11		470	410	450	102			H18	
D1-5	360	410	580	92					F面 駒出し石								H18	
D1-6	350	570	450	161					F1		300	420	830	180			H19	
D1-7	380	350	430	86					F2		400	540	750	220			H19	
									F3		280	540	800	200			H19	
									F4		250	440	780	180			H19	
									F5		300	350	660	120			H19	

F南 中石

石材番号	石材整理 (長:mm, 重:kg)	石材調査	利用	備考	修理工年		
縦長	横長	厚長	重畳	目視	状況		
F1-1入隅	370 480 450 110		○				
F1-2	350 550 460 120		○				
F1-3	340 580 520 140		○				
F1-4	330 510 350 90		○		H19		
F2-1入隅	570 600 490 240		○		H19		
F2-2	500 560 500 200		○		H19		
F2-3	500 540 400 180		○		H19		
F3-1入隅	470 600 460 145		○		H19		
F3-2	390 440 370 70		○		H19		
G南 基石							
G8-1	240 450 180 40		○		H18		
G8-2	220 750 180 53		○		H18		
G8-3	320 1150 190 141		○		H18		
G南 中石							
G1	480 630 180 107		○		H18		
G2	510 620 170 126		○		H18		
G3	440 210 200 30		○		H18		
G4	430 910 200 148		○		H18		
G1-1	470 410 80 67		○		H18		
G1-2	490 440 430 109.5		○		H18		
G1-3	480 450 450 116.5		○		H18		
G1-4	470 350 470 93	枠有り	○		H18		
G1-5角石	390 400 - 192.5	○	※1と同じ		H18		
G1-6角石	440 450 - 209	○	※11と同じ		H18		
G1-7	310 300 470 42		○		H18		
G1-8	310 320 540 59		○		H18		
G1-9	290 550 340 93.5		○		H18		
G2-1	410 440 260 93		○		H18		
G2-2	420 580 400 144		○		H18		
G2-3	410 450 430 137		○		H18		
G2-4角石	470 500 - 145	○	※2と同じ		H18		
G2-5角石	390 420 - 154	半文有	○	※2-1と同じ	H18		
G2-6	520 550 440 151		○		H18		
G2-7	560 700 510 240		○		H18		
G3-1	450 500 460 106		○		H18		
G3-2	410 380 340 88.5		○		H18		
G3-3	440 450 500 110		○		H18		
G3-4角石	450 410 - 170	○	礎石		H18		
G3-5角石	440 580 - 302	○	※12と同じ		H18		
G3-6	430 460 370 124		○		H18		
G3-7	420 450 470 128		○		H18		
G4-1	430 370 430 80		○		H18		
G4-2	450 540 350 110		○		H18		
G4-3	400 460 450 450		○		H18		
G4-4	480 400 360 69	枠外積立ち	○		H18		
G4-5	520 320 450 83		○		H18		
G4-6	520 420 510 115		○		H18		
G4-7	500 500 350 107		○		H18		
G4-8	460 510 370 105		○		H18		
G4-9	480 500 420 125		○		H18		
G5-1	480 520 470 170		○		H18		
G5-2	480 460 410 145		○		H18		
G5-3	510 430 430 115	半文有	○		H18		
G5-4	430 460 410 120		○		H18		
G5-5	580 380 470 190		○		H18		
G5-6	400 240 340 45		○		H18		
G5-7	450 550 380 145		○		H18		
G5-8	510 630 400 155		○		H18		

H南 中石

石材番号	石材整理 (長:mm, 重:kg)	石材調査	利用	備考	修理工年		
縦長	横長	厚長	重畳	目視	状況		
H1	450 610 400 192		○		H18		
H1-2	380 470 380 82.5		○		H18		
H1-3	280 390 440 79.5		○		H18		
H1-4	340 230 110 42.5	半文有	○		H18		
H1-5	330 320 400 53.5		○		H18		
H1-6	430 380 400 82		○		H18		
H1-7	460 370 300 94		○		H18		
H1-8	420 350 470 83		○		H18		
H1-9	430 550 260 94.5		○		H18		
H1-10	460 500 400		○		H18		
H2-1	460 690 450 188		○		H18		
H2-2	460 500 400 135		○		H18		
H2-3	520 620 560 243		○		H18		
H2-4	500 450 360 138		○		H18		
H2-5	410 350 430 142		○		H18		
H2-6	740 450 370 88		○		H18		
H2-7	430 330 340 79	ハタリ有	○		H18		
H2-8	400 470 500 112		○		H18		
H2-9	420 300 290 56		○		H18		
H3-1	430 490 480 182.5		○		H18		
H3-2	420 450 450 120		○		H18		
H3-3	450 470 480 149		○		H18		
H3-4	490 490 400 158		○		H18		
H3-5	400 450 500 143		○		H18		
H3-6	400 470 510 166		○		H18		
H3-7	400 440 420 115		○		H18		
H3-8	420 410 460 131		○		H18		
H3-9	440 580 490 167		○		H18		
H4-1	- - - -		○		H18		
H4-2	380 500 460 140		○		H18		
H4-3	460 560 530 164	枠外・破断	△		H18		
H4-4	470 390 390 124	枠外・破断	△		H18		
H4-5	500 450 400 140		○		H18		
H4-6	450 400 430 120		○		H18		
H4-7	480 530 440 187		○		H18		
H4-8	540 530 460 213		○		H18		
H4-9	460 510 430 185	枠外有	○		H18		
H5-1	- - - -		○		H18		
H5-2	460 490 530 129	枠・破断	△		H18		
H5-3	450 470 410 140		○		H18		
H5-4	445 485 400 130	枠外・積立ち	△		H18		
H5-5	520 620 390 180		○		H18		
H5-6	520 470 470 164		○		H18		
H5-7	460 500 490 165		○		H18		
H5-8	450 660 520 180		○		H18		
備忘石							
石材番号	石材整理 (長:mm, 重:kg)	石材調査	補正	備考	修理工年		
縦長	横長	厚長	重畳	目視	方法		
B4-1	560 500 350 281		購入		換装蓄積	H19	
B5-3	440 390 600 273		購入		換装蓄積	H18	
B6-1	450 650 850 340		購入		換装蓄積	H18	
B6-1下	360 180 460 46		購入		換装蓄積	H18	
B6-5	450 450 350 200		購入		換装蓄積	H18	
B7-1	280 390 550 55		購入		換装蓄積	H18	
B7-1下	300 390 420 45		購入		換装蓄積	H18	
B4-3	410 490 610 185		購入		換装蓄積、逆打	H18	
B4-4	520 520 600 250		購入		換装蓄積	H18	
B5-2	500 490 900 210		購入		換装蓄積	H18	
B5-4	480 520 600 220		購入		換装蓄積	H18	

職出し石

龍岡城跡Ⅲ黒門西側石垣修理工事石材一覽表

石材番号	石材整理 (長:mm, 重:kg)	石材調査	利用	備考	修理工年		
縦長	横長	厚長	重畳	目視	状況		
K-1	250 610 800		○		H21		
K-2	250 610 830 286		○		H21		
K-3	250 610 780		○		H21		
K-4	250 590 790		○		H21		
K-5	250 610 740		○		H21		
K-6	240 750 700	クラック	○		H21		
K-7	250 560 770		○		H21		
K-8	240 440 780		○		H21		
K-9	240 800 760		○		H21		
K-10	240 430 800		○	下層加工	H21		
石材番号	石材整理 (長:mm, 重:kg)	石材調査	利用	備考	修理工年		
縦長	横長	厚長	重畳	目視	状況		
K-11	250 740 760		クラック	○	H21		
K-12	240 490 750		○		H21		
K-13	250 590 730		○		H21		
K-14	250 1340 790 489	半山工	○		H21		
K-15	250 950 730		○		H21		
K-16	340 1050 660	クラック	○		H21		
K-17	240 840 970		○		H21		
K-18	240 630 780		○		H21		
K-19	230 340 740		○		H21		
K-20	240 600 750		○		H21		

石材番号	石材整理 (長: mm, 重: kg)				石材調査 目 録	利用 状況	備 考	使用 年度	天端石				利用 状況	備 考	使用 年度
	幅長	幅長	厚長	重量					石材番号	幅長	厚長	重量			
K-21	240	540	820		クラック	○		H21	T-1	370	470	520	○	天端加工	H21
K-22	240	690	820			○		H21	T-2	440	525	450	○	天端加工	H21
K-23	240	700	770			○		H21	T-3	470	425	480	○	天端加工	H21
K-24	280	410	710		クラック	○		H21	T-4	475	530	635	○	天端加工	H21
K-25	240	600	790			○		H21	T-5	410	460	600	○	天端加工	H21
K-26	250	620	800			○		H21	T-6	430	540	400	○	天端加工	H21
K-27	240	410	780			○		H21	T-7	470	570	570	○	天端加工	H21
K-28	235	390	790			○		H21	T-8	500	500	520	○	天端加工	H21
K-29	240	530	770			○	下端加工	H21	T-9	510	590	460	○	天端加工	H21
K-30	240	600	780			○		H21	T-10	450	510	525	○	天端加工	H21
K-31	240	540	790			○		H21	T-11	510	540	640	○	天端加工	H21
K-32	240	650	770			○		H21	T-12	400	450	520	○	天端加工	H21
K-33	250	490	750			○		H21	T-13	350	450	520	○	天端加工	H21
K-34	245	500	740			○		H21	T-14	330	540	560	○	天端加工	H21
K-35	250	605	820			○		H21	T-15	420	550	460	○	天端加工	H21
K-36	260	570	770			○		H21	T-16	430	410	520	△	押入石に転用	H21
K-37	245	615	750			○		H22	T-17	400	575	515	△	押入石に転用	H21
K-38	230	470	950			○		H22	T-18	480	550	550	○		H21
K-39	250	475	900			○		H22	T-19	480	690	555	○	左側面加工	H21
K-40	245	350	820			○		H22	T-20	470	600	450	○		H21
K-41	210	445	830			○		H22	T-21	480	700	600	○	左側面加工	H21
K-42	250	420	845			○		H22	T-22	460	465	470	○		H21
K-43	230	650	860			○		H22	T-23	460	510	615	○	天端加工	H21
K-44	230	435	895			○		H22	T-24	460	720	680	○	天端・左側面加工	H21
K-45	240	440	935			○		H22	T-25	620	730	610	○	天端加工	H21
K-46	250	430	780			○		H22	T-26	580	490	540	○	後け落ち	H21
K-47	230	470	825	後け落ち		○		H22	T-27	555	465	520	○	天端加工	H21
K-48	230	395	920	山キズ		○		H22	T-28	460	545	600	○	天端加工	H21
K-49	250	435	930			○		H22	T-29	660	545	605	○	天端加工	H21
K-50	250	630	685			○		H22	T-30	470	520	380	○	天端加工	H21
K-51	250	470	850	後け落ち		○		H22	T-31	700	400	520	○	天端・右側面加工	H21
K-52	240	500	800	後け落ち		○		H22	T-32	800	600	680	○	天端加工	H21
K-53	250	370	800			○		H22	T-33	620	380	620	○	天端加工	H21
K-54	245	360	870	クラック		○		H22	T-34	550	460	470	○	山キズ	H21
K-55	245	410	890			○		H22	T-35	590	570	570	○	天端加工	H21
K-56	230	430	820			○		H22	T-36	615	490	520	○	天端・右側面加工	H21
K-57	250	460	960			○		H22	T-37	550	610	535	○	天端加工	H21
K-58	250	470	960	後け落ち		○		H22	T-38	580	670	590	○	天端加工	H21
K-59	245	430	780	山キズ		○		H22	T-39	600	620	580	○	天端加工	H21
K-60	250	440	780			○		H22	T-40	560	530	690	○	天端・下端加工	H21
K-61	250	410	960	後け落ち		○		H22	T-41	600	740	510	○	天端加工	H21
K-62	250	425	850	山キズ		○		H22	T-42	700	720	640	△	押入石に転用	H21
K-63	250	510	910	後け落ち		○		H22	T-43	370	340	410	○	押入石に転用	H21
K-64	250	505	800			○		H22	T-44	680	680	650	○	天端・左側面加工	H21
K-65	250	495	830	山キズ		○		H22	T-45	510	685	555	○		H22
K-66	250	530	900			○		H22	T-46	410	550	430	○	天端加工	H22
K-67	235	480	840	146		○		H22	T-47	600	800	520	△	購入	H22
K-68	250	445	840			○		H22	T-48	330	570	340	△	支給	H22
K-69	250	425	800	後け落ち		○		H22	T-49	500	710	560	○	天端加工	H22
K-70	250	360	850			○		H22	T-50	550	630	440	○	天端加工	H22
K-71	240	335	790			○		H22	T-51	580	640	530	○	天端加工	H22
K-72	250	320	790	後け落ち		○		H22	T-52	570	650	330	○	天端加工	H22
K-73	240	380	900			○		H22	T-53	380	630	635	○	天端加工	H22
K-74	250	560	910			○		H22	T-54	520	675	480	○	天端加工	H22
K-75	250	550	880			○		H22	T-55	710	725	460	○	山キズ	H21
K-76	260	440	770			○		H22	T-56	680	610	520	○	天端加工	H22
K-77	260	395	800	後け落ち		○		H22	T-57	610	810	450	○	山キズ	H22
K-78	250	650	900			○		H22	T-58	370	400	470	○	天端加工	H22
K-79	250	430	890			○		H22	T-59	490	650	860	○	天端加工	H22
K-80	260	330	800			○		H22	T-60	490	810	450	○	右側面・天端加工	H22
K-81	250	450	790	後け落ち・山キズ		○		H22	T-61	590	660	670	○	右側面・天端加工	H22
K-82	245	500	860			○		H22	T-62	660	780	540	○	左側面・天端加工	H22
K-83	250	545	825			○		H22	T-63	435	570	370	○	天端加工	H22
K-84	250	500	830			○		H22	T-64	330	620	480	○	天端加工	H22
K-85	250	390	890	クラック		○		H22	T-65	560	730	590	○	右側面・天端加工	H22
K-86	250	280	960			○		H22	T-66	440	810	340	○	天端加工	H22
K-87	250	840	800	271	クラック	○		H22	T-67	620	650	470	○	右側面・天端加工	H22
K-88	250	415	775			○		H22	T-68	270	560	360	○	押入石に転用	H22
K-89	250	605	820			○		H22	T-69	380	650	500	○	右側面・天端加工	H22
K-90	250	375	930	後け落ち		○		H22	T-70	560	760	490	○	天端加工	H22
K-91	240	480	910			○		H22	T-71	345	720	390	○	天端加工	H22
K-92	230	695	830	クラック		○		H22	T-72	440	930	440	○	天端加工	H22
K-93	250	375	890			○		H22	T-73	500	770	370	○	右側面・天端加工	H22
K-94	245	360	850			○		H22	T-74	420	920	310	○	天端加工	H22
K-95	240	385	860			○		H22							H22

石材番号	石材整理 縦長	(長: mm, 重: kg) 横長	縦長	石材調査 目視	利用 状況	備考	修理工 年度	石材番号	石材整理 縦長	(長: mm, 重: kg) 横長	縦長	石材調査 目視	利用 状況	備考	修理工 年度	
丁75	470	840	570		○	天端加工	H22	63	660	590	470		○		H21	
丁76	560	730	570		○	天端加工	H22	64	760	540	440		○		H21	
丁77	520	850	490		○	天端加工	H22	65	720	640	540		○		H21	
丁78	395	600	570		○	ト端加工	H22	66	480	540	540	山キズ・遮き石	△	押入石に転用	H21	
丁79	550	590	620		○		H22	67	730	800	530		○		H21	
丁80	430	660	460		○	ト端加工	H22	68	750	690	610		○		H21	
丁81	560	550	590		○		H22	69	820	630	590		○		H21	
丁82	485	490	590		○		H22	70	830	760	760	314	山キズ	○	左側面加工	H21
丁83	370	600	570		○		H22	71	860	720	610		○		H21	
丁84	320	620	530		○		H22	72	760	600	630		○		H21	
丁85	710	670	720		○		H22	73	730	740	580	山キズ	○	右天端加工	H21	
丁86	685	870	610		○		H22	74	650	650	520	山キズ	○	右側面加工	H21	
中石								75	590	660	450		○		H21	
1	400	750	450	山キズ・削げ落ち	○		H21	76	690	700	480		○		H21	
2	490	620	430		○		H21	77	670	490	620		○		H21	
3	400	510	590	山キズ	○		H21	78	600	630	610		○		H21	
4	530	340	530	滑き石	○		H21	79	710	650	430	山キズ	○		H21	
5	650	700	630	山キズ	○		H21	80	520	540	550	山キズ	○	右天端加工	H21	
6	730	550	410	山キズ・クラック	○	ト端加工	H21	81	680	660	600		○		H21	
7	680	630	480		○		H21	82	760	670	540		○	下端加工	H21	
8	650	710	550		○		H21	83	690	550	520		○		H21	
9	580	580	530		△	押入石に転用	H21	84	710	740	640		○	右天端加工	H21	
10	680	700	440		○		H21	85	730	840	630	山キズ	○	天端加工	H21	
11	670	590	520		○		H21	86	770	880	540	山キズ	○		H21	
12	700	800	500		○		H21	87	840	710	510	山キズ	○		H21	
13	700	720	700	山キズ	○		H21	88	640	690	510	抜け落ち	○	天端加工	H21	
14	630	650	620		○		H21	89	600	710	670		○	天端加工	H21	
15	600	600	600		○		H21	90	710	760	510	クラック	○		H21	
16	600	690	600	山キズ	○		H21	91	690	640	510		○		H21	
17	680	620	530	山キズ・削げ落ち	○		H21	92	690	590	400		○	左天端加工	H21	
18	810	720	430	山キズ	○	右天端加工	H21	93	640	890	500		○		H21	
19	730	710	610	山キズ	○		H21	94	580	640	450	遮き石	○		H22	
20	690	700	320	山キズ	○	左側面加工	H21	95	610	670	420	遮き石	△	押入石に転用	H22	
21	740	660	600		○		H21	96	650	790	570		○		H22	
22	620	520	520	山キズ	○		H21	97	590	650	440	山キズ	○		H22	
23	700	750	610		○		H21	98	550	700	440		○	天端加工	H22	
24	740	660	710		○	右側面加工	H21	99	610	620	500	遮き石	○	右天端加工	H22	
25	620	490	550	山キズ	○		H21	100	565	580	340		○		H22	
26	660	550	510	山キズ	○		H21	101	350	710	560		○		H21	
27	710	660	530		○		H21	102	350	390	560		○		H21	
28	550	460	520		○	天端・右側面加工	H21	103	400	510	670		○	天端加工	H21	
29	610	560	540		○	天端・右側面加工	H21	104	640	540	475	山キズ	○	左天端加工	H21	
30	780	740	580	山キズ	○		H21	105	610	560	605		○	天端加工	H21	
31	760	650	520		○	左天端加工	H21	106	680	600	490	山キズ	○		H21	
32	580	540	460		○		H21	107	700	670	560	クラック	○	左側面加工	H21	
33	630	570	550		○		H21	108	500	585	525		○		H21	
34	560	470	500		○		H21	109	640	740	500		○		H21	
35	730	710	740	山キズ	○	右天端加工	H21	110	560	560	500		○	ト端加工	H21	
36	560	600	520	山キズ	○	左天端加工	H21	111	535	650	435		○		H21	
37	790	840	720	山キズ・削げ落ち	○	左天端・ト端加工	H21	112	750	750	535		○		H21	
38	600	660	630	遮き石・削げ落ち	○	左天端加工	H21	113	600	540	510		○		H21	
39	770	550	450	山キズ・クラック	○		H21	114	640	595	580	山キズ	○		H21	
40	890	900	450	山キズ	○	左天端加工	H21	115	600	620	460		○		H21	
41	540	580	670		○		H21	116	545	460	460	抜け落ち	○		H21	
42	620	930	550		○		H21	117	455	465	450		○		H21	
43	650	860	420		○		H22	118	440	625	420	山キズ	○		H21	
44	620	800	455		△	押入石に転用	H22	119	605	605	500		○		H21	
45	430	690	555		○		H22	120	720	680	575		○		H21	
46	430	620	495		○	左天端加工	H22	121	715	710	520		○		H21	
47	600	800	530	367	○	天端加工	H22	122	930	840	535	山キズ	○	ト端加工	H21	
48	690	590	495		○	天端加工	H22	123	825	830	540		○		H21	
49	750	880	470		○	天端加工	H22	124	920	780	595	山キズ	○		H21	
50	500	790	520		○	右側面・天端加工	H22	125	610	640	535	山キズ	○		H21	
51	440	430	560		○		H21	126	720	625	605		○		H21	
52	450	530	680	山キズ	○	左側面加工	H21	127	735	740	515		○		H21	
53	550	540	560	山キズ	○		H21	128	560	530	390		○		H21	
54	600	570	690		○	天端加工	H21	129	870	745	500		○		H21	
55	530	450	590		○		H21	130	690	570	490	削げ落ち・削り跡	○		H21	
56	700	590	590		○		H21	131	750	640	570		○	右天端加工	H21	
57	690	680	460		○	天端加工	H21	132	700	585	580	クラック	○		H21	
58	640	620	630		○	右天端加工	H21	133	660	640	495		○		H21	
59	660	650	590	抜け落ち	○	右天端加工	H21	134	720	740	495	山キズ・クラック	○		H21	
60	670	650	650		○		H21	135	820	785	450		○		H21	
61	640	590	530		○	右天端加工	H21	136	750	690	600		○		H21	
62	620	510	600	山キズ	○		H21	137	555	505	520		○		H21	

石材番号	石材整理 (長・幅・重)				石材調査	利用状況	備考	使用年度	石材番号	石材整理 (長・幅・重)				石材調査	利用状況	備考	使用年度
	縦長	横長	厚さ	重量						縦長	横長	厚さ	重量				
138	670	650	480		山キズ・クラック				212								
139	690	760	480						213	480	525	350		○	大塚・神尾加工	2122	
140	590	690	500						214	670	590	485	281	○	山キズ	2122	
141	660	630	480						215	695	880	485		○		2122	
142	660	630	400						216	530	540	550		○		2122	
143	800	680	450						217	650	750	450		○		2122	
144	680	800	410						218	580	685	390		○		2122	
145	520	600	460						219	680	765	390		○		2122	
146	790	860	590						220	590	665	330		○		2122	
147	570	800	590						221	410	730	390		○		2122	
148	770	730	480						222	455	560	430		○		2122	
149	590	890	590						223	330	445	445		○		2122	
150	830	700	560						224	595	1200	425		○		2122	
151	570	580	560						225	540	690	430		○		2122	
152	850	645	480						226	470	510	500		○		2122	
153	760	740	440						227	620	985	770		○		2122	
154	770	740	410						228	710	620	520		○		2122	
155	620	790	520						229	660	760	500		○		2122	
156	700	780	435						230	590	520	385		○		2122	
157	490	810	500						231	745	800	375		○		2122	
158	660	900	470						232	485	790	530		○		2122	
159	830	885	415						233	690	680	390		○		2122	
160	780	740	590						234	640	860	540		○		2122	
161	825	815	480						235	510	870	490		○		2122	
162	750	750	500						236	670	920	540		○		2122	
163	750	710	530						237	695	760	610		○		2122	
164	530	550	410						238	610	650	345		○		2122	
165	850	690	565						239	600	700	430	205	○		2122	
166	690	755	410						240	440	630	400		○		2122	
167	610	630	460						241	645	670	480		○		2122	
168	635	580	340						242	485	575	415		○		2122	
169	650	1000	590	294	左寄りトモ				243	650	730	450		○		2122	
170	775	610	500						244	620	840	520		○		2122	
171	760	500	440						245	770	800	510		○		2122	
172	610	635	530						246	645	740	350		○		2122	
173	670	780	375						247	685	795	470		○		2122	
174	760	760	480						248	640	715	500		○		2122	
175	710	670	510						249	690	755	430		○		2122	
176	480	410	435						250	770	935	455		○		2122	
177	590	650	585						251	585	730	615		○		2122	
178	630	930	490						252	725	910	455		○		2122	
179	575	625	460						253	500	780	410		○		2122	
180	520	810	350						254	780	630	480		○		2122	
181	610	490	330						255	560	630	430		○		2122	
182	520	680	500						256	680	655	485		○		2122	
183	640	820	430						257	750	645	380		○		2122	
184	530	610	570						258	670	660	450		○		2122	
185	510	730	410						259	640	800	520		○		2122	
186	620	690	410	205					260	550	790	440		○		2122	
187	620	680	380						261	600	680	320		○		2122	
188	510	710	380						262	560	890	455		○		2122	
189	720	860	360						263	660	590	515	213	○		2122	
190	560	610	390						264	530	540	370		○		2122	
191	470	585	330						265	535	715	405		○		2122	
192	550	670	340						266	595	675	440		○		2122	
193	540	640	365						267	560	450	395		○		2122	
194	700	750	540						268	470	490	510		○		2122	
195	410	685	445						269	560	590	475		○		2122	
196	590	800	445						270	640	680	420		○		2122	
197	545	720	410						271					○		2122	
198	520	800	440						272	600	630	550		○		2122	
199	655	790	520						273	575	775	590		○		2122	
200	855	965	360						274	600	730	600	223	○		2122	
201	890	680	380						275	685	865	470		○		2122	
202	420	830	605						276	455	780	540		○		2122	
203	700	750	490						277	620	730	520		○		2122	
204	610	1055	390						278	510	625	390		○		2122	
205	655	690	380						279	780	675	560		○		2122	
206	560	415	460						280	790	870	450		○		2122	
207	390	680	430						281	815	850	500		○		2122	
208	430	450	440						282	640	705	345		○		2122	
209	600	710	510						283	680	710	600		○		2122	
210	640	760	540						284	640	770	435		○		2122	
211	620	510	415											○		2122	

石材番号	石材整理 (長: mm, 重: kg)	石材調査	利用	備考	修理	石材番号	石材整理 (長: mm, 重: kg)	石材調査	利用	備考	修理
	縦長 横長	縦長 重量	状況		年度		縦長 横長 縦長 重量	目視			年度
285	850 730 425		抜け落ち	○	H22	N-23			○	右天端加工	H21
286	935 930 700			○	H22	N-24			クラック		H21
287	785 960 375			○	H22	N-25			○		H21
288	745 855 440			○	H22	N-26			○		H21
289	575 630 315			○	H22	N-27			○		H21
290	720 930 510			○	H22	N-28			○		H21
291	900 895 500	下次付		○	H22	N-29		山キズ	○	右天端加工	H21
292	700 820 390			○	H22	N-30			○	右天端加工	H21
293-1	630 800 490			○	H22	N-31			○	右天端加工	H21
293-2	800 780 350			○	H22	N-32		山キズ	○	右天端加工	H21
294	700 735 350		右天端加工	○	H22	N-33			○		H21
295	730 960 430			○	H22	N-34			○		H21
296	650 700 440			○	H22	N-35			○	左天端加工	H21
297	660 720 320			○	H22	N-36			○	右天端加工	H22
298	720 685 350			○	H22	N-37			○	右天端加工	H22
299	620 895 440			○	H22	N-38			○		H22
300	760 780 350			○	H22	N-39			○		H22
301	730 710 410	逆さ石	○	右天端加工	H22	N-40			○		H22
302	590 560 360	逆さ石	○	右天端加工	H22	N-41			○		H22
303	700 815 360	抜け落ち	○	左天端加工	H22	N-42			○		H22
304	735 800 630			○	H22	N-43		逆さ石・山キズ	○		H22
305	770 860 550	346		○	H22	N-44		山キズ	○		H22
306	660 620 420			○	H22	N-45			○		H22
307	645 820 720			○	H22	N-46			○		H22
308	720 590 390	抜け落ち	○		H22	N-47			○		H22
309	705 775 480			○	H22	N-48			○		H22
310	750 780 445			○	H22	N-49		山キズ	○		H22
311	520 810 420			○	H22	N-50			○		H22
312	665 730 435			○	H22	N-51			○		H22
313	540 705 450			○	H22	N-52			○		H22
314	565 750 465	抜け落ち	○	右側面・天端加工	H22	N-53			○		H22
315	865 900 650			○	H22	N-54			○		H22
316				○	H22	N-55			○		H22
317	560 735 585			○	H22	N-56		山キズ	○		H22
318	605 850 365			○	H22	N-57			○		H22
319	720 855 540			○	H22	N-58			○		H22
320	440 640 410	抜け落ち	○	天端加工	H22	N-59			○		H22
321	715 770 550			○	H22	N-60			○		H22
322	790 810 590	323		○	H22	N-61			○		H22
323	735 830 450			○	H22	N-62		縦石・山キズ	○		H22
324	870 700 555	逆さ石	○	左天端加工	H22	N-63		抜け落ち	○		H22
325	750 750 460			○	H22	N-64			○		H22
326	840 720 400	逆さ石	○		H22	N-65			○		H22
327	760 795 450			○	H22	N-66			○		H22
328	805 680 400	逆さ石	○		H22	N-67			○		H22
329	525 670 390			○	H22	N-68			○		H22
330	585 740 350			○	H22	N-69			○		H22
331	680 840 450			○	H22						
332	680 625 370			○	H22						
333	790 950 480			○	H22						
334	650 665 410			○	H22						
335	585 770 420			○	H22						
336	500 565 375			○	H22						
337	625 800 380	238		○	H22						
礎石											
N-1				○	H21	T-9	540 560 460		在石	天端石	
N-2				○	H21	T-16	460 440 490		在石	天端石	
N-3				○	H21	T-17	540 610 460		在石	天端石	
N-4				○	H21	T-42	800 760 610		在石	天端石	
N-5				○	H21	T-43	460 415 620		在石	天端石	
N-6				○	H21	T-47	550 800 500		購入	天端石	
N-7				○	H21	T-48	300 350 600		購入	天端石	
N-8				○	H21	T-68	280 580 650		支給	天端石	
N-9				○	H21	下石と天端	410 140 550		変換	天端石	
N-10				○	H21	9	640 680 540		在石	中心	
N-11				○	H21	4	650 850 900		購入	中心	
N-12				○	H21	66	480 560 560		在石	中心	
N-13				○	H21	95	630 730 790		購入	中心	
N-14				○	H21	211	700 630 530		購入	中心	
N-15				○	H21	219	720 760 970		購入	中心	
N-16				○	H21	220	600 720 600		支給	中心	
N-17				○	H21	222	440 550 450		支給	中心	
N-18				○	H21	255	690 750 430		支給	中心	
N-19				○	H21	259	680 800 600		購入	中心	
N-20				○	H21	264	580 580 430		支給	中心	
N-21				○	H21	267	500 550 450		支給	中心	
N-22				○	H21						

第4表 龍岡城跡出土遺物一覧表

期総表(A系統)

(続) (通表)

遺物番号	整理番号	種類	法量 (cm)	内面	調査・文書		紙面	出土位置	備考
					口底(底径)×底高(厚)×重量(g)	外面			
1	A-1	磁器茶碗	(11.0) (3.7) 3.1 38	内面	裏面	プリント	素材残像	六門跡水口跡(塚) (TT1)	即「P」系焼酎 (TT1)
2	A-2	磁器茶碗	-	内面	裏面	プリント	素材残像	西下溝・置積出土	CH1分灰層・CH1分灰層
3	A-3	磁器茶碗	(11.4) (4.0) 5.6 78	内面	裏面	プリント	無残	置積出土・石段上層	CH1分灰層
4	A-4	磁器茶碗	(11.4) (4.0) 5.7 52	内面	裏面	プリント	無残	置積出土・石段上層	CH1分灰層
5	A-5	磁器茶碗	(11.3) 4.1 6.0 70	内面	裏面	プリント	無残	置積出土	CH1分灰層
6	A-5-2	磁器茶碗	-	37 (5.0) 48	内面	裏面	プリント	無残	置積出土
7	A-6	磁器茶碗	(11.0) - (4.3) 27	内面	裏面	プリント	無残	置積出土	CH1分灰層
8	A-7	磁器茶碗	(11.3) 4.1 6.2 76	内面	裏面	プリント	無残	置積出土	CH1分灰層
9	A-8	磁器茶碗	(11.6) 4.3 5.6 52	内面	裏面	プリント	無残	置積出土	CH1分灰層
10	A-9	磁器茶碗	(11.5) 4.1 5.7 120	内面	裏面	プリント	(101) 空白	置積出土・石段上層	CH1分灰層
11	A-10-1	磁器茶碗	(11.7) 4.1 5.9 73	内面	裏面	プリント	(100) 刷印	置積出土	CH1分灰層
12	A-11	磁器茶碗	-	(5.2) 38	内面	プリント	-	置積出土	CH1分灰層
13	A-12	磁器茶碗	(10.0) (4.0) 6.0 38	内面	裏面	プリント	無残	置積出土	CH1分灰層
14	A-13	磁器茶碗	(11.7) - (3.7) 48	内面	裏面	プリント	-	置積出土	CH1分灰層
15	A-14	磁器茶碗	8.4 - (4.3) 12	内面	裏面	プリント	-	置積出土	CH1分灰層
16	A-15	磁器茶碗	-	(4.0) (4.3) 28	内面	プリント	無残	置積出土	CH1分灰層
17	A-16	磁器茶碗	(11.2) 4.0 6.0 84	内面	裏面	プリント	無残	置積出土	CH1分灰層
18	A-17	磁器茶碗	(11.0) 4.0 (4.8) 157	内面	裏面	プリント	(157) 刷印	置積出土	CH1分灰層
19	A-18	磁器茶碗	(11.5) 4.0 6.1 120	内面	裏面	プリント	(156) 刷印	置積出土	CH1分灰層
20	A-19	磁器茶碗	(10.1) 4.2 (5.3) 99	内面	裏面	プリント	無残	置積出土	CH1分灰層
21	A-20	磁器茶碗	(10.8) - (5.7) 62	内面	裏面	プリント	無残	置積出土	CH1分灰層
22	A-21	磁器茶碗	(12.0) (4.6) 3.6 40	内面	裏面	プリント	無残	置積出土	CH1分灰層
23	A-22	磁器茶碗	(11.2) 4.0 6.0 100	内面	裏面	プリント	無残	置積出土	CH1分灰層
24	A-23	磁器茶碗	(11.0) 4.0 6.1 65	内面	裏面	プリント	(155) 刷印	置積出土	CH1分灰層
25	A-24	磁器茶碗	(10.7) (4.3) (3.1) 76	内面	裏面	プリント	(154) 刷印	置積出土	CH1分灰層
26	A-25	磁器茶碗	(10.4) 3.8 (4.2) 68	内面	裏面	プリント	(153) 刷印	置積出土	CH1分灰層
27	A-26	磁器茶碗	(11.4) (4.2) 6.0 78	内面	裏面	プリント	無残	置積出土	CH1分灰層
28	A-27	磁器茶碗	(11.2) (4.0) 3.8 72	内面	裏面	プリント	無残	置積出土	CH1分灰層
29	A-28	磁器茶碗	8.0) (4.2) (4.8) 40	内面	裏面	プリント	無残	置積出土	CH1分灰層
30	A-29	磁器茶碗	9.0) - (5.5) 18	内面	裏面	プリント	無残	置積出土	CH1分灰層
31	A-30	磁器茶碗	-	4.0 (3.9) 63	内面	プリント	無残	置積出土	CH1分灰層
32	A-31	磁器茶碗	-	(4.2) (4.0) 52	内面	プリント	無残	置積出土	CH1分灰層
33	A-32	磁器茶碗	(11.1) (3.6) 6.0 64	内面	裏面	プリント	無残	置積出土	CH1分灰層
34	A-33	磁器茶碗	(11.2) 4.0 (4.1) 84	内面	裏面	プリント	無残	置積出土	CH1分灰層
35	A-34	磁器茶碗	(11.3) 4.0 3.4 100	内面	裏面	プリント	無残	置積出土	CH1分灰層
36	A-35	磁器茶碗	(12.0) (4.2) (4.6) 30	内面	裏面	プリント	無残	置積出土	CH1分灰層
37	A-36	磁器茶碗	(11.4) (3.8) (4.5) 35	内面	裏面	プリント	無残	置積出土	CH1分灰層
38	A-37	磁器茶碗	(10.4) - (5.2) 50	内面	裏面	プリント	無残	置積出土	CH1分灰層

透源	型別番号	種類	法 量 (mm)	法 量 (mm)	内 量	調 整 ・ 文 様	底 部	出 土 位 置	備 考
			山脈(北)底(南)底(西)底(東)	底(北)底(南)底(西)底(東)					高松城跡(高松市佐田町区心)
39	A-38	磁器茶碗	-	(6.0)	20	灰黒	フリント	出アノ山脈 (TTT)	70
40	A-39	磁器茶碗	-	(6.0)	14	灰黒	フリント	重層出土・C1分層表層・C1分北層・石田山脈B6-5重層台	70
41	A-40	磁器茶碗	(10.0)	-	6.0	40	灰黒	重層出土・C1分層	80
42	A-41	磁器茶碗	(10.2)	(4.0)	60.1	33	灰黒	C1分層表層・白分4層・重層出土・重	40
43	A-42	磁器茶碗	(11.2)	(4.0)	5.8	52	灰黒	重層出土	10
44	A-43	磁器茶碗	(10.1)	-	(6.0)	54	灰黒	B1分北層・C1分層上層・C1分南層・C1分北層・B1分北層・B1分南層・C1分南表層	132
45	A-44	磁器茶碗	(10.0)	(5.0)	6.1	46	灰黒	重層出土	120
46	A-45	磁器茶碗	(10.7)	-	(4.7)	27	灰黒	C1分北・C1分南・B1分南上層・C1分南・C1分北・B1分南上層・重層出土	70
47	A-46	磁器茶碗	(9.2)	(4.3)	(4.2)	50	灰黒	重層出土・重(C1分北・C1分南)	30
48	A-47	磁器茶碗	(10.0)	3.4	4.6	68	灰黒	重層出土	20
49	A-48	磁器茶碗	(10.0)	-	(3.3)	18	灰黒	重層出土	20
49	A-48	磁器茶碗	(10.0)	3.4	4.6	68	灰黒	上段付消失	-
50	A-49	磁器茶碗	-	(3.3)	4.7	30	上段付消失	「段435」瓦葺印	-
51	A-50	磁器茶碗	-	(4.3)	(2.0)	26	灰黒	「段47」瓦葺印	-
52	A-51	磁器茶碗	-	(4.0)	(3.1)	54	灰黒	フリント	-
53	A-52	磁器茶碗	-	(4.4)	(4.2)	48	灰黒	フリント	-
54	A-53	磁器茶碗	10.8	3.9	5.9	124	灰黒	フリント	-
55	A-54	磁器茶碗	(11.6)	-	(4.7)	39	灰黒	フリント	20
56	A-55	磁器茶碗	(10.1)	-	(3.0)	18	灰黒	フリント	21
57	A-56	磁器茶碗	(12.1)	(3.8)	5.0	48	灰黒	フリント	-
58	A-57	磁器茶碗	-	(3.8)	(3.4)	30	灰黒	フリント	-
59	A-58	磁器茶碗	-	3.8	(3.7)	50	灰黒	フリント+層	-
60	A-59	磁器茶碗	(11.2)	(4.0)	6.1	95	灰黒	フリント	10
61	A-60	磁器茶碗	(11.4)	3.8	(3.4)	67	灰黒	フリント	60
62	A-61	磁器茶碗	(11.0)	-	(3.0)	37	灰黒+横	フリント	-
63	A-62	磁器茶碗	-	(4.2)	(3.6)	40	灰黒	フリント	-
64	A-63	磁器茶碗	(9.3)	-	(5.0)	18	灰黒	フリント	-
65	A-64	磁器茶碗	11.2	4.0	5.6	84	灰黒+層	横	84
66	A-65	磁器茶碗	(11.2)	-	(4.0)	49	灰黒+下層	横	90
67	A-66	磁器茶碗	(10.6)	-	(4.2)	20	灰黒+下層	横	-
68	A-67	磁器茶碗	11.7	4.1	5.3	98	灰黒	フリント	2
69	A-68	磁器茶碗	-	(3.2)	(3.0)	28	灰黒	フリント	20
70	A-69	磁器茶碗	-	4.2	(3.2)	32	灰黒	フリント	-
71	A-70	磁器茶碗	(11.2)	(4.4)	6.1	42	灰黒	フリント	-
72	A-71	磁器茶碗	(11.4)	(4.2)	6.1	42	灰黒+層	フリント	-
73	A-72	磁器茶碗	(11.5)	4.4	6.1	57	灰黒	フリント	15
74	A-73	磁器茶碗	(11.4)	3.8	6.1	71	灰黒	フリント	1
75	A-74	磁器茶碗	-	4.1	(5.2)	86	灰黒	フリント	260
76	A-75	磁器茶碗	(11.0)	4.2	(4.2)	77	灰黒	フリント	400
77	A-76	磁器茶碗	(10.3)	4.1	5.9	94	灰黒+横	横	400
78	A-77	磁器茶碗	(10.4)	4.2	(5.0)	118	灰黒	フリント	100
79	A-78	磁器茶碗	(11.6)	(4.1)	5.3	28	灰黒+フリント	フリント+横	56

通番	整理番号	種類	法		面積 (cm)		構造・文様		表部	出土位置		備註 (出土品 数)
			口径(仮)	底径(仮)	底径(実)	重量(g)	内面	外面		穴内水口形状	出土層	
80	A-79	磁器茶碗	(11.4)	(4.1)	6.0	36	灰黒+緑	フリント	10(10)巾 瓦葺印	穴内水口形状	出アール層 (TTTT)	102
81	A-80	磁器茶碗	(11.9)	(4.0)	5.0	67	灰黒+緑	フリント	10(10)巾 瓦葺印	重焼出土・臼分北土層・CH分北土層		64
82	A-81	磁器茶碗	(11.6)	-	(4.0)	12	灰黒+緑	フリント		重焼出土・壺		47
83	A-82	磁器茶碗	(11.2)	(4.2)	6.0	170	灰黒	フリント	瓦葺印	重焼出土		-
84	A-83	磁器茶碗	-	(4.0)	(3.5)	58	灰黒	フリント		CH分南土層・重焼出土・壺下流		39
85	A-84	磁器茶碗	-	(4.0)	(2.0)	16	灰黒	フリント	(瓦55) 瓦葺印	重焼出土		-
86	A-85	磁器茶碗	-	(4.0)	(3.3)	39	灰黒	フリント	(瓦45) 瓦葺印	重焼出土	土層部(壺)壺下層	-
87	A-86	磁器茶碗	(9.8)	(4.0)	6.4	50	灰黒	フリント	(瓦10) 瓦葺印	CH分・重焼出土・臼分北土層		3
88	A-87	磁器茶碗	(9.4)	(4.8)	(4.4)	52	灰黒	フリント		重焼出土		-
89	A-88	磁器茶碗	-	-	(5.0)	67	灰黒+クロム	フリント		CH分南土層・重焼出土		-
90	A-89	磁器茶碗	(11.3)	(4.1)	5.8	58	灰黒+クロム	フリント壺		重焼出土		-
91	A-90	磁器茶碗	(11.0)	-	(6.7)	30	灰黒+緑	フリント壺		重焼出土・壺		20
92	A-91	磁器茶碗	(9.0)	-	(4.5)	19	灰黒+緑	壺+吹付		CH分南土層・重焼出土		-
93	A-92	磁器茶碗	(11.2)	(4.4)	6.1	80	灰			壺下流		-
94	A-93	磁器茶碗	(11.6)	(3.8)	5.1	48	灰黒+クロム	フリント		重焼出土		-
95	A-94	磁器茶碗	-	(4.0)	(3.8)	59	灰黒+緑	フリント		重焼出土・CH分南土層		112
96	A-95	磁器茶碗	(11.4)	-	(5.3)	22	灰黒	フリント		CH分・重焼出土・CH分南土層		32
97	A-96	磁器茶碗	(11.6)	-	(3.3)	10	灰黒+クロム	フリント		重焼出土・CH分北土層・壺下流		65
98	A-97	磁器茶碗	(10.4)	(3.8)	(5.0)	98	灰黒+クロム	フリント壺		重焼出土・CH分北土層・臼分北土層・壺		16
99	A-98	磁器茶碗	(11.5)	(4.2)	5.6	50	壺目+灰+クロム			重焼出土・臼分北土層・壺		54
100	A-99	磁器茶碗	(11.8)	(4.0)	(2.8)	42	灰黒+クロム+緑	フリント		壺下流・重焼出土		48
101	A-100	磁器茶碗	(11.2)	(4.2)	(2.3)	30	灰黒+クロム			重焼出土・CH分南土層		1
102	A-101	磁器茶碗	(15.2)	(6.2)	5.0	70	灰黒+緑			重焼出土・壺		5
103	A-102	磁器茶碗	(11.6)	(4.4)	5.3	70	灰黒+緑	フリント		重焼出土・壺		65
104	A-103	磁器茶碗	(11.2)	-	(3.2)	18	灰黒	フリント		重焼出土・CH分北土層・臼分北土層		14
105	A-104	磁器茶碗	(10.6)	-	(4.4)	12	灰黒	フリント		CH分・重焼出土		6
106	A-105	磁器茶碗	(9.2)	(4.0)	(2.3)	27	灰黒	フリント	瓦葺印	重焼出土		17
107	A-106	磁器茶碗	(7.4)	(5.2)	(5.1)	34	灰黒	フリント	瓦葺印	重焼出土		28
108	A-107	磁器茶碗	(11.6)	(4.2)	5.0	56	クロム		瓦葺印	CH分南土層		140
109	A-107-2	磁器茶碗	-	(4.0)	(2.3)	28	クロム		瓦葺印	CH分北土層・臼分南土層・CH分南土層・CH分南土層	土層部(壺)壺下層(瓦葺印)	-
110	A-108	磁器茶碗	(8.8)	(4.0)	(2.5)	24	灰黒	フリント	(瓦1070) クロム印	壺下流		7
111	A-109	磁器茶碗	(10.8)	(4.2)	(3.3)	67	灰黒	フリント		重焼出土		1
112	A-110	磁器茶碗	(11.2)	-	(4.0)	24	灰黒	フリント		CH分北土層・重焼出土		22
113	A-111	磁器茶碗	(11.0)	(4.0)	6.1	82	土絵付 銅 黒			CH分南土層・重焼出土・CH分南土層		62
114	A-112	磁器茶碗	(11.0)	4.6	5.6	100	灰		(瓦84) 瓦葺 灰	重焼出土	土層部(壺)壺下層(瓦葺)	153
115	A-112-2	磁器茶碗	(10.8)	(5.3)	5.1	79	灰		灰	重焼出土		-
116	A-112-3	磁器茶碗	-	(4.7)	(4.0)	44	灰		(瓦240) 瓦葺 灰	CH分南土層		35
117	A-112-4	磁器茶碗	(10.6)	(4.7)	6.2	92	灰			重焼出土		-
118	A-112-5	磁器茶碗	-	(4.8)	5.1	55	灰			CH分南土層		12
119	A-112-6	磁器茶碗	-	(4.5)	(3.0)	98	灰		(瓦124) 瓦葺 灰	重焼出土	土層部(壺)壺下層(瓦葺)	42
120	A-112-7	磁器茶碗	(11.8)	4.5	(5.0)	55	灰		(瓦62) 瓦葺 灰	重焼出土	土層部(壺)壺下層(瓦葺)	-

消費 番号	種別	法 量 (mm)		調 査 量、文 様		底 部	出 土 位 置		出土品 の 種別
		口徑(後)	底径(前)	内 径	外 径		穴の中心位置 (TTT1)	穴の中心位置 (TTT2)	
121 A-112-8	磁器茶碗	(5.0)	(5.0)	鉄	鉄	「祝253」型印 鉄	CH分南1層	多摩川(河口)	磁器茶碗
122 A-112-9	磁器茶碗	(4.2)	(4.8)	鉄	鉄	「祝252」型印 鉄	CH分南	多摩川(河口)	磁器茶碗
123 A-112-10	磁器茶碗	(11.0)	-	鉄	鉄		CH分北2層	多摩川(河口)	磁器茶碗
124 A-112-11	磁器茶碗	(6.0)	-	鉄	鉄		重層出土	多摩川(河口)	磁器茶碗
125 A-113	磁器茶碗	(4.8)	(5.1)	5 鉄	鉄	タロム	重層出土	多摩川(河口)	磁器茶碗
126 A-114	磁器茶碗	(12.0)	(4.6)	5.8 5 鉄	タロム	タロム	重層出土	多摩川(河口)	磁器茶碗
127 A-115	磁器茶碗	(4.2)	5.0	29	鉄		重層出土	多摩川(河口)	磁器茶碗
128 A-116	磁器茶碗	(10.8)	-	(4.7)	18		CH分北2層	多摩川(河口)	磁器茶碗
129 A-117	磁器茶碗	(11.1)	4.2	6.1	30		CH分北2層	多摩川(河口)	磁器茶碗
130 A-118	磁器茶碗	(10.8)	-	(4.0)	16		CH分南	多摩川(河口)	磁器茶碗
131 A-119	磁器茶碗	(10.2)	-	5.9	13		重層出土	多摩川(河口)	磁器茶碗
132 A-120	磁器茶碗	(10.3)	-	(5.5)	20		重層出土	多摩川(河口)	磁器茶碗
133 A-121	磁器茶碗	-	(4.2)	(6.8)	64	「祝10」型印	CH分南	多摩川(河口)	磁器茶碗
134 A-122	磁器茶碗	-	(4.8)	(4.1)	40		重層出土	多摩川(河口)	磁器茶碗
135 A-123	磁器茶碗	(10.6)	-	(5.0)	23		重層出土	多摩川(河口)	磁器茶碗
136 A-124	磁器茶碗	-	(2.0)	(5.4)	24		CH分北2層	多摩川(河口)	磁器茶碗
137 A-125	磁器茶碗	(5.0)	-	(3.2)	12		重層出土	多摩川(河口)	磁器茶碗
138 A-126	磁器茶碗	(4.8)	-	(5.4)	16		CH分南	多摩川(河口)	磁器茶碗
139 A-127	磁器茶碗	-	(2.1)	(3.1)	16		高下層	多摩川(河口)	磁器茶碗
140 A-128	磁器茶碗	(12.4)	-	(3.2)	8		CH分南	多摩川(河口)	磁器茶碗
141 A-129	磁器茶碗	(10.6)	(4.0)	(3.8)	48		CH分南	多摩川(河口)	磁器茶碗
142 A-130	磁器茶碗	(10.2)	-	(3.7)	10		CH分南	多摩川(河口)	磁器茶碗
143 A-131	磁器茶碗	(10.2)	-	(4.0)	28		CH分南	多摩川(河口)	磁器茶碗
144 A-132	磁器茶碗	-	(4.0)	(2.9)	32		重層出土	多摩川(河口)	磁器茶碗
145 A-133	磁器茶碗	-	(4.9)	(2.9)	14		重層出土	多摩川(河口)	磁器茶碗
146 A-134	磁器茶碗	-	(2.0)	(5.3)	34		重層出土	多摩川(河口)	磁器茶碗
147 A-135	磁器茶碗	(11.3)	4.3	6.0	112		重層出土	多摩川(河口)	磁器茶碗
148 A-136	磁器茶碗	-	(2.2)	(3.2)	40		重層出土	多摩川(河口)	磁器茶碗
149 A-137	磁器茶碗	(13.2)	(4.0)	(4.6)	62		重層出土	多摩川(河口)	磁器茶碗
150 A-138	磁器茶碗	(14.5)	-	(5.3)	50		重層出土	多摩川(河口)	磁器茶碗
151 A-139	磁器茶碗	(11.3)	4.2	6.1	73		重層出土	多摩川(河口)	磁器茶碗
152 A-140	磁器茶碗	(10.3)	-	(4.2)	26		重層出土	多摩川(河口)	磁器茶碗
153 A-141	磁器茶碗	(6.0)	-	(5.3)	36		重層出土	多摩川(河口)	磁器茶碗
154 A-142	磁器茶碗	(11.4)	(4.3)	6.1	40		重層出土	多摩川(河口)	磁器茶碗
155 A-143	磁器茶碗	-	4.0	(4.0)	39		重層出土	多摩川(河口)	磁器茶碗
156 A-144	磁器茶碗	-	(4.2)	(3.5)	34		重層出土	多摩川(河口)	磁器茶碗
157 A-145	磁器茶碗	-	(4.1)	(3.9)	42		重層出土	多摩川(河口)	磁器茶碗
158 A-146	磁器茶碗	-	(4.0)	(5.3)	42		重層出土	多摩川(河口)	磁器茶碗
159 A-147	磁器茶碗	(11.2)	-	(4.7)	17		重層出土	多摩川(河口)	磁器茶碗
160 A-148	磁器茶碗	(11.0)	-	(3.8)	11		重層出土	多摩川(河口)	磁器茶碗
161 A-149	磁器茶碗	(11.9)	(4.5)	5.6	44		重層出土	多摩川(河口)	磁器茶碗

通車番号	種別	種別	証数 (両)	調整・文種	底形	出土位置	備註
162 A-150	硬砂茶碗	口底(長)底(丸)硬砂(裏面)	(10.9) (4.2)	内 瓦	須賀	下門橋水口貯蔵 (TTT1)	硬砂茶碗(白底赤口)
163 A-151	硬砂茶碗	(11.0)	- (3.3)	外 瓦	須賀	CH2分・Et3分層・重層出土	10
164 A-152	硬砂茶碗	(11.0)	- (2.9)	内 瓦	須賀	CH2分層・CH3分層・重層出土	6
165 A-153	硬砂茶碗	(10.4)	(4.1)	内 瓦	須賀	CH2分層・CH3分層・重層出土	-
166 A-154	硬砂茶碗	(11.1)	- (4.0)	内 瓦	須賀	CH2分層・CH3分層・重層出土	15
167 A-155	硬砂茶碗	(11.0)	(3.8)	内 瓦	須賀	CH2分層・CH3分層・重層出土	26
168 A-157	硬砂茶碗	(11.0)	(3.8)	内 瓦	須賀	CH2分層・CH3分層・重層出土	1
169 A-158	硬砂茶碗	(11.0)	(4.0)	内 瓦	須賀	CH2分層・CH3分層・重層出土	13
170 A-159	硬砂茶碗	(7.6)	(4.0)	内 瓦	須賀	CH2分層・CH3分層・重層出土	-
171 A-160	硬砂茶碗	(11.6)	(4.0)	内 瓦	須賀	CH2分層・CH3分層・重層出土	14
172 A-161	硬砂茶碗	(10.8)	- (2.1)	内 瓦	須賀	CH2分層・CH3分層・重層出土	6
173 A-162	硬砂茶碗	(10.7)	(3.8)	内 瓦	須賀	CH2分層・CH3分層・重層出土	-
174 A-163	硬砂茶碗	(10.6)	(4.0)	内 瓦	須賀	CH2分層・CH3分層・重層出土	25
176 A-165	硬砂茶碗	-	3.7	内 瓦	須賀	CH2分層・CH3分層・重層出土	-
177 A-166	硬砂茶碗	-	3.8	内 瓦	須賀	CH2分層・CH3分層・重層出土	-
178 A-167	硬砂茶碗	(10.7)	4.3	内 瓦	須賀	CH2分層・CH3分層・重層出土	10
179 A-168	硬砂茶碗	(12.0)	- (4.0)	内 瓦	須賀	CH2分層・CH3分層・重層出土	10
180 A-169	硬砂茶碗	4.4	(4.0)	内 瓦	須賀	CH2分層・CH3分層・重層出土	34
181 A-170	硬砂茶碗	(10.6)	- (3.9)	内 瓦	須賀	CH2分層・CH3分層・重層出土	30
182 A-171	硬砂茶碗	-	(3.4)	内 瓦	須賀	CH2分層・CH3分層・重層出土	-
183 A-172	硬砂茶碗	-	(3.4)	内 瓦	須賀	CH2分層・CH3分層・重層出土	-
184 A-173	硬砂茶碗	(9.2)	- (4.8)	内 瓦	須賀	CH2分層・CH3分層・重層出土	80
185 A-174	硬砂茶碗	(10.9)	- (4.2)	内 瓦	須賀	CH2分層・CH3分層・重層出土	4
186 A-175	硬砂茶碗	(10.8)	- (4.3)	内 瓦	須賀	CH2分層・CH3分層・重層出土	18
187 A-176	硬砂茶碗	-	5.2	内 瓦	須賀	CH2分層・CH3分層・重層出土	22
188 A-177	硬砂茶碗	(11.6)	- (3.1)	内 瓦	須賀	CH2分層・CH3分層・重層出土	4
189 A-178	硬砂茶碗	-	(3.8)	内 瓦	須賀	CH2分層・CH3分層・重層出土	-
190 A-179	硬砂茶碗	(8.6)	- (3.3)	内 瓦	須賀	CH2分層・CH3分層・重層出土	-
191 A-180	硬砂茶碗	-	(4.1)	内 瓦	須賀	CH2分層・CH3分層・重層出土	-
192 A-181	硬砂茶碗	(3.6)	- (2.1)	内 瓦	須賀	CH2分層・CH3分層・重層出土	-
193 A-182	硬砂茶碗	(10.0)	- (3.7)	内 瓦	須賀	CH2分層・CH3分層・重層出土	-
194 A-183	硬砂茶碗	(11.0)	- (4.0)	内 瓦	須賀	CH2分層・CH3分層・重層出土	-
195 A-184	硬砂茶碗	(9.5)	- (5.8)	内 瓦	須賀	CH2分層・CH3分層・重層出土	-
196 A-185	硬砂茶碗	(11.0)	- (5.3)	内 瓦	須賀	CH2分層・CH3分層・重層出土	-
197 A-186	硬砂茶碗	(8.3)	- (4.5)	内 瓦	須賀	CH2分層・CH3分層・重層出土	-
198 A-187	硬砂茶碗	(10.4)	- (4.1)	内 瓦	須賀	CH2分層・CH3分層・重層出土	-
199 A-188	硬砂茶碗	(10.4)	- (4.1)	内 瓦	須賀	CH2分層・CH3分層・重層出土	-
200 A-189	硬砂茶碗	(11.7)	- (4.0)	内 瓦	須賀	CH2分層・CH3分層・重層出土	-
201 A-190	硬砂茶碗	(11.0)	- (2.3)	内 瓦	須賀	CH2分層・CH3分層・重層出土	-
202 A-191	硬砂茶碗	(11.0)	- (2.3)	内 瓦	須賀	CH2分層・CH3分層・重層出土	-

標準 番号	機器 番号	法 量 (kg)		異 質 ・ 文 様		風 形	出 土 位 置		出土層 (m)
		山尻(丸)	山頂(丸)	内 面	外 面		門前水口横溝(TTT1)	組ア-5層E(PTT1)	
239 B-10	磁器(赤丸形)	8.0	(3.2)	48	56	瓦葺	組ア-5層E(PTT1)	組ア-5層E(PTT1)	274
240 B-11	磁器(赤丸形)	68.0	-	3.00	12	瓦葺	組ア-5層E(PTT1)	組ア-5層E(PTT1)	274
241 B-12	磁器(赤丸形)	68.0	(3.0)	4.8	28	瓦葺	組ア-5層E(PTT1)	組ア-5層E(PTT1)	8
242 B-13	磁器(赤丸形)	68.2	-	(3.7)	24	瓦葺	組ア-5層E(PTT1)	組ア-5層E(PTT1)	20
243 B-14	磁器(赤丸形)	8.2	3.0	4.8	62	瓦葺	組ア-5層E(PTT1)	組ア-5層E(PTT1)	128
244 B-15	磁器(赤丸形)	8.0	(3.0)	4.8	24	瓦葺	組ア-5層E(PTT1)	組ア-5層E(PTT1)	8
245 B-16	磁器(赤丸形)	7.8	2.6	4.6	63	瓦葺	組ア-5層E(PTT1)	組ア-5層E(PTT1)	110
246 B-17	磁器(赤丸形)	68.2	-	(3.8)	15	瓦葺	組ア-5層E(PTT1)	組ア-5層E(PTT1)	10
247 B-18	磁器(赤丸形)	7.8	(3.0)	4.8	50	瓦葺	組ア-5層E(PTT1)	組ア-5層E(PTT1)	14
248 B-19	磁器(赤丸形)	68.2	(3.2)	4.8	40	瓦葺	組ア-5層E(PTT1)	組ア-5層E(PTT1)	14
249 B-20	磁器(赤丸形)	7.0	-	(4.3)	30	瓦葺	組ア-5層E(PTT1)	組ア-5層E(PTT1)	106
250 B-21	磁器(赤丸形)	8.0	(3.0)	4.8	32	瓦葺	組ア-5層E(PTT1)	組ア-5層E(PTT1)	-
251 B-22	磁器(赤丸形)	8.0	3.0	4.9	94	瓦葺	組ア-5層E(PTT1)	組ア-5層E(PTT1)	-
252 B-23	磁器(赤丸形)	8.6	(3.0)	(4.4)	22	瓦葺	組ア-5層E(PTT1)	組ア-5層E(PTT1)	18
253 B-24	磁器(赤丸形)	7.4	(2.8)	4.6	22	瓦葺	組ア-5層E(PTT1)	組ア-5層E(PTT1)	8
254 B-25	磁器(赤丸形)	8.0	(2.8)	4.8	22	瓦葺	組ア-5層E(PTT1)	組ア-5層E(PTT1)	50
255 B-26	磁器(赤丸形)	68.2	(3.0)	4.6	46	瓦葺	組ア-5層E(PTT1)	組ア-5層E(PTT1)	138
256 B-27	磁器(赤丸形)	68.2	(3.0)	4.8	48	瓦葺	組ア-5層E(PTT1)	組ア-5層E(PTT1)	235
257 B-28	磁器(赤丸形)	8.0	(3.0)	4.4	50	瓦葺	組ア-5層E(PTT1)	組ア-5層E(PTT1)	28
258 B-29	磁器(赤丸形)	-	(3.0)	(4.4)	24	瓦葺	組ア-5層E(PTT1)	組ア-5層E(PTT1)	-
259 B-30	磁器(赤丸形)	68.0	-	(3.8)	13	瓦葺	組ア-5層E(PTT1)	組ア-5層E(PTT1)	-
260 B-31	磁器(赤丸形)	7.8	(3.0)	4.4	17	瓦葺	組ア-5層E(PTT1)	組ア-5層E(PTT1)	22
261 B-32	磁器(赤丸形)	8.1	(3.0)	4.8	44	瓦葺	組ア-5層E(PTT1)	組ア-5層E(PTT1)	40
262 B-33	磁器(赤丸形)	68.0	(3.2)	4.7	60	瓦葺	組ア-5層E(PTT1)	組ア-5層E(PTT1)	56
263 B-34	磁器(赤丸形)	68.2	3.2	4.8	60	瓦葺	組ア-5層E(PTT1)	組ア-5層E(PTT1)	-
264 B-35	磁器(赤丸形)	68.0	(3.2)	4.7	84	瓦葺	組ア-5層E(PTT1)	組ア-5層E(PTT1)	26
265 B-36	磁器(赤丸形)	68.1	3.0	4.7	74	瓦葺	組ア-5層E(PTT1)	組ア-5層E(PTT1)	-
266 B-37	磁器(赤丸形)	68.0	(3.0)	4.7	70	瓦葺	組ア-5層E(PTT1)	組ア-5層E(PTT1)	339
267 B-38	磁器(赤丸形)	8.2	3.0	4.7	116	瓦葺	組ア-5層E(PTT1)	組ア-5層E(PTT1)	-
268 B-39	磁器(赤丸形)	68.0	(3.0)	4.6	54	瓦葺	組ア-5層E(PTT1)	組ア-5層E(PTT1)	16
269 B-40	磁器(赤丸形)	68.2	(3.0)	4.7	46	瓦葺	組ア-5層E(PTT1)	組ア-5層E(PTT1)	-
270 B-41	磁器(赤丸形)	68.2	(3.0)	4.6	42	瓦葺	組ア-5層E(PTT1)	組ア-5層E(PTT1)	-
271 B-42	磁器(赤丸形)	68.0	(2.8)	4.6	36	瓦葺	組ア-5層E(PTT1)	組ア-5層E(PTT1)	9
272 B-43	磁器(赤丸形)	68.0	-	(4.0)	18	瓦葺	組ア-5層E(PTT1)	組ア-5層E(PTT1)	6
273 B-44	磁器(赤丸形)	68.8	(3.2)	4.8	46	瓦葺	組ア-5層E(PTT1)	組ア-5層E(PTT1)	82
274 B-45	磁器(赤丸形)	68.2	3.0	4.8	50	瓦葺	組ア-5層E(PTT1)	組ア-5層E(PTT1)	-
275 B-46	磁器(赤丸形)	7.50	3.0	4.4	62	瓦葺	組ア-5層E(PTT1)	組ア-5層E(PTT1)	-
276 B-47	磁器(赤丸形)	7.4	2.8	4.4	72	瓦葺	組ア-5層E(PTT1)	組ア-5層E(PTT1)	48
278 B-49	磁器(赤丸形)	7.2	-	(3.7)	24	瓦葺	組ア-5層E(PTT1)	組ア-5層E(PTT1)	-
279 B-50	磁器(赤丸形)	68.7	(4.0)	4.0	32	瓦葺	組ア-5層E(PTT1)	組ア-5層E(PTT1)	14

通称	整理番号	種別	法	調製	文様	紙部	出土位置	縮小片
通称	整理番号	種別	法	調製	文様	紙部	出土位置	縮小片
通称	整理番号	種別	法	調製	文様	紙部	出土位置	縮小片
290	B-51	紙製香灰丸形	白灰(B)・灰(%) (6.0)	3.0	4.7	70	六ツ角水口彫埋 (TTT1) 附フーシ彫埋 (TTT2)	縮小片 -
281	B-52	紙製香灰丸形	(6.0)	(3.0)	4.5	34	CH分注型・重焼製出土	-
282	B-53	紙製香灰丸形	(6.3)	-	(3.0)	12	CH分注型・重焼製出土	1
283	B-54	紙製香灰丸形	(6.0)	(2.5)	4.7	30	重焼製出土	28
284	B-55	紙製香灰丸形	-	(2.8)	(4.2)	29	重焼製出土・Bb分注 型・CH分注型・重焼製出土	9
285	B-56	紙製香灰丸形	(6.1)	-	(3.7)	30	重焼製出土	41
286	B-57	紙製香灰丸形	-	(3.4)	(4.1)	32	Bb分注型・重焼製出土・西下焼 重焼製出土	36
287	B-58	紙製香灰丸形	(6.5)	-	(3.8)	25	重焼製出土	38
288	B-59	紙製香灰丸形	(6.2)	3.0	4.6	42	Bb分注型・重焼製出土	-
289	B-60	紙製香灰丸形	(7.8)	2.9	4.6	32	重焼製出土	-
290	B-61	紙製香灰丸形	(6.5)	-	(4.5)	40	Bb分注型・重焼製出土	-
291	B-62	紙製香灰丸形	(7.7)	(2.5)	4.2	12	重焼製出土	14
292	B-63	紙製香灰丸形	-	(3.1)	(3.3)	28	重焼製出土	-
293	B-63	紙製香灰丸形	(7.8)	(3.0)	4.3	24	CH分注型・重焼製出土	28
294	B-64	紙製香灰丸形	8.0	(2.8)	4.6	72	CH分注型・重焼製出土	-
295	B-65	紙製香灰丸形	(6.5)	-	(3.8)	33	重焼製出土	-
296	B-65	紙製香灰丸形	-	(3.0)	(3.0)	22	重焼製出土	-
297	B-67	紙製香灰丸形	-	3.0	(3.1)	28	重焼製出土	24
298	B-68	紙製香灰丸形	(7.8)	-	(4.6)	20	重焼製出土	-
299	B-69	紙製香灰丸形	-	-	-	16	重焼製出土	42
300	B-70	紙製香灰丸形	-	-	-	10	重焼製出土	-
301	B-71	紙製香灰丸形	-	(3.0)	(3.4)	36	CH分注型高背・CH分注型・重焼製出土	42
302	B-72	紙製香灰丸形	-	(3.0)	(3.6)	36	重焼製出土	40
303	B-73	紙製香灰丸形	-	3.0	(4.2)	44	重焼製出土	-
304	B-74	紙製香灰丸形	(6.0)	(2.6)	4.6	34	重焼製出土	10
305	B-75	紙製香灰丸形	(6.0)	(3.6)	4.7	30	重焼製出土	-
306	B-76	紙製香灰丸形	-	(3.5)	(6.0)	74	Bb分注型・重焼製出土	-
307	B-77	紙製香灰丸形	-	-	19	重焼製出土	CH分注型上表区 CH分注型上層	20
308	B-78	紙製香灰丸形	(6.4)	(2.6)	4.6	43	重焼製出土	18
309	B-79	紙製香灰丸形	(7.8)	(3.6)	4.9	60	重焼製出土	10
310	B-80	紙製香灰丸形	(6.0)	-	(3.5)	5	重焼製出土	-
311	B-81	紙製香灰丸形	-	-	6	重焼製出土	-	-
312	B-82	紙製香灰丸形	(6.2)	(3.0)	4.7	50	重焼製出土	6
313	B-83	紙製香灰丸形	(6.2)	-	(3.9)	16	重焼製出土	-
314	B-84	紙製香灰丸形	(6.4)	3.0	4.7	58	重焼製出土	6
315	B-85	紙製香灰丸形	-	3.0	(1.7)	16	重焼製出土	-
316	B-86	紙製香灰丸形	-	(3.0)	(3.7)	14	重焼製出土	7
317	B-87	紙製香灰丸形	(7.8)	-	(3.9)	8	重焼製出土	8
318	B-88	紙製香灰丸形	-	-	-	10	重焼製出土	1
319	B-89	紙製香灰丸形	(6.2)	-	(3.9)	26	重焼製出土	-
320	B-90	紙製香灰丸形	-	-	-	8	重焼製出土	-

通番	整理番号	種別	法量 (mm)		調整・文様		風部	出土状況		総出土量 (kg)
			口径(内径)	高さ(厚)	内径	外径		穴門径(口径)	埋入深	
321	B-91	磁器(赤瓦)	-	3.0 (3.8)	40	瓦	瓦	瓦	瓦	-
322	B-92	磁器(赤瓦)	(8.0)	(2.6)	47	30	瓦	瓦	瓦	16
323	B-93	磁器(赤瓦)	-	(3.0)	(3.2)	30	瓦	瓦	瓦	-
324	B-94	磁器(赤瓦)	(8.2)	(3.0)	(3.0)	12	瓦	瓦	瓦	39
325	B-95	磁器(赤瓦)	-	-	-	12	瓦	瓦	瓦	2
326	B-96	磁器(赤瓦)	(8.1)	(2.9)	13	瓦	瓦	瓦	瓦	-
327	B-97	磁器(赤瓦)	(8.3)	(3.4)	26	瓦	瓦	瓦	瓦	-
328	B-98	磁器(赤瓦)	(8.0)	3.4	46	30	瓦	瓦	瓦	-
329	B-99	磁器(赤瓦)	(8.3)	(3.0)	4.8	30	瓦	瓦	瓦	-
330	B-100	磁器(赤瓦)	-	3.2 (4.8)	30	瓦	瓦	瓦	瓦	-
331	B-101	磁器(赤瓦)	-	(3.0)	(3.6)	40	瓦	瓦	瓦	10
332	B-102	磁器(赤瓦)	-	-	-	8	瓦	瓦	瓦	-
333	B-103	磁器(赤瓦)	-	-	-	10	瓦	瓦	瓦	-
334	B-104	磁器(赤瓦)	(8.0)	-	(2.7)	4	瓦	瓦	瓦	8
335	B-105	磁器(赤瓦)	(8.2)	(3.0)	4.4	40	瓦	瓦	瓦	-
336	B-107	磁器(赤瓦)	(8.0)	(4.0)	4.5	40	瓦	瓦	瓦	16
337	B-108	磁器(赤瓦)	(8.3)	(3.0)	4.7	38	瓦	瓦	瓦	40
338	B-109	磁器(赤瓦)	(8.0)	-	(4.3)	26	瓦	瓦	瓦	-
339	B-110	磁器(赤瓦)	-	-	33	瓦	瓦	瓦	瓦	5
340	B-111	磁器(赤瓦)	(8.0)	-	(4.2)	12	瓦	瓦	瓦	-
341	B-112	磁器(赤瓦)	-	(3.0)	(2.8)	14	瓦	瓦	瓦	-
342	B-113	磁器(赤瓦)	(7.0)	-	(4.5)	34	瓦	瓦	瓦	-
343	B-114	磁器(赤瓦)	(7.2)	-	(4.4)	18	瓦	瓦	瓦	74
344	B-115	磁器(赤瓦)	(8.2)	-	(3.0)	12	瓦	瓦	瓦	-
345	B-116	磁器(赤瓦)	(9.4)	-	(4.3)	18	瓦	瓦	瓦	-
346	B-117	磁器(赤瓦)	(7.2)	-	(4.5)	12	瓦	瓦	瓦	18
347	B-118	磁器(赤瓦)	(7.2)	-	(4.5)	30	瓦	瓦	瓦	-
348	B-119	磁器(赤瓦)	-	-	(3.8)	18	瓦	瓦	瓦	-
349	B-120	磁器(赤瓦)	(7.3)	(3.2)	3.3	48	瓦	瓦	瓦	100
350	B-121	磁器(赤瓦)	(7.4)	-	(3.2)	12	瓦	瓦	瓦	-
351	B-122	磁器(赤瓦)	(6.5)	-	(4.6)	18	瓦	瓦	瓦	-
352	B-123	磁器(赤瓦)	(7.2)	3.2	4.7	38	瓦	瓦	瓦	54
353	B-124	磁器(赤瓦)	-	3.2 (2.4)	48	瓦	瓦	瓦	瓦	-
354	B-125	磁器(赤瓦)	(8.0)	(4.3)	7.1	69	瓦	瓦	瓦	14
355	B-126	磁器(赤瓦)	(7.0)	-	(4.9)	18	瓦	瓦	瓦	-
356	B-127	磁器(赤瓦)	-	(3.0)	(2.5)	24	瓦	瓦	瓦	-
357	B-128	磁器(赤瓦)	(7.4)	4.2	4.5	30	瓦	瓦	瓦	-
358	B-129	磁器(赤瓦)	(7.3)	(3.2)	4.7	48	瓦	瓦	瓦	802
359	B-130	磁器(赤瓦)	(6.3)	3.3	6.7	96	瓦	瓦	瓦	1008
360	B-131	磁器(赤瓦)	(6.3)	-	(5.7)	24	瓦	瓦	瓦	8
361	B-132	磁器(赤瓦)	-	(4.2)	(4.3)	16	瓦	瓦	瓦	-

品番	整理番号	種類	法 規 類 型	法 規 番 号	内 面	外 面	尺 寸	部 品	出 土 位 置	編年
362	B-133	磁器(赤瓦)	行区(瓦)	瓦長(%)	瓦幅(%)	瓦厚(%)	瓦重(kg)		大内浦水口(埋埋 (TTTT)) 用子一号(埋埋 (TTTT))	磁器(赤瓦)
363	B-134	磁器(赤瓦)	(6.0)	(3.7)	18				重層出土、CH10北層	16
364	B-135-1	磁器(赤瓦)	(6.0)	(4.3)	14				重層出土、CH10北層	-
364-2	B-135-2	磁器(赤瓦)	(6.0)	瓦長6.6%	(1.3)	10			重層出土	-
365	B-136-1	磁器(赤瓦)	(5.8)	(4.6)	14			埋埋(中)	重層出土、CH10北層、CH10南東区、CH10北	96
365-2	B-136-2	磁器(赤瓦)	(5.8)	(4.6)	14			埋埋(中)	重層出土、CH10北層、CH10南東区、CH10北	100
365-3	B-136-3	磁器(赤瓦)	(6.6)	(4.7)	4				埋埋(中)	-
366	B-137	磁器(赤瓦)	(7.2)	(5.1)	14				埋埋(中)	-
367	B-138	磁器(赤瓦)	(6.8)	(5.3)	18				埋埋(中)	14
368	B-139	磁器(赤瓦)	(6.0)	(3.0)	38				埋埋(中)	-
369	B-140	磁器(赤瓦)	(7.2)	(5.2)	28				埋埋(中)	-
370	B-141	磁器(赤瓦)	(7.0)	(4.3)	38				埋埋(中)	52
371	B-142	磁器(赤瓦)	(6.4)	(3.8)	8				埋埋(中)	10
372	B-143	磁器(赤瓦)	(7.0)	(3.0)	8				埋埋(中)	26
373	B-144-1	磁器(赤瓦)	(7.4)	(4.3)	11				埋埋(中)	30
373-2	B-144-2	磁器(赤瓦)	(7.4)	(6.0)	33				埋埋(中)	-
374	B-145	磁器(赤瓦)	(6.4)	(3.7)	17				埋埋(中)	-
375	B-146	磁器(赤瓦)	(6.3)	(4.4)	12				埋埋(中)	-
376	B-147	磁器(赤瓦)	(6.0)	(3.6)	47				埋埋(中)	-
377	B-148	磁器(赤瓦)	(6.4)	(3.9)	18				埋埋(中)	-
378	B-149	磁器(赤瓦)	(7.2)	(4.8)	28				埋埋(中)	-
379	B-150	磁器(赤瓦)	(7.0)	(3.7)	12				埋埋(中)	-
380	B-151	磁器(赤瓦)	(7.0)	(4.3)	12				埋埋(中)	-
391	B-152	磁器(赤瓦)	(6.6)	4.0	7.6	64			埋埋(中)	-
392	B-153	陶器(赤瓦)	(6.8)	(4.2)	6.7	38			埋埋(中)	-
393	B-154	磁器(赤瓦)	(7.0)	3.4	5.3	35			埋埋(中)	176
394	B-155	磁器(赤瓦)	(6.8)	(3.7)	12				埋埋(中)	-
395	B-156	磁器(赤瓦)	(6.4)	(1.8)	22				埋埋(中)	-
396	B-157	磁器(赤瓦)	(7.0)	(3.5)	(1.7)	12			埋埋(中)	-
397	B-158-1	磁器(赤瓦)	(7.6)	(5.4)	4.6	18			埋埋(中)	40
398	B-158-2	磁器(赤瓦)	(7.0)	(4.0)	17				埋埋(中)	-
399	B-159	磁器(赤瓦)	(8.0)	(4.0)	(3.0)	47			埋埋(中)	-
399	B-160	磁器(赤瓦)	(7.3)	(3.8)	10				埋埋(中)	66
391	B-161	磁器(赤瓦)	(6.8)	3.2	6.46	20			埋埋(中)	36
392	B-162	磁器(赤瓦)	(6.0)	(3.2)	(4.8)	20			埋埋(中)	108
393	B-163	磁器(赤瓦)	(6.0)	(3.8)	4.6	40			埋埋(中)	66
394	B-164	磁器(赤瓦)	(6.6)	(3.8)	4.7	24			埋埋(中)	32

備考	標準番号	種 類	法 界 (cm)		調 整 ・ 文 様		紙 産	出 土 位 置		発掘調査 出土層 (G)
			口径(北)	底径(南)	内 径	外 径		穴門層水口部上(TTT1)	田ノ浦層(田ノ浦層)	
385	B-165	磁器(赤瓦形)	(8.2)	(3.4)	20	瓦質 フリント	瓦質	穴門層水口部上(TTT1)	田ノ浦層(田ノ浦層)	-
386	B-166	磁器(赤瓦形)	(7.4)	3.0	4.3	60	瓦質 フリント	穴門層水口部上(TTT1)	田ノ浦層(田ノ浦層)	-
387	B-167	磁器(赤瓦形)	7.3	2.8	4.4	72	瓦質 フリント	穴門層水口部上(TTT1)	田ノ浦層(田ノ浦層)	-
388	B-168	磁器(赤瓦形)	(8.0)	(3.0)	(5.1)	40	瓦質 フリント	穴門層水口部上(TTT1)	田ノ浦層(田ノ浦層)	-
389	B-169	磁器(赤瓦形)	(8.0)	(2.8)	5.0	32	瓦質 フリント	穴門層水口部上(TTT1)	田ノ浦層(田ノ浦層)	-
400	B-170	磁器(赤瓦形)	(8.0)	(4.0)	4.4	16	瓦質 フリント	穴門層水口部上(TTT1)	田ノ浦層(田ノ浦層)	12
401	B-171	磁器(赤瓦形)	(7.8)	(4.0)	4.4	36	瓦質 フリント	穴門層水口部上(TTT1)	田ノ浦層(田ノ浦層)	-
402	B-172	磁器(赤瓦形)	-	-	-	12	瓦質 フリント	穴門層水口部上(TTT1)	田ノ浦層(田ノ浦層)	-
403	B-173	磁器(赤瓦形)	(7.8)	2.8	4.6	50	瓦質 フリント	穴門層水口部上(TTT1)	田ノ浦層(田ノ浦層)	5
404	B-174	磁器(赤瓦形)	(6.0)	(3.0)	5.6	50	瓦質 フリント	穴門層水口部上(TTT1)	田ノ浦層(田ノ浦層)	-
405	B-175	磁器(赤瓦形)	(6.4)	(3.5)	18	瓦質 フリント	穴門層水口部上(TTT1)	田ノ浦層(田ノ浦層)	-	
406	B-176	磁器(赤瓦形)	(8.0)	(3.0)	4.5	50	瓦質 フリント	穴門層水口部上(TTT1)	田ノ浦層(田ノ浦層)	30
407	B-177	磁器(赤瓦形)	(8.3)	(3.2)	(2.9)	24	瓦質 フリント	穴門層水口部上(TTT1)	田ノ浦層(田ノ浦層)	46
408	B-178	磁器(赤瓦形)	(8.3)	(4.0)	16	瓦質 フリント	穴門層水口部上(TTT1)	田ノ浦層(田ノ浦層)	-	
409	B-179	磁器(赤瓦形)	-	(3.0)	(3.9)	24	瓦質 フリント	穴門層水口部上(TTT1)	田ノ浦層(田ノ浦層)	-
410	B-180	磁器(赤瓦形)	(8.0)	(3.0)	3.8	24	瓦質 フリント	穴門層水口部上(TTT1)	田ノ浦層(田ノ浦層)	-
411	B-181	磁器(赤瓦形)	-	-	-	8	瓦質 フリント	穴門層水口部上(TTT1)	田ノ浦層(田ノ浦層)	-
412	B-182	磁器(赤瓦形)	(7.6)	-	(4.9)	38	瓦質 フリント	穴門層水口部上(TTT1)	田ノ浦層(田ノ浦層)	-
413	B-183	磁器(赤瓦形)	(7.8)	-	(3.9)	26	瓦質 フリント	穴門層水口部上(TTT1)	田ノ浦層(田ノ浦層)	8
414	B-184	磁器(赤瓦形)	(6.3)	-	(4.3)	18	瓦質 フリント	穴門層水口部上(TTT1)	田ノ浦層(田ノ浦層)	-
415	B-185	磁器(赤瓦形)	-	-	-	8	瓦質 フリント	穴門層水口部上(TTT1)	田ノ浦層(田ノ浦層)	-
416	B-186	磁器(赤瓦形)	-	-	-	14	瓦質 フリント	穴門層水口部上(TTT1)	田ノ浦層(田ノ浦層)	-
417	B-187	磁器(赤瓦形)	-	-	-	4	瓦質 フリント	穴門層水口部上(TTT1)	田ノ浦層(田ノ浦層)	-
418	B-188	磁器(赤瓦形)	(7.8)	-	(3.7)	15	瓦質 フリント	穴門層水口部上(TTT1)	田ノ浦層(田ノ浦層)	-
419	B-189	磁器(赤瓦形)	(8.3)	(3.8)	4.8	24	瓦質 青磁	穴門層水口部上(TTT1)	田ノ浦層(田ノ浦層)	-
420	B-190	磁器(赤瓦形)	(8.2)	2.7	(4.4)	13	瓦質 フリント	穴門層水口部上(TTT1)	田ノ浦層(田ノ浦層)	-
421	B-191	磁器(赤瓦形)	-	-	-	22	瓦質 フリント	穴門層水口部上(TTT1)	田ノ浦層(田ノ浦層)	-
422	B-192	磁器(赤瓦形)	(8.0)	3.6	4.8	45	瓦質+鉄	穴門層水口部上(TTT1)	田ノ浦層(田ノ浦層)	-
423	B-193	磁器(赤瓦形)	-	3.2	(3.7)	22	クラム	穴門層水口部上(TTT1)	田ノ浦層(田ノ浦層)	-
424	B-194	陶器(赤瓦形)	-	3.4	(3.7)	38	陶器+クラム+灰	穴門層水口部上(TTT1)	田ノ浦層(田ノ浦層)	-
425	B-195	陶器(赤瓦形)	-	3.5	(3.9)	12	瓦質	穴門層水口部上(TTT1)	田ノ浦層(田ノ浦層)	-
426	B-196	磁器(赤瓦形)	(8.4)	-	(3.8)	24	クラム フリント	穴門層水口部上(TTT1)	田ノ浦層(田ノ浦層)	-
427	B-197	磁器(赤瓦形)	-	2.9	(4.6)	22	上絵付 フリント	穴門層水口部上(TTT1)	田ノ浦層(田ノ浦層)	-
428	B-198	磁器(赤瓦形)	(7.8)	-	(3.9)	14	赤心み 青磁	穴門層水口部上(TTT1)	田ノ浦層(田ノ浦層)	-
429	B-199	磁器(赤瓦形)	(7.4)	-	(3.9)	20	瓦質 フリント	穴門層水口部上(TTT1)	田ノ浦層(田ノ浦層)	-
430	B-200-1	磁器(赤瓦形)	-	3.4	(3.7)	17	瓦質	穴門層水口部上(TTT1)	田ノ浦層(田ノ浦層)	-
430-2	B-200-2	磁器(赤瓦形)	(8.8)	(3.2)	5.3	38	瓦質 フリント	穴門層水口部上(TTT1)	田ノ浦層(田ノ浦層)	-
431	B-201	磁器(赤瓦形)	(7.4)	(3.3)	4.3	18	色釉 瓦質	穴門層水口部上(TTT1)	田ノ浦層(田ノ浦層)	-
432	B-202	磁器(赤瓦形)	(5.4)	-	(6.1)	26	上絵付赤土	穴門層水口部上(TTT1)	田ノ浦層(田ノ浦層)	276
433	B-203	磁器(赤瓦形)	(5.4)	-	(6.1)	26	瓦質 黒字	穴門層水口部上(TTT1)	田ノ浦層(田ノ浦層)	-
434	B-204	磁器(赤瓦形)	(8.2)	-	(3.7)	14	瓦質 黒字	穴門層水口部上(TTT1)	田ノ浦層(田ノ浦層)	-

通称	学名	種類	法	量	調製・文様	底	出上	取	備
番号			1区(1)	(%)	内	底	取	取	備
			区(1)	(%)	面	底	取	取	備
			区(1)	(%)	裏	底	取	取	備
			区(1)	(%)	裏	底	取	取	備
435	B-205	磁器(白磁丸形)	(7.4)	-	肌裏	青	白	CH分	CH分
436	B-206	磁器(白磁丸形)	(6.8)	-	肌裏	青	白	CH分	CH分
437	B-207	磁器(白磁丸形)	(7.6)	-	肌裏	青	白	CH分	CH分
438	B-208	磁器(白磁丸形)	(6.5)	-	肌裏	青	白	CH分	CH分
439	B-209	磁器(白磁丸形)	(6.4)	(3.6)	肌裏	青	白	CH分	CH分
440	B-210	磁器(白磁丸形)	(6.4)	(3.6)	肌裏	青	白	CH分	CH分
441	B-211	磁器(白磁丸形)	(6.0)	-	肌裏	青	白	CH分	CH分
442	B-212	磁器(白磁丸形)	(7.4)	(3.2)	肌裏	青	白	CH分	CH分
443	B-213	磁器(白磁丸形)	(8.0)	3.3	4.1	40	40	40	40
444	B-214	磁器(白磁丸形)	(7.8)	(3.5)	6.1	60	60	60	60
445	B-215	磁器(白磁丸形)	(7.0)	-	(3.9)	20	20	20	20
446	B-216	磁器(白磁丸形)	(7.8)	-	(3.7)	8	8	8	8
447	B-217	磁器(白磁丸形)	(7.4)	(3.6)	(3.1)	13	13	13	13
448	B-218	磁器(白磁丸形)	-	3.6	(2.1)	24	24	24	24
449	B-219	磁器(白磁丸形)	(7.6)	(3.6)	(2.0)	13	13	13	13
450	B-220	磁器(白磁丸形)	(7.6)	-	(4.2)	24	24	24	24
451	B-221	磁器(白磁丸形)	-	3.0	(3.3)	40	40	40	40
452	B-222	磁器(白磁丸形)	(8.0)	(3.0)	(3.6)	10	10	10	10
453	B-223	磁器(白磁丸形)	-	-	-	14	14	14	14
454	B-224	磁器(白磁丸形)	(8.4)	-	(3.5)	9	9	9	9
455	B-225	磁器(白磁丸形)	(7.2)	-	(4.2)	14	14	14	14
456	B-226	磁器(白磁丸形)	-	-	-	6	6	6	6
457	B-227	磁器(白磁丸形)	-	(3.4)	(3.6)	24	24	24	24
458	B-228	磁器(白磁丸形)	-	(3.0)	(3.2)	13	13	13	13
459	B-229	磁器(白磁丸形)	(6.6)	3.0	5.2	44	44	44	44
460	B-230	磁器(白磁丸形)	(7.4)	3.5	4.6	30	30	30	30
461	B-231	磁器(白磁丸形)	(6.4)	(4.2)	6.8	42	42	42	42
462	B-232	磁器(白磁丸形)	-	6.0	(5.4)	24	24	24	24
463	B-233	磁器(白磁丸形)	(5.8)	-	(5.3)	10	10	10	10
464	B-234	磁器(白磁丸形)	(6.1)	-	(5.7)	16	16	16	16
465	B-235	磁器(白磁丸形)	(7.0)	-	(4.9)	22	22	22	22
466	B-236	磁器(白磁丸形)	-	(3.3)	(1.2)	10	10	10	10
467	B-237	磁器(白磁丸形)	-	(3.3)	(1.6)	7	7	7	7
468	B-238	磁器(白磁丸形)	-	(3.8)	(2.0)	12	12	12	12
469	B-239	磁器(白磁丸形)	(7.5)	(4.0)	5.2	16	16	16	16
470	B-240	磁器(白磁丸形)	-	(3.9)	(2.6)	12	12	12	12
471	B-241	磁器(白磁丸形)	(7.4)	(4.0)	7.2	24	24	24	24
472	B-242	磁器(白磁丸形)	-	(3.8)	(2.5)	11	11	11	11
473	B-243	磁器(白磁丸形)	-	(3.6)	(2.1)	12	12	12	12
474	B-244	磁器(白磁丸形)	-	(3.5)	(5.2)	12	12	12	12
475	B-245	磁器(白磁丸形)	(7.5)	-	(3.2)	18	18	18	18

通車 番号	車種 番号	種 類	法 規	法 規 (mm)	内 面		外 面		品 名	出 土 位 置	名 称 計 画 上 位 記 号
					口径(左)	電圧(左)	線径(右)	線径(左)			
476	B-247	鋼線巻	(7.5)	(3.5)	18	鋼線	鋼線	鋼線	鋼線	六甲沖水口側埋込 (T1T1)	埋込鋼線 (T1T1)
477	B-248	鋼線巻 (併用)	(9.0)	-	(3.1)	8	鋼線	鋼線	鋼線	六甲沖水口側埋込 (T1T1)	埋込鋼線 (T1T1)
478	B-249	鋼線巻 (併用)	(7.5)	-	(3.0)	6	鋼線	鋼線	鋼線	六甲沖水口側埋込 (T1T1)	埋込鋼線 (T1T1)
479	B-250	鋼線巻 (併用)	(5.4)	4.0	8.5	33	鋼線	鋼線	鋼線	六甲沖水口側埋込 (T1T1)	埋込鋼線 (T1T1)
480	B-251	鋼線巻 (併用)	(5.4)	4.0	8.5	30	鋼線	鋼線	鋼線	六甲沖水口側埋込 (T1T1)	埋込鋼線 (T1T1)
481	B-252	鋼線巻 (併用)	-	(3.7)	(3.5)	24	鋼線	鋼線	鋼線	六甲沖水口側埋込 (T1T1)	埋込鋼線 (T1T1)
482	C-9	鋼線巻	-	(3.0)	(1.7)	16	鋼線	鋼線	鋼線	六甲沖水口側埋込 (T1T1)	埋込鋼線 (T1T1)
483	C-1	鋼線巻	(5.4)	(2.2)	2.8	12	鋼線	鋼線	鋼線	六甲沖水口側埋込 (T1T1)	埋込鋼線 (T1T1)
484	C-2	鋼線巻	(5.0)	2.2	2.8	20	鋼線	鋼線	鋼線	六甲沖水口側埋込 (T1T1)	埋込鋼線 (T1T1)
485	C-3	鋼線巻	-	2.0	(1.6)	8	鋼線	鋼線	鋼線	六甲沖水口側埋込 (T1T1)	埋込鋼線 (T1T1)
486	C-4	鋼線巻	-	2.0	(1.8)	8	鋼線	鋼線	鋼線	六甲沖水口側埋込 (T1T1)	埋込鋼線 (T1T1)
487	C-5	鋼線巻	-	(2.7)	(1.8)	10	鋼線	鋼線	鋼線	六甲沖水口側埋込 (T1T1)	埋込鋼線 (T1T1)
488	C-6	鋼線巻	-	(1.8)	(1.4)	4	鋼線	鋼線	鋼線	六甲沖水口側埋込 (T1T1)	埋込鋼線 (T1T1)
489	C-7	鋼線巻	(5.5)	-	(1.8)	3	鋼線	鋼線	鋼線	六甲沖水口側埋込 (T1T1)	埋込鋼線 (T1T1)
490	C-8	鋼線巻	(5.0)	(2.0)	2.9	8	鋼線	鋼線	鋼線	六甲沖水口側埋込 (T1T1)	埋込鋼線 (T1T1)
491	C-9	鋼線巻	(5.5)	(2.2)	3.2	22	鋼線	鋼線	鋼線	六甲沖水口側埋込 (T1T1)	埋込鋼線 (T1T1)
492	C-10	鋼線巻	(5.2)	-	(2.3)	(2.8)	14	鋼線	鋼線	六甲沖水口側埋込 (T1T1)	埋込鋼線 (T1T1)
493	C-11	鋼線巻	(5.2)	-	(2.2)	2	鋼線	鋼線	鋼線	六甲沖水口側埋込 (T1T1)	埋込鋼線 (T1T1)
494	C-12	鋼線巻	-	(3.2)	(2.0)	13	鋼線	鋼線	鋼線	六甲沖水口側埋込 (T1T1)	埋込鋼線 (T1T1)
495	C-13	鋼線巻	(6.5)	(2.7)	4.5	18	鋼線	鋼線	鋼線	六甲沖水口側埋込 (T1T1)	埋込鋼線 (T1T1)
496	C-14	鋼線巻	-	(3.4)	(3.5)	8	鋼線	鋼線	鋼線	六甲沖水口側埋込 (T1T1)	埋込鋼線 (T1T1)
497	C-15	鋼線巻	(5.4)	-	3.5	5	鋼線	鋼線	鋼線	六甲沖水口側埋込 (T1T1)	埋込鋼線 (T1T1)
498	C-16	鋼線巻	-	(2.7)	(2.2)	8	鋼線	鋼線	鋼線	六甲沖水口側埋込 (T1T1)	埋込鋼線 (T1T1)
499	C-17	鋼線巻	(6.4)	(3.0)	2.6	5	鋼線	鋼線	鋼線	六甲沖水口側埋込 (T1T1)	埋込鋼線 (T1T1)
500	C-18	鋼線巻	-	(4.0)	13	鋼線	鋼線	鋼線	鋼線	六甲沖水口側埋込 (T1T1)	埋込鋼線 (T1T1)
501	C-19	鋼線巻	-	-	(2.7)	13	鋼線	鋼線	鋼線	六甲沖水口側埋込 (T1T1)	埋込鋼線 (T1T1)
502	C-21-1	鋼線巻	-	(3.0)	(1.5)	10	鋼線	鋼線	鋼線	六甲沖水口側埋込 (T1T1)	埋込鋼線 (T1T1)
502	C-21-2	鋼線巻	-	(3.0)	(1.2)	7	鋼線	鋼線	鋼線	六甲沖水口側埋込 (T1T1)	埋込鋼線 (T1T1)
503	C-22	鋼線巻	-	(3.4)	(2.8)	13	鋼線	鋼線	鋼線	六甲沖水口側埋込 (T1T1)	埋込鋼線 (T1T1)
504	C-23	鋼線巻	(5.4)	1.8	2.8	19	鋼線	鋼線	鋼線	六甲沖水口側埋込 (T1T1)	埋込鋼線 (T1T1)
505	C-24	鋼線巻	-	(2.2)	(2.0)	13	鋼線	鋼線	鋼線	六甲沖水口側埋込 (T1T1)	埋込鋼線 (T1T1)
506	C-25	鋼線巻	-	-	(4.2)	14	鋼線	鋼線	鋼線	六甲沖水口側埋込 (T1T1)	埋込鋼線 (T1T1)
507	C-26-1	鋼線巻	-	(3.1)	(3.1)	30	鋼線	鋼線	鋼線	六甲沖水口側埋込 (T1T1)	埋込鋼線 (T1T1)
508	C-26-2	鋼線巻	-	(3.3)	(2.0)	22	鋼線	鋼線	鋼線	六甲沖水口側埋込 (T1T1)	埋込鋼線 (T1T1)
509	C-27	鋼線巻	-	-	(2.0)	6	鋼線	鋼線	鋼線	六甲沖水口側埋込 (T1T1)	埋込鋼線 (T1T1)
510	C-28	鋼線巻	-	(3.1)	(1.4)	4	鋼線	鋼線	鋼線	六甲沖水口側埋込 (T1T1)	埋込鋼線 (T1T1)
511-1	C-29-1	鋼線巻	-	(3.2)	(2.0)	10	鋼線	鋼線	鋼線	六甲沖水口側埋込 (T1T1)	埋込鋼線 (T1T1)
511-2	C-29-2	鋼線巻	-	(3.2)	(1.8)	9	鋼線	鋼線	鋼線	六甲沖水口側埋込 (T1T1)	埋込鋼線 (T1T1)
512	C-30	鋼線巻	-	(3.5)	(1.0)	5	鋼線	鋼線	鋼線	六甲沖水口側埋込 (T1T1)	埋込鋼線 (T1T1)
513	C-31	鋼線巻	-	(3.6)	(2.5)	5	鋼線	鋼線	鋼線	六甲沖水口側埋込 (T1T1)	埋込鋼線 (T1T1)
514	C-32	鋼線巻	-	-	(3.0)	7	鋼線	鋼線	鋼線	六甲沖水口側埋込 (T1T1)	埋込鋼線 (T1T1)

品番	品名	規格	注 記	材 質	厚 度	長 度	支 柱	式 部	出 土 設 置	備 考
515	C-33	磁器蓋	11(内径)×底径(高さ)×蓋径(φ)	陶器	4.0	25	「品目 本管(保)式(保印)		穴内(本山)埋理 (T1T1)	埋理(保)式(保)式(保)式(保)
516	C-34	磁器蓋	5.4	2.2	3.0	12	既設(他山のC)既設蓋 両面 プリント		西下流・E10分岐	
517	C-35	陶器蓋(八角形)	-	0.30	0.50	24	既設		CH分岐	
518	C-36	陶器蓋	-	0.20	0.20	9	既設(土留ム)		E10分岐	20
519	C-37	磁器蓋	-	0.17	0.30	14	既設(土留)		E10分岐	
520	C-38	陶器蓋	-	0.17	0.12	12	既設・表+口		CH分岐	
521	C-39	磁器蓋	-	0.30	0.25	24	既設(角形)既設蓋 両側		CH分岐	
522	C-40	磁器蓋	-	0.40	0.25	4			埋理(保)式(保)式(保)式(保)	
523	C-41	磁器蓋(T)	0.80	-	0.20	10	既設(土留)		埋理(保)式(保)式(保)式(保)	14
524	C-42	磁器蓋	-	0.20	0.21	8	既設(土留)		埋理(保)式(保)式(保)式(保)	
525	C-43	磁器蓋	-	-	0.30	2	既設		埋理(保)式(保)式(保)式(保)	
526	C-44	磁器蓋	-	2.3	0.30	6	既設 プリント		埋理(保)式(保)式(保)式(保)	
527	C-45	磁器蓋	-	0.20	0.40	7	既設		埋理(保)式(保)式(保)式(保)	5
528	C-46	磁器蓋	-	-	0.20	3	既設		埋理(保)式(保)式(保)式(保)	
529	C-47	磁器蓋	-	0.30	6		既設(土留)		埋理(保)式(保)式(保)式(保)	
530	C-48	磁器蓋	0.50	0.20	3.8	12	既設		埋理(保)式(保)式(保)式(保)	
531	D-1	磁器蓋(角形)	0.40	-	0.30	5	既設		埋理(保)式(保)式(保)式(保)	8
532	D-2	磁器蓋(角形)	-	-	0.20	15	既設 プリント		埋理(保)式(保)式(保)式(保)	5
533	D-3	磁器蓋(角形)	0.20	-	0.30	18	既設		埋理(保)式(保)式(保)式(保)	
534	D-4	磁器蓋(角形)	0.20	-	0.30	4	既設		埋理(保)式(保)式(保)式(保)	
535	D-5	磁器蓋(角形)	-	-	0.40	5	既設		埋理(保)式(保)式(保)式(保)	
536	D-6	磁器蓋(角形)	-	-	0.20	15	既設 プリント		埋理(保)式(保)式(保)式(保)	
537	D-7	磁器蓋(角形)	-	-	0.30	20	既設 プリント		埋理(保)式(保)式(保)式(保)	
538	D-8	磁器蓋(角形)	-	3.6	0.40	13	既設		埋理(保)式(保)式(保)式(保)	
539	D-9	磁器蓋(角形)	-	0.50	0.20	8	既設		埋理(保)式(保)式(保)式(保)	
540	D-10	磁器蓋(角形)	-	-	0.10	4	既設		埋理(保)式(保)式(保)式(保)	
541	D-11	磁器蓋(角形)	-	0.30	0.30	3	既設		埋理(保)式(保)式(保)式(保)	
542	D-12	磁器蓋(角形)	-	0.30	0.20	4	上取付蓋		埋理(保)式(保)式(保)式(保)	
543	D-13	磁器蓋(角形)	-	0.50	0.15		既設		埋理(保)式(保)式(保)式(保)	
544	D-14	磁器蓋(角形)	-	-	0.40	9	既設 プリント		埋理(保)式(保)式(保)式(保)	20
545	D-15	磁器蓋(角形)	-	-	0.20	3	既設 プリント		埋理(保)式(保)式(保)式(保)	
546	D-16	磁器蓋(角形)	-	4.3	0.20	30	既設		埋理(保)式(保)式(保)式(保)	
547	D-17	磁器蓋(角形)	-	4.8	0.20	28	上取付		埋理(保)式(保)式(保)式(保)	
548	D-18	磁器蓋(角形)	-	0.30	0.20	30	上取付		埋理(保)式(保)式(保)式(保)	
549	D-19	磁器蓋(角形)	-	0.40	0.20	8	既設		埋理(保)式(保)式(保)式(保)	
550	D-20	磁器蓋(角形)	-	-	0.30	24	既設		埋理(保)式(保)式(保)式(保)	
551	D-21	磁器蓋(角形)	-	-	0.40	7	下取付		埋理(保)式(保)式(保)式(保)	
552	D-22	磁器蓋(角形)	-	-	0.20	9	既設		埋理(保)式(保)式(保)式(保)	
553	D-23	磁器蓋(角形)	0.50	-	0.20	8	既設		埋理(保)式(保)式(保)式(保)	

通商 番号	種 類	正 量 (㎏)	調 査 ・ 文 憑		取 扱	出 土 位 置	毎トン 取上げ 量(トン)	
			内 面	外 面				
554 D-24	組紐袋料	(5.0)	(3.4)	12	口縁部縫合	西下渡	大門口水口段理 (TTTT1)	
555 D-25	組紐袋料	(3.0)	(3.4)	18	縫合し	西下渡	大門口水口段理 (TTTT1)	
556 D-26	組紐袋料	(3.0)	(3.0)	9	縫合し	東條橋出土	大門口水口段理 (TTTT1)	
557 D-27	組紐袋料	(6.2)	(3.1)	24	口縁部縫合	東條橋出土	大門口水口段理 (TTTT1)	
558 D-28	組紐袋料	(6.2)	(3.1)	24	口縁部縫合	東條橋出土	大門口水口段理 (TTTT1)	
559 D-29	組紐袋料	(6.3)	(3.4)	18	縫合し	東條橋出土	大門口水口段理 (TTTT1)	
560 D-30	組紐袋料	(10.9)	(4.4)	40	縫合し	東條橋出土	大門口水口段理 (TTTT1)	
561 D-31	組紐袋料	(6.4)	(4.0)	5	縫合し	東條橋出土	大門口水口段理 (TTTT1)	
562 E-1	組紐袋底	(4.9)	(7.0)	22	縫合し	東條橋出土	大門口水口段理 (TTTT1)	
563 E-2	組紐袋底	(1.3)	(8.1)	16	縫合し	東條橋出土	大門口水口段理 (TTTT1)	
564 E-3	組紐袋底	(5.4)	(6.0)	12	下取縫合し	東條橋出土	大門口水口段理 (TTTT1)	
565 E-4	組紐袋底	(6.3)	(6.3)	24	縫合し	東條橋出土	大門口水口段理 (TTTT1)	
566 E-5	組紐袋底	(11.8)	(4.3)	12	縫合し	東條橋出土	大門口水口段理 (TTTT1)	
567 E-6	組紐袋底	(6.7)	(7.7)	144	縫合し	東條橋出土	大門口水口段理 (TTTT1)	
568 E-7	組紐袋底(小袋)	(4.4)	(4.8)	14	縫合し	東條橋出土	大門口水口段理 (TTTT1)	
569 E-8	組紐袋底(小袋)	(3.8)	(7.2)	50	縫合し	東條橋出土	大門口水口段理 (TTTT1)	
379 E-9	組紐袋底	(6.2)	(2.7)	15	縫合し	東條橋出土	大門口水口段理 (TTTT1)	
571 E-10	組紐袋底	(10.0)	(3.8)	38	縫合し	東條橋出土	大門口水口段理 (TTTT1)	
572 E-11	組紐袋底	(3.6)	(5.5)	19	縫合し	東條橋出土	大門口水口段理 (TTTT1)	
573 N-1	アクリル系	4.1	3.0	3.4	縫合し	東條橋出土	大門口水口段理 (TTTT1)	
574 N-2	樹脂キップ	0.7	0.9	5.6	縫合し	東條橋出土	大門口水口段理 (TTTT1)	
575 N-3	アクリル製品	2.0	2.3	(5.0)	6	縫合し	東條橋出土	大門口水口段理 (TTTT1)
576 N-4	ボール	5.5		20		縫合し	東條橋出土	大門口水口段理 (TTTT1)
577 N-5	樹脂(人形)の足	2.5	1.2	(1.2)	1		東條橋出土	大門口水口段理 (TTTT1)
578 N-6	ライター	2.3	1.2	7.8	13		東條橋出土	大門口水口段理 (TTTT1)
579 N-7	ライター	2.0	1.9	8.0	12		東條橋出土	大門口水口段理 (TTTT1)
580 N-8	電子機	(2.2)	1.9	0.3	1		東條橋出土	大門口水口段理 (TTTT1)
581 N-10	ゴム蓋し	8.2	0.7	8.3	1		東條橋出土	大門口水口段理 (TTTT1)
582 N-12	アクリルコップ	2.5	1.8	0.5			東條橋出土	大門口水口段理 (TTTT1)
583 O-1	組紐タイ(足指)	2.5	2.5	0.4	7		東條橋出土	大門口水口段理 (TTTT1)
584 O-2	組紐タイ(踵指)	3.5	2.8	0.4	8		東條橋出土	大門口水口段理 (TTTT1)
585 O-3	組紐タイ(小指)	(4.3)	(2.3)	0.5	10		東條橋出土	大門口水口段理 (TTTT1)
586 P-1	ガラス蓋	長 3.6	幅 3.3	0.8	18		東條橋出土	大門口水口段理 (TTTT1)
587 P-2	ガラス小瓶	3.4	6.9	5.7	16		東條橋出土	大門口水口段理 (TTTT1)
588 P-3	ガラスビン(大瓶)	4.0	8.6	5.2	88		東條橋出土	大門口水口段理 (TTTT1)

品番	標準品番	種類	法 量 (kg)		内 面	調 整 ・ 文 様	底 感	密 土 位 置		取付 出寸 (φ)
			山形(片底)(標準品番)	巻取(φ)				穴明け(水口修理)(TTT)	取アノ形(取付)(TTTB)	
389 F-4		牛乳瓶	4.6	5.6	1.40	242		落下底		
500 F-5		ガラス瓶	2.7	-	(3.0)	40		落下底		
591 F-6		ビール瓶	4.4	-	(11.4)	110		落下底		
592 F-7		ガラス瓶(蛇口付き)	1.5	1.4	0.4	1		落下底		1
583 F-8		ガラス小瓶	2.4	2.8	4.5	30		落下底		
584 F-9		ガラス小瓶	2.4	3.7	8.2	48		落下底		
595 F-10		ガラス小瓶	1.9	3.1	7.1	31		落下底		
596 F-11		ガラス小瓶	2.9	3.3	4.4	38		落下底		
597 F-12		ガラス小瓶	-	2.0	(2.3)	1		落下底		
398 F-13		ガラス小瓶	(7.0)	-	3.4	18		落下底		
399 F-14		ガラス小瓶	(6.0)	-	(3.9)	16		落下底		
600 F-15		ガラス小瓶	2.6	-	(7.2)	52		落下底		
601 F-16		1/4インチ(標準品)	2.8	4.5	12.0	116		落下底		
602 F-1		磁器皿	-	(2.4)	(2.8)	18	既製品	落下底		
603 F-2		磁器皿	(7.0)	(6.2)	1.9	10	クロム プリント	落下底		
604 F-3		磁器皿	(6.3)	7.8	1.8	18	既製品	落下底		
605 F-4		磁器皿	(12.4)	(8.0)	2.9	20	既製品	落下底		
606 F-5		磁器皿	(13.0)	(7.4)	2.5	63	既製品	落下底		
607 F-6		磁器皿	-	(1.5)	2.7	-	既製品	落下底		
608 F-7		磁器皿	(11.3)	(7.8)	2.1	20	既製品+クロム プリント	落下底		
609 F-8		磁器皿	(9.2)	-	(1.3)	8	既製品	落下底		
610 F-9		磁器皿	-	-	(1.5)	14	既製品	落下底		
611 F-10		磁器皿	(8.3)	-	(1.8)	7	既製品	落下底		
612 F-11		磁器皿	(11.2)	(5.2)	2.6	32	既製品	落下底		
613 F-12		磁器皿	(14.0)	-	(3.0)	20	既製品	落下底		
614 F-13		磁器皿(1/4インチ)	0.4	1.3	-	(4.4)	10 既製品	落下底		
615 F-14		磁器皿	(4.3)	-	(3.0)	6	既製品	落下底		
616 F-15		磁器皿(標準品)	(11.6)	(6.0)	2.3	38	既製品	落下底		
617 F-16		磁器皿	-	(11.7)	(2.5)	14	既製品	落下底		
618 F-17		磁器皿	(12.2)	(5.6)	2.6	33	既製品	落下底		
619 F-18		磁器皿	-	(6.0)	2.8	30	既製品	落下底		
620 F-19		磁器皿	(11.7)	(5.1)	(2.1)	42	既製品	落下底		
621 F-20		磁器皿	-	-	1.4	7	既製品	落下底		
622 F-21		磁器皿	-	(4.4)	(2.0)	24	既製品+銀	落下底		
623 F-22		磁器皿	-	(8.6)	(1.1)	15	既製品	落下底		
624 F-23		磁器皿	(13.4)	(7.4)	2.5	63	既製品	落下底		
625 F-24		磁器皿	(10.9)	(5.6)	2.4	59	クロム プリント	落下底		
626 F-25		磁器皿	-	(6.8)	(4.1)	46	青磁皿	落下底		
627 F-26		磁器皿	-	(8.4)	(1.2)	24	既製品	落下底		
628 F-27		磁器皿	-	(7.0)	(2.0)	20	既製品	落下底		
629 F-28		磁器皿	-	(6.8)	(2.4)	56	既製品	落下底		

通称	製法	規格	法	質量 (cm)	内面	外面	表紙	出土位置	通称
630 F-39	磁器皿	(13.4) (9.1)	3.1	42	白磁(厚)	白磁(厚)	気象線	穴門形水口磁器 (TTT1)	22
631 F-39.1	磁器皿	-	(7.4)	2.0	40	気象 型紙	気象線	重焼磁土	-
632 F-39.2	磁器皿	-	(8.4)	2.8	45	気象 型紙	無なし	重焼磁土・磁	44
633 F-31.1	磁器皿	-	(4.2)	2.4	30	気象 型紙	無なし	周縁石造り	-
634 F-31.2	磁器皿	-	3.7	(1.9)	36	気象 型紙	-	①外ノテ高土層	104
635 F-32	磁器皿	(16.2)	-	7.2	50	気象+アロム	気象線	①外ノテ高土層	-
636 F-33	磁器皿	(16.0)	-	3.5	20	気象 型紙	周縁石造り	①外ノテ高土層	-
637 F-34	磁器皿	(13.8)	(7.4)	2.7	90	白磁(厚)	気象線	CHノテ高土層、重焼磁土	240
638 F-35	磁器皿	(10.0)	(5.6)	1.6	30	上絵付	(絵柄) 気象線	重焼磁土	-
639 F-36	磁器皿	-	(9.0)	1.4	10	上絵付	-	重焼磁土	-
640 F-37	磁器皿	(24.8)	(14.8)	3.7	270	気象+鉄	気象 プリント	①外ノテ高土層、周縁石造り	-
641 F-38	磁器皿	(11.8)	(10.0)	2.8	24	アロム+気象+鉄+銅	気象線	CHノテ高土層	-
642 F-39	磁器皿	-	(10.4)	1.3	20	気象 型紙	-	重焼磁土	-
643 F-40	磁器皿	-	(5.6)	2.2	9	無気 気象	変形高台	重焼磁土	-
644 F-41	磁器皿(施花)	(13.5)	(7.2)	2.9	68	文字あり	気象線	重焼磁土・CHノテ高土層	154
645 F-42	磁器皿	-	(8.0)	2.1	18	気象 プリント	気象線	重焼磁土	-
646 F-43	磁器皿	-	(4.1)	5	泥	気象 プリント	-	重焼磁土	-
647 F-44	磁器皿	(12.4)	(7.3)	2.7	48	気象 プリント	-	重焼磁土	460
648 F-45	磁器皿	-	-	(3.9)	7	気象 型紙	-	重焼磁土、①外ノテ高土層、CHノテ高土層	-
649 F-46	磁器皿	(14.0)	(7.3)	2.8	30	(清灰中気象天照木 口高山) 文字あり	気象線	CHノテ高土層、①外ノテ高土層、高	738
650 F-47	磁器皿	-	(2.6)	1.4	12	無気 白磁線	変形高台	重焼磁土	-
651 F-48	磁器皿	-	(9.6)	2.2	72	気象 プリント	気象線	重焼磁土	-
652 F-49	磁器皿	-	(9.0)	3.8	172	気象+アロム	気象線	①外ノテ高土層、CHノテ高土層、重焼磁土、CHノテ高土層	53
653 F-50	磁器皿	-	-	(3.3)	14	気象 プリント	無なし	重焼磁土	-
654 F-51	磁器皿	(22.2)	(10.8)	2.4	104	気象 プリント	無なし	重焼磁土、①外ノテ高土層、周縁石造り	27
655 F-52	磁器皿	(19.0)	(11.0)	2.6	57	無気 気象	無なし	重焼磁土、①外ノテ高土層、西下流	190
656 F-53	磁器皿	(17.5)	(12.0)	2.0	10	青磁線	-	CHノテ高土層	-
657 F-54	磁器皿	(14.3)	-	(3.5)	22	青磁線	アロム線	CHノテ高土層	15
658 F-55	磁器皿	(16.3)	(15.3)	3.3	148	(清灰中気象天照木 口高山) 文字あり	気象線	①外ノテ高土層	74
659 F-56	磁器文房皿	(22.5)	16.6	4.1	160	無気 型紙	無なし	重焼磁土、①外ノテ高土層、CHノテ高土層	100
660 F-57	磁器文房皿	(17.4)	9.7	5.9	330	無気 型紙	無なし	重焼磁土、①外ノテ高土層、CHノテ高土層	20
661 F-58	磁器文房皿	-	-	(8.0)	28	気象 プリント	気象線	重焼磁土	160
662 F-59	磁器文房皿	(21.1)	(16.4)	1.9	75	気象線	無なし	重焼磁土、CHノテ高土層、①外ノテ高土層	1440
663 F-60.1	磁器文房皿	(18.6)	(11.4)	1.8	28	気象線	無なし	重焼磁土	-
664 F-60.2	磁器文房皿	(20.6)	(10.8)	2.3	94	気象線	無なし	重焼磁土、①外ノテ高土層、CHノテ高土層	610
665 F-61	磁器文房皿	(20.6)	(12.4)	2.0	112	上絵付	気象 プリント	重焼磁土、①外ノテ高土層	410
666 F-62	磁器文房皿	(11.8)	-	(3.1)	18	気象 プリント	気象 プリント	重焼磁土、①外ノテ高土層	-
667 F-63	磁器文房皿	-	(5.1)	1.0	12	有磁線	上絵付	重焼磁土、①外ノテ高土層	2
668 F-64	磁器文房皿	-	(5.0)	3.0	20	有磁線	無なし	①外ノテ高土層	-

製造	型理 品号	種 別	注 記 (注1) 規格 (注2) 重量 (kg)	規 格 ・ 文 様		成 感	出 土 位 置	埋蔵品抽出形式 (埋蔵品 抽出位置)
609	F-65	磁器皿	(4.2)	5	内 面 N290, 25.6A, 80	青 磁	西ノ庄南西 (TTT1)	陶磁器埋蔵品形式 (埋蔵品 抽出位置)
610	F-66	磁器深皿	(10.5)	117	110 平型 (N290, 25.6A, 80)	灰青磁	裏面出土	西ノ庄南西 (TTT1)
621	F-67	磁器煎茶碗 (注)	(19.0)	3.0	140 印模 呉 漆 丹絵 (N290, 25.6A, 80)	丹絵磁	施文し	西ノ庄下層
622	F-68	磁器鍋	(7.3)	32	32 灰 磁	灰青磁	凡石ノ灰漬層	西ノ庄上層
623	F-69	磁器深皿 (小皿)	(14.0)	4.5	37 灰 磁	灰青磁	凡石ノ灰漬層	CH分層 (裏面出土)
674	F-70	磁器深皿 (小皿)	(12.4)	2.0	11	灰 磁	CH分層	CH分層 - 裏面出土
675	F-71	磁器皿	(9.8)	6	灰 磁	灰 青 磁	CH分層	CH分層
676	F-72	磁器皿	(11.2)	2.5	48 灰 磁 鉄 カロム 編	灰 青 磁	CH分層	CH分層
677	F-73	磁器皿	(5.3)	5	5 灰 磁	灰 青 磁	CH分層	CH分層
678	F-74	磁器小皿	(13.7)	5	5 上絵付 プリント	灰 青 磁	施文し (OPACEROO 染付)	CH分層
679	F-75	磁器バレット	(13.0)	1.1	74	灰 青 磁	裏面出土	裏面出土
680	F-77	磁器皿	(9.1)	1.25	30 灰 青 プリント	灰 青 磁	裏面出土	裏面出土
681	F-78	磁器浅鉢 (注)	(18.0)	6.24	14 灰 青 プリント	灰 青 磁	裏面出土	裏面出土
682	F-79	磁器小皿	(11.4)	9	9 灰 青 プリント	灰 青 磁	裏面出土	裏面出土
683	F-80	磁器鉢	(12.0)	4.23	28 灰 磁	灰 青 磁	裏面出土	裏面出土
684	F-81	磁器鉢	(5.0)	1.5	4 灰 青 プリント	灰 青 磁	裏面出土	裏面出土
685	F-82	磁器鉢	(3.8)	1.1	10 クロム	灰 青 磁	裏面出土	裏面出土
686	F-83	磁器鉢	(11.4)	5.1	24 灰 磁	灰 青 磁	裏面出土	裏面出土
687	F-84	磁器鉢	(13.4)	2.33	6 青磁磁	青磁磁	裏面出土	裏面出土
688	F-85	陶器フナー皿	(14.8)	6.43	24 クロム	灰 青 磁	裏面出土	裏面出土
689	F-86	磁器鉢	(31.6)	1.17	2 陶 瓦 灰 磁	灰 青 磁	裏面出土	裏面出土
690	F-87	磁器鉢	(11.3)	2.05	3 陶 瓦 灰 磁	灰 青 磁	裏面出土	裏面出土
691	F-89	磁器鉢	(10.0)	1.10	2 灰 青 プリント	灰 青 磁	裏面出土	裏面出土
692	F-91	磁器小皿	(6.0)	1.1	10 白 磁	灰 青 磁	裏面出土	裏面出土
693	F-92	磁器深皿	(20.4)	3.22	9 灰 青 磁	灰 青 磁	裏面出土	裏面出土
694	F-93	磁器深皿	(14.5)	1.33	18 上絵付	灰 青 磁	裏面出土	裏面出土
695	F-94	磁器深皿	(8.8)	5.17	140 クロム	クロム	裏面出土	裏面出土
696	F-95	磁器皿	(7.0)	2.73	70 陶 瓦 灰 磁	灰 青 磁	裏面出土	裏面出土
697	F-96	磁器皿	(1.5)	9	9 灰 青 プリント	灰 青 磁	裏面出土	裏面出土
698	F-97	磁器皿	(11.8)	7.2	20 11 灰 青 プリント	灰 青 磁	裏面出土	裏面出土
699	F-98	磁器皿	(7.7)	2.03	14 クロム	クロム	裏面出土	裏面出土
700	F-99	磁器皿	(10.0)	4.9	21 57 水ニ染取付 (注) 灰 青 プリント	灰 青 磁	裏面出土	裏面出土
701	F-100	磁器皿	(16.8)	16.4	2.0 40 150 mmφ (N290)	灰 青 磁	裏面出土	裏面出土
702	G-1	磁器片	(16.2)	6.3	78 390 灰 磁	上絵付 プリント	裏面出土	裏面出土
703	G-2	磁器片 土	(13.0)	6.0	4.3 80 灰 磁	灰 青 プリント	裏面出土	裏面出土
704	G-3	磁器片 (N290の身取)	(15.8)	6.2	7.5 137 灰 磁	灰 青 プリント	裏面出土	裏面出土
705	G-4	磁器片	(16.4)	66.0	76 上絵付 陶 瓦	上絵付 陶 瓦	裏面出土	裏面出土
706	G-5	磁器片	(15.8)	4.45	40 灰 磁	上絵付 陶 瓦	裏面出土	裏面出土
707	G-6	磁器片	(15.2)	6.0	32 灰 磁	上絵付 陶 瓦	裏面出土	裏面出土
708	G-7	磁器片 土	(18.2)	33.9	27 灰 磁	上絵付 陶 瓦	裏面出土	裏面出土
709	G-8	磁器片	(16.2)	33.2	15 灰 磁	上絵付 陶 瓦	裏面出土	裏面出土

通番	郵便番号	種別	法 規 (ce)	調 換 ・ 交 換	取 扱	出 土 位 置	地 域 上 位 区 画 番 号 (6)
710	G-9	郵便局	(10.0)	内 面	上段付 厚瓦	穴門部(表口部) (TTT1)	郵便局出土
711	G-10	郵便局	(13.2)	外 面	焼物 プリント		郵便局出土
712	G-11	郵便局	(14.0)	内 面	床 プリント		郵便局出土
713	G-12	郵便局	(15.0)	内 面	床 プリント		郵便局出土
714	G-13	郵便局	(16.0)	内 面	床 プリント		郵便局出土
715	G-14	郵便局	(17.2)	内 面	床 プリント		郵便局出土
716	G-15	郵便局	(18.0)	内 面	床 プリント		郵便局出土
717	H-1	郵便局	(12.4)	内 面	床 プリント		郵便局出土
718	H-2	郵便局	(7.2)	内 面	床 プリント		郵便局出土
719	H-3	郵便局	(8.0)	内 面	床 プリント		郵便局出土
720	H-4	郵便局	(4.4)	内 面	床 プリント		郵便局出土
721	H-6	郵便局	-	内 面	床 プリント		郵便局出土
722	H-7	郵便局	(2.8)	内 面	床 プリント		郵便局出土
723	H-8	郵便局	-	内 面	床 プリント		郵便局出土
725	H-10	郵便局	(6.5)	内 面	床 プリント		郵便局出土
726	H-11	郵便局	(6.2)	内 面	床 プリント		郵便局出土
727	H-12	郵便局	(3.5)	内 面	床 プリント		郵便局出土
729	H-14	郵便局	(1.5)	内 面	床 プリント		郵便局出土
730	H-15	郵便局	-	内 面	床 プリント		郵便局出土
731	H-16	郵便局	-	内 面	床 プリント		郵便局出土
732	H-17	郵便局	2.7	内 面	床 プリント		郵便局出土
733	H-18	郵便局	1.2	内 面	床 プリント		郵便局出土
734	I-1	郵便局	(18.0)	内 面	床 プリント		郵便局出土
735	I-2	郵便局	(12.7)	内 面	床 プリント		郵便局出土
736	I-3	郵便局	(10.3)	内 面	床 プリント		郵便局出土
737	I-5	郵便局	(6.3)	内 面	床 プリント		郵便局出土
738	I-6	郵便局	(4.3)	内 面	床 プリント		郵便局出土
739	I-7	郵便局	(9.5)	内 面	床 プリント		郵便局出土
740	I-8	郵便局	(12.0)	内 面	床 プリント		郵便局出土
741	I-9	郵便局	(10.8)	内 面	床 プリント		郵便局出土
742	I-10	郵便局	(11.6)	内 面	床 プリント		郵便局出土
743	I-11	郵便局	(11.5)	内 面	床 プリント		郵便局出土
744	I-12	郵便局	(6.2)	内 面	床 プリント		郵便局出土
745	I-13	郵便局	(11.8)	内 面	床 プリント		郵便局出土
746	I-14	郵便局	(7.2)	内 面	床 プリント		郵便局出土
747	I-15	郵便局	-	内 面	床 プリント		郵便局出土
748	I-16	郵便局	-	内 面	床 プリント		郵便局出土
749	I-17	郵便局	(8.4)	内 面	床 プリント		郵便局出土
750	I-18	郵便局	(3.6)	内 面	床 プリント		郵便局出土

調査 番号	調査 名称	場所	法 量 (t/a)	調 査 ・ 文 様		成 品	出 土 位 置		備考 (調査年度)
				内 容	外 容		六甲町水産庁管理 (T1T1)	田子町水産庁管理 (T1T2)	
751	751-19	高砂跡	(23.0)	(5.7)	52 瓦礫	瓦礫	瓦礫	瓦礫	36
752	752-20	高砂跡	(15.0)	(11.2)	30 瓦礫	瓦礫	瓦礫	瓦礫	40
753	753-121-1	高砂跡	(15.0)	(2.4)	15 瓦礫	瓦礫	瓦礫	瓦礫	-
754	754-122	高砂跡	(16.5)	(1.9)	42 瓦礫	瓦礫	瓦礫	瓦礫	-
755	755-123	高砂跡	(16.5)	(1.9)	42 瓦礫	瓦礫	瓦礫	瓦礫	-
756	756-124	高砂跡	(10.7)	(4.2)	62 瓦礫	瓦礫	瓦礫	瓦礫	-
757	757-1	高砂跡	(10.7)	(3.3)	25 瓦礫	瓦礫	瓦礫	瓦礫	-
757-2	L1-2	高砂跡	(12.2)	(1.0)	22 瓦礫	瓦礫	瓦礫	瓦礫	100
757-3	L1-3	高砂跡	(17.7)	(3.7)	18 瓦礫	瓦礫	瓦礫	瓦礫	-
758	L-2	高砂跡	(12.0)	(8.6)	28 64 瓦礫	瓦礫	瓦礫	瓦礫	-
759	L-3	高砂跡	(18.4)	(8.4)	21 14 瓦礫	瓦礫	瓦礫	瓦礫	-
760	L-4	高砂跡	(17.0)	(1.8)	4 瓦礫	瓦礫	瓦礫	瓦礫	-
761	L-5	高砂跡	(24.2)	(1.6)	6 瓦礫	瓦礫	瓦礫	瓦礫	-
762	L-6	高砂跡	(12.4)	(9.2)	11.0 260 瓦礫	瓦礫	瓦礫	瓦礫	-
763	M-1	高砂跡	(11.8)	(5.4)	33 瓦礫	瓦礫	瓦礫	瓦礫	609
764	M-2	高砂跡	(11.0)	(3.4)	20 瓦礫	瓦礫	瓦礫	瓦礫	-
765	M-3	高砂跡	(17.8)	(1.7)	70 瓦礫	瓦礫	瓦礫	瓦礫	30
766	M-4	高砂跡	(9.4)	(3.0)	42 瓦礫	瓦礫	瓦礫	瓦礫	-
767	M-5	高砂跡	(8.4)	(2.0)	32 瓦礫	瓦礫	瓦礫	瓦礫	-
768	M-6	高砂跡	(8.4)	(2.3)	18 瓦礫	瓦礫	瓦礫	瓦礫	-
769	M-7	高砂跡	(6.6)	(2.2)	26 瓦礫	瓦礫	瓦礫	瓦礫	-
770	M-9	高砂跡	(8.8)	(4.0)	50 瓦礫	瓦礫	瓦礫	瓦礫	-
771-1	M-10-1	高砂跡	(6.0)	(3.5)	14 瓦礫	瓦礫	瓦礫	瓦礫	-
771-2	M-10-2	高砂跡	(17.5)	(5.2)	47 瓦礫	瓦礫	瓦礫	瓦礫	-
772	M-11	高砂跡	(17.5)	(4.6)	14 瓦礫	瓦礫	瓦礫	瓦礫	-
773	M-12	高砂跡	(17.5)	(4.6)	14 瓦礫	瓦礫	瓦礫	瓦礫	-
774	M-14	高砂跡	(17.5)	(4.6)	14 瓦礫	瓦礫	瓦礫	瓦礫	-
775	M-15	高砂跡	(17.5)	(4.6)	14 瓦礫	瓦礫	瓦礫	瓦礫	-
776	M-16	高砂跡	(17.5)	(4.6)	14 瓦礫	瓦礫	瓦礫	瓦礫	-
777	M-17	高砂跡	(17.5)	(4.6)	14 瓦礫	瓦礫	瓦礫	瓦礫	-
778	J-1	高砂跡	(17.5)	(4.6)	14 瓦礫	瓦礫	瓦礫	瓦礫	-
779	J-2	高砂跡	(17.5)	(4.6)	14 瓦礫	瓦礫	瓦礫	瓦礫	-
780	J-3	高砂跡	(17.5)	(4.6)	14 瓦礫	瓦礫	瓦礫	瓦礫	-
781	J-4	高砂跡	(17.5)	(4.6)	14 瓦礫	瓦礫	瓦礫	瓦礫	-
782	J-5	高砂跡	(17.5)	(4.6)	14 瓦礫	瓦礫	瓦礫	瓦礫	-
783	J-6-1	高砂跡	(17.5)	(4.6)	14 瓦礫	瓦礫	瓦礫	瓦礫	-
783-2	J-6-2	高砂跡	(17.5)	(4.6)	14 瓦礫	瓦礫	瓦礫	瓦礫	-
784	K-1	高砂跡	(17.5)	(4.6)	14 瓦礫	瓦礫	瓦礫	瓦礫	-
785	K-2	高砂跡	(17.5)	(4.6)	14 瓦礫	瓦礫	瓦礫	瓦礫	-
786	K-3	高砂跡	(17.5)	(4.6)	14 瓦礫	瓦礫	瓦礫	瓦礫	-

通称	型番	種類	法	寸法 (mm)	内径	外径	底径	出 土 位 置	備考
767-1	K-3-1	陶器製湯瓶	-	(25.7)	32.10	鉄軸	-	江戸中石蔵込	-
767-2	K-4-2	陶器製湯瓶	(28.4)	(29.0)	39.40	鉄軸	-	江戸中石蔵込	-
768	Q-1	瓦質製	-	(33.3)	1.62	ナデ	交互分注器	重徳出土	-
769	K-1	土器製湯瓶	(6.8)	(4.5)	67	付一重口1 黒色磁理	交互	重徳出土	2分分注器
790	K-2	磁石	(33.0)	-	34	横ナデ	ヘナナデ	-	4分分注器
791	K-3	内耳	-	(17.2)	(2.0)	ナデ	ナデ	-	3分分注器
792	K-4	横ナデ	長 4.1	幅 3.5	1.5	1.8	横ナデ	-	日工既蔵込
793	S-1	磁石土製品	(24.0)	(21.6)	5.5	130	交互分注器	-	160
794-1	S-2-1	磁石土製品	(29.0)	(21.6)	6.5	154	横ナデ	交互分注器	470
794-2	S-2-2	磁石土製品	(29.0)	-	(5.5)	40	横ナデ	交互分注器	-
795	T-1	磁石土製品	-	(5.0)	(3.3)	22	横ナデ	交互分注器	-
796	T-2	磁石土製品	(3.1)	(3.1)	3.7	54	横ナデ	交互分注器	58
797	T-3	磁石土製品	(4.5)	(3.0)	1.1	22	横ナデ	交互分注器	-
798	T-4	磁石土製品	(8.2)	-	(6.8)	24	横ナデ	交互分注器	-
799	U-1	陶器行子	(12.0)	(10.8)	1.6	8	横ナデ	交互分注器	-
800	U-2	陶器行子	(8.4)	(7.2)	1.7	11	横ナデ	交互分注器	-
801	U-3	磁石	3.0	1.7	1.8	14	横ナデ	交互分注器	-
802	V-1	磁石	長 4.1	幅 2.0	3.6	22	横ナデ	交互分注器	74
803	W-1	磁石	長(9.0)	幅(3.8)	2.6	52	横ナデ	交互分注器	-
804-1	W-2-1	磁石	長(5.7)	幅(5.7)	1.3	17	横ナデ	交互分注器	-
804-2	W-2-2	磁石	8.7	6.7	1.8	72	横ナデ	交互分注器	58
805	W-3	磁石	(6.7)	(3.1)	2.0	21	横ナデ	交互分注器	-
806	X-1	陶器行子	(7.4)	-	(1.6)	4	横ナデ	交互分注器	14
807	X-2	陶器行子	(5.0)	(1.1)	6	横ナデ	交互分注器	CH北3層	-
808	X-3	陶器行子	(7.2)	(1.6)	6	横ナデ	交互分注器	CH北3層	-
809	X-4	陶器行子	(7.6)	(2.5)	8	横ナデ	交互分注器	CH北3層	-
810	X-5	陶器行子	(6.5)	(1.1)	17	横ナデ	交互分注器	CH北3層	-
811	X-6	磁石	-	(2.6)	9	六角形	交互分注器	CH北3層	-
812	X-7	磁石	-	(4.4)	15	六角形	交互分注器	CH北3層	-
813	X-8	磁石	-	(5.5)	42	六角形	交互分注器	CH北3層	-
814	X-9	磁石	(2.6)	-	(4.2)	15	六角形	交互分注器	-
815	Y-1	磁石	-	(3.6)	(2.3)	10	六角形	交互分注器	-
816	Z-1	陶器土管	(19.6)	-	(8.4)	296	鉄軸	交互分注器	304
817	AA-1	横ナデ	-	(11.7)	(2.7)	16	横ナデ	交互分注器	309
818	AA-2	横ナデ	-	(9.8)	(2.0)	24	横ナデ	交互分注器	-
819	AA-3	横ナデ	(15.4)	-	(5.3)	38	横ナデ	交互分注器	-
820	AA-4	横ナデ	(15.4)	-	(4.0)	41	横ナデ	交互分注器	-
821	AA-5	横ナデ	(18.2)	-	(9.2)	132	横ナデ	交互分注器	-
822	AA-6	横ナデ	(16.4)	-	(10.1)	82	横ナデ	交互分注器	-
823	AA-7	横ナデ	(11.9)	-	(4.5)	26	横ナデ	交互分注器	-

漢語	粵語	種類	法		類	音	義	出處	備考	注	義		類	音	義	出處	備考	
			長	短							長	短						長
854 BB1	巴風	動	01.48	03.0	2.9	292	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文
855 BB2	短	動	01.27	01.80	1.9	417	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文
856 BB3	短	動	06.80	02.0	2.6	140	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文
827 BB4	短	動	06.40	03.0	3.2	158	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文
829 BB5	短	動	08.7	09.9	3.5	207	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文
829 BB6	短	動	06.0	2.7	2.1	56	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文
830 BB7	短	動	03.00	03.0	2.4	204	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文
831 BB8	短	動	03.0	01.07	1.5	120	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文
832 BB9	短	動	06.0	04.0	2.5	170	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文
833 BB10	短	動	01.83	27.8	1.8	1120	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文
834 BB11	短	動	09.4	07.1	1.4	130	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文
835 BB12	短	動	01.61	01.21	1.6	365	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文
836 BB13	短	動	01.43	01.40	2.1	460	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文
837 BB14	短	動	06.5	04.7	2.3	259	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文
838 BB15	短	動	01.21	07.0	2.0	198	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文
839 BB16	短	動	01.43	02.7	02.0	180	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文
840 BB17	短	動	06.0	06.0	1.7	128	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文
841 BB18	短	動	01.00	01.37	2.0	308	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文
842 BB19	短	動	02.02	08.5	2.0	1130	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文
843 BB20	短	動	03.0	01.82	1.8	470	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文
844 BB24	短	動	06.50	1.8	2.0	37	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文
845 BB25	短	動	04.0	06.0	1.5	42	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文
846 BB26	短	動	08.0	06.0	3.5	174	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文
847 BB27	短	動	01.25	05.2	2.6	122	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文
848 BB28	短	動	06.0	07.0	3.5	124	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文
849 BB29	短	動	04.7	02.0	1.9	20	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文
850 BB30	短	動	01.65	01.3	0.7	62	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文
851 BB31	短	動	05.0	01.3	1.9	18	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文
852 BB32	短	動	06.0	01.0	2.0	28	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文
853 BB33	短	動	04.4	02.4	1.8	18	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文
854 BB34	短	動	01.07	10.1	1.9	43	500	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文	外
855 BB35	短	動	01.70	02.7	2.2	188	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文
856 BB36	短	動	08.0	03.0	3.2	92	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文
857 BB37	短	動	08.0	-	2.2	98	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文
858 BB39	短	動	08.8	-	03.5	257	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文
859 BB40	短	動	01.23	08.4	1.9	252	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文
860 BB41	短	動	01.44	01.0	1.5	458	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文
861 BB42	短	動	08.4	02.7	2.5	78	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文
862 BB43	短	動	08.4	02.7	2.5	78	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文	外	文

通番	整理番号	種類	法 規		出 土 位 置	考 考	出 土 位 置	通番	整理番号	種 類	法 規		注 記	考 考	出 土 位 置	
			長さ	幅							長さ	幅				
902	CC-1-1	瓦	14.5	0.6	0.5	45	戸門跡北口 重層出土	944	CC-17-2	不明	(14.0)	0.5	12	筒状	江戸・鎌倉期の空室跡分土層	
903	CC-1-2	膠土	(7.5)	1.0	1.0	28	戸門跡北口 重層出土	945	CC-18-1	丸桶	(11.0)	0.5	11	筒状	江戸・鎌倉期の空室跡分土層	
904	CC-1-3	網罟	(8.0)	(3.5)	1.9	76	戸門跡北口 重層出土	946	CC-18-12	土め器具	(3.2)	1.7	0.6	4		江戸・鎌倉期の空室跡分土層
905	CC-1-4	土目器具	5.2	4.8	0.5	79	戸門跡北口 重層出土	947	CC-19-1	瓦	(7.5)	1.0	0.5	17		江戸・鎌倉期の空室跡分土層
906	CC-1-5	網罟	7.3	3.0	0.4	69	戸門跡北口 重層出土	948	CC-19-1	瓦	(7.5)	1.0	0.5	3		江戸・鎌倉期の空室跡分土層
907	CC-1-6	瓦打石	15.0	1.1	3.4	24	戸門跡北口 重層出土	949	CC-20-1	南京錠	8.0	6.0	1.2	87		江戸・鎌倉期の空室跡分土層
908	CC-2-1	刀子	(5.5)	1.0	3.0	17	戸門跡北口 CH分土層	950	CC-20-2	網罟	11.8	3.5	0.5	13		江戸・鎌倉期の空室跡分土層
909	CC-2-2	網罟	(6.0)	(0.7)	0.2	2	戸門跡北口 CH分土層	951	CC-21	角釘	7.4	1.4	0.6	5		江戸・鎌倉期の空室跡分土層
910	CC-2-3	不明	(2.8)	(2.5)	(0.4)	4	3.5付着	952	CC-22	角釘	15.1	0.6	0.5	41	断面が平らに欠け	江戸・鎌倉期の空室跡分土層
911	CC-2-4	不明	(3.5)	(0.6)	(0.2)	2		953	CC-23	網罟	(10.4)	6.6	0.3	53		江戸・鎌倉期の空室跡分土層
912	CC-3-1	角釘	(4.0)	0.5	0.3	3	戸門跡北口 CH分土層	954	CC-24	学生刀	群 2.0	0.3	1		江戸・鎌倉期の空室跡分土層	
913	CC-3-2	網罟	(16.2)	1.5	0.3	94	戸門跡北口 CH分土層	955	CC-25	土め受け	(14.0)	0.9	0.3	22		江戸・鎌倉期の空室跡分土層
914	CC-3-3	遺棄物	12.0	1.5	1.5	104	戸門跡北口 CH分土層	956	CC-26	土め受け	55.8	0.9	0.7	92		江戸・鎌倉期の空室跡分土層
915	CC-4	桶の底付	(39.5)	1.1	0.3	233	戸門跡北口 西土層	957	CC-27	角釘	(0.7)	0.3	0.5	6		江戸・鎌倉期の空室跡分土層
916	CC-5	角釘	(5.5)	0.8	0.4	2	戸門跡北口 西土層	958	CC-28-1	丸釘	5.6	0.7	2		江戸・鎌倉期の空室跡分土層	
917	CC-6	角釘	(14.0)	0.3	0.3	9	戸門跡北口 西土層	959	CC-28-2	丸釘	3.0	0.5	1		江戸・鎌倉期の空室跡分土層	
918	CC-7-1	網罟	(18.0)	2.2	0.9	199	戸門跡北口 CH分土層	960	CC-28-3	角釘	(3.5)	3.5	0.1	5		江戸・鎌倉期の空室跡分土層
919	CC-7-2	平土層の裏	(3.0)	1.5	0.1	3	戸門跡北口 CH分土層	961	CC-29	丸釘	(4.5)	0.7	2		江戸・鎌倉期の空室跡分土層	
920	CC-8-1	丸釘	(12.5)	1.1	0.3	16	戸門跡北口 西土層	962	CC-30	網罟	(6.5)	(6.0)	0.1	24		江戸・鎌倉期の空室跡分土層
921	CC-8-2	丸釘	(12.5)	0.5	1.5	15	戸門跡北口 西土層	963	CC-31-1	丸釘	7.4	0.9	5		江戸・鎌倉期の空室跡分土層	
922	CC-8-3	丸釘	(10.1)	0.8	1.0	10	戸門跡北口 西土層	964	CC-31-2	土め器具	2.9	1.7	0.6	2		江戸・鎌倉期の空室跡分土層
923	CC-8-4	丸釘	(9.7)	0.4	8	戸門跡北口 西土層	965	CC-32	アルミ製品	3.4	6.0	2.9	12		江戸・鎌倉期の空室跡分土層	
924	CC-8-5	丸釘	9.0	0.7	7	戸門跡北口 西土層	966	CC-33	封金	(4.5)	0.5	5		おにじりかてん	江戸・鎌倉期の空室跡分土層	
925	CC-8-6	丸釘	(8.6)	0.8	7	戸門跡北口 西土層	967	CC-34	丸釘	(9.0)	0.9	10		江戸・鎌倉期の空室跡分土層		
926	CC-8-7	丸釘	6.5	0.5	3	戸門跡北口 西土層	968-1	CC-35	網罟	(9.0)	(6.2)	0.6	9	ストーブの裏	江戸・鎌倉期の空室跡分土層	
927	CC-8-8	丸釘	(4.4)	0.7	1	戸門跡北口 西土層	968-2	CC-36	網罟	(14.7)	(5.0)	1.0	272	ストーブの裏	江戸・鎌倉期の空室跡分土層	
928	CC-8-9	丸釘	3.7	0.3	1	戸門跡北口 西土層	969	CC-37	網罟	(9.0)	(7.6)	3.0	66		江戸・鎌倉期の空室跡分土層	
929	CC-8-10	土目器具	3.9	3.9	0.4	32	戸門跡北口 西土層	970	CC-38-1	網罟	(9.0)	(8.7)	2.0	39		江戸・鎌倉期の空室跡分土層
930	CC-9-1	丸釘	4.4	0.5	6	戸門跡北口 西土層	971	CC-38-2	網罟	(10.3)	(5.0)	3.2	17		江戸・鎌倉期の空室跡分土層	
931	CC-9-2	丸釘	4.4	0.4	1	戸門跡北口 西土層	972	CC-39	刀子	(9.0)	(1.3)	0.3	9		江戸・鎌倉期の空室跡分土層	
932	CC-10-1	網罟	1.5	1.8	1.8	23	江戸・鎌倉期の空室跡分土層	973	CC-40-1	網罟	(5.2)	(2.1)	0.2	4		江戸・鎌倉期の空室跡分土層
933	CC-10-2	学生刀	群 2.0	0.4	1	江戸・鎌倉期の空室跡分土層	974	CC-40-2	土目器具	6.0	2.2	70		六角のじりボルト	江戸・鎌倉期の空室跡分土層	
934	CC-10-3	土め器具	4.0	2.0	0.4	6	江戸・鎌倉期の空室跡分土層	975	CC-41-1	丸釘	(5.5)	(0.4)	(0.4)	3	扉部欠損	江戸・鎌倉期の空室跡分土層
935	CC-11	網罟	8.0	0.5	0.4	6	江戸・鎌倉期の空室跡分土層	976	CC-41-2	角釘	6.7	0.8	0.5	5		江戸・鎌倉期の空室跡分土層
936	CC-12	網罟	(20.5)	2.8	0.3	97	江戸・鎌倉期の空室跡分土層	977	CC-41-3	丸釘	6.7	0.6	2		江戸・鎌倉期の空室跡分土層	
937	CC-13-1	角釘	(5.0)	0.4	0.2	4	江戸・鎌倉期の空室跡分土層	978	CC-41-4	丸釘	6.3	0.5	3		江戸・鎌倉期の空室跡分土層	
938	CC-13-2	土め器具	群 2.1	0.3	1	アルミ製	979	CC-41-5	丸釘	5.9	0.6	1		江戸・鎌倉期の空室跡分土層		
939	CC-14	網罟	4.8	0.3	0.3	8	西土層	980	CC-41-6	丸釘	3.9	0.4	1		江戸・鎌倉期の空室跡分土層	
940	CC-15	ワッシャー	群 1.3	0.01	0.2	アルミ製	981	CC-41-7	網罟	7.5	0.15	2		江戸・鎌倉期の空室跡分土層		
941	CC-16-1	土め器具	3.2	1.8	0.5	5	江戸・鎌倉期の空室跡分土層	982	CC-41-8	ワッシャー	群 3.0	0.6	2		江戸・鎌倉期の空室跡分土層	
942	CC-16-2	土め器具	群 3.0	0.9	3	鉄製	983	CC-42	丸釘	15.0	1.0	24		江戸・鎌倉期の空室跡分土層		
943	CC-17-1	丸釘	(6.5)	0.4	5		984	CC-53-1	丸釘	4.8	0.4	1		江戸・鎌倉期の空室跡分土層		

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第216集

龍岡城跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

2014年3月

編集・発行 佐久市教育委員会
〒385-8501 長野県佐久市中込 3056
社会教育部 文化財課
〒385-0006 長野県佐久市志賀 5953
TEL 0267-68-7321
印刷所 キクハラインク有限公司

報告書抄録

ふりがな	たつおかじょうせき いち・に・さん・よん		
書名	龍岡城跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ		
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書 第216集		
編著者名	森泉かよ子		
編集機関	佐久市教育委員会		
発行年月日	201403		
郵便番号	3850006		
電話番号	0267-68-7321		
住所	長野県佐久市志賀5953		
ふりがな	たつおかじょうせき		
遺跡名	龍岡城跡		
ふりがな	ながのけんさくしたぐち		
遺跡所在地	長野県佐久市田口		
遺跡番号	佐久市 779		
北緯	36° - 19' - 60" (世界測地系)		
東経	138° - 50' - 15" (世界測地系)		
	調査期間	調査面積	調査原因
龍岡城跡Ⅰ	20051120-20080318	170㎡	穴門排水口修復
龍岡城跡Ⅱ	20070914-20080304	2000㎡	プール撤去
龍岡城跡Ⅲ	20081104-20110314	200㎡	石垣解体修復
龍岡城跡Ⅳ	20081201-20090324	172㎡	市道改良舗装工事
種別	近世城郭		
主な時代	近世		
遺跡の概要	城郭-近世-陶磁器+瓦-近代-陶磁器+土器+瓦+鉄製品 +プラスチック製品+ガラス+ガラス製品+石製品+木		

